図面目録

番号	図面名称	縮尺	番号	図面名称	縮尺
Ａ－０	付近見取図	1/2500	Ｓ－１	構造細目共通図（複合構造物）（１）	NONE
Ａ－１	配置図	1/200	Ｓ－２	構造細目共通図（複合構造物）（２）	NONE
Ａ－２	敷地求積図	1/200	Ｓ－３	構造細目共通図（複合構造物）（３）	NONE
Ａ－３	特記仕様書（１）	NONE	Ｓ－４	構造細目共通図（複合構造物）（４）	NONE
Ａ－４	特記仕様書（２）	NONE	Ｓ－５	構造細目共通図（複合構造物）（５）	NONE
Ａ－５	特記仕様書（３）	NONE	Ｓ－６	構造細目共通図（複合構造物）（６）	NONE
Ａ－６	特記仕様書（４）	NONE	Ｓ－７	構造細目共通図（複合構造物）（７）	NONE
Ａ－７	工事区分表	NONE	Ｓ－８	構造細目共通図（複合構造物）（８）	NONE
Ａ－８	求積面積図	1/200	Ｓ－９	構造細目共通図（複合構造物）（９）	NONE
Ａ－９	部屋別求積面積表	1/200	Ｓ－１０	構造細目共通図（複合構造物）（１０）	NONE
Ａ－１０	仕上表	NONE	Ｓ－１１	構造細目共通図（複合構造物）（１１）	NONE
Ａ－１１	平面図	1/200	Ｓ－１２	構造細目共通図（複合構造物）（１２）	NONE
Ａ－１２	立面図	1/200	Ｓ－１３	床荷重図	1/200
Ａ－１３	断面図	1/200	Ｓ－１４	土質柱状図	1/200
Ａ－１４	矩計図	1/100	Ｓ－１５	伏図	1/200
Ａ－１５	階段詳細図	1/100	Ｓ－１６	軸組図	1/200
Ａ－１６	水路階平面詳細図	1/60	Ｓ－１７	柱リスト	1/100･200
Ａ－１７	Ｂ１階平面詳細図	1/60	Ｓ－１８	部材リスト（土木）	1/100
Ａ－１８	水路部断面詳細図	1/60	Ｓ－１９	部材リスト（建築）	1/100
Ａ－１９	雑詳細図（１）（土木工事）	図示	Ｓ－２０	Ａ通り架構配筋図	1/100
Ａ－２０	雑詳細図（２）（土木工事）	図示	Ｓ－２１	階段配筋図・雑配筋図	1/100
Ａ－２１	１階・２階平面詳細図	1/40･100	Ｓ－２２	ホイストレール取付詳細図	1/40･200
Ａ－２２	雑詳細図（建築工事）	図示			
Ａ－２３	天井伏図	1/200			
Ａ－２４	建具キープラン・建具廻り詳細図	1/200			
Ａ－２５	建具表	1/100			
Ａ－２６	穴明け図	1/200			
Ａ－２７	（参考）仮設道路工平面図	1/400			
Ａ－２８	（参考）敷鉄板敷設図	1/400			

上波木橋
了信寺
児童公園
波木町公民館
宮橋
波木新町公園
笹川スポーツクラブ
波木南台1号公園
波木汚水中継ポンプ場
波木南台三丁目
市立内部中学校
プール
波木橋
主要地方道四日市鈴鹿環状
波木町

事業名	令和 3年度 公共下水道事業		
工事名	波木汚水中継ポンプ場上屋建築工事		
工事場所	四日市市　波木町 地内		
名称	付近見取図		
縮尺	ーーー	設計年月日	令和　年　月　日
工種		設計者	
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	A－0

配置図

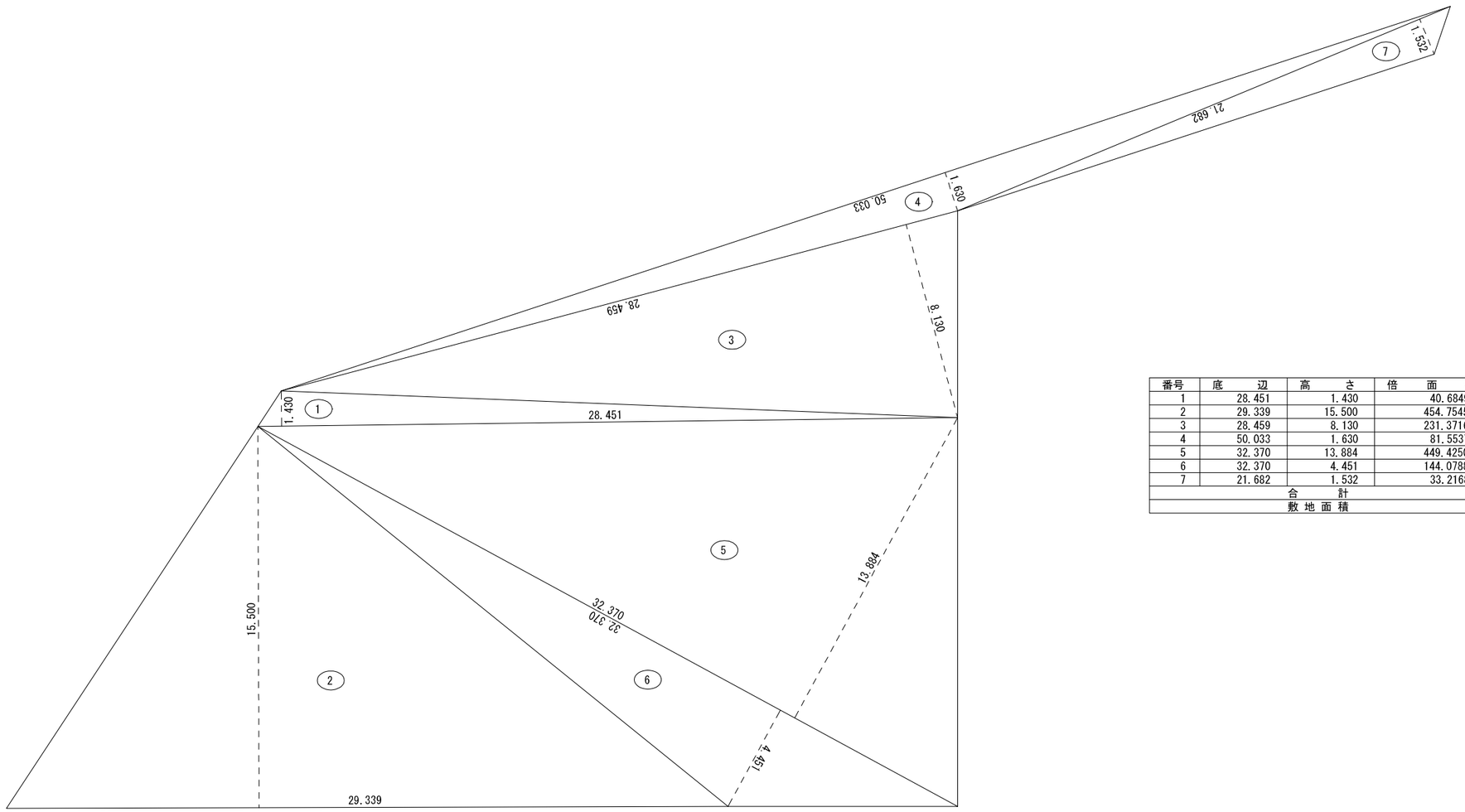
S=1/200

申請建築物

880-3

※建築基準法施行令第１２８条における敷地内通路1.5ｍを確保した。
※［二二二］・・・都市計画決定範囲を示す。

事業名	令和３年度 公共下水道事業		
工事名	波木汚水中継ポンプ場上屋建築工事		
工事場所	四日市市　波木町　地内		
名称	配置図		
縮尺	1/200	設計年月日	令和　年　月　日
工種		設計者	
事業主体	四日市市上下水道局	図面番号	A－1



番号	底　　辺	高　　さ	倍　　面　　積	面　　積
1	28.451	1.430	40.684930	20.3424650
2	29.339	15.500	454.754500	227.3772500
3	28.459	8.130	231.371670	115.6858350
4	50.033	1.630	81.553790	40.7768950
5	32.370	13.884	449.425080	224.7125400
6	32.370	4.451	144.078870	72.0394350
7	21.682	1.532	33.216824	16.6084120
合　　計				717.5428320
敷 地 面 積				717.54 ㎡

事 業 名	令和３年度 公共下水道事業		
工 事 名	波木汚水中継ポンプ場上屋建築工事		
工事場所	四日市市　波木町 地内		
名　　称	敷地求積図		
縮　　尺	1/200	設計年月日	令和　年　月　日
工　　種		設 計 者	
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	A－2

波木汚水中継ポンプ場新築工事特記仕様書

総　　則

工　事　概　要　　1．工事場所　　三重県四日市市波木町地内
　　2．工事種目　　中継ポンプ場新設工事
　　3．別途工事　　プラント機械設備工事・プラント電気設備工事

1．共通仕様
（1）図面及び特記仕様に記載されてない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築工事標準仕様書（平成31年版）」(以下「標仕」という。)による。

2．特記仕様
（1）項目は、○印の付いたものを適用する。
（2）特記事項は、⊙印の付いたものを適用する。
⊙印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。
⊙印と⊗印の付いた場合は、共に適用する。
（3）特記事項に記載の（．．）内表示番号は、標仕の当該項目、当該図又は当該表を示す。
（4）特記事項に記載の(別．．)は、(5.3.7)による別図「各部配筋」の当該項目を示す。

部分完成　　⊙無　・有（　　）

部分引渡し　　⊙無　・有（　　）

1．保険及び保証　　⊙建築工事保険　　(保険証の写しを提出)
⊙請負業者賠償責任保険　　(保険証の写しを提出)
（　・管理財物担保特約に加入のこと）

2．建設共済等　　⊙法定外労災補償制度　　(加入証明書の写しを提出)
⊙建設業退職金共済制度　当初請負金額が500万円以上の場合は、掛金収納書を提出すること。また、増額の契約変更があった場合についても、その分を提出すること。 共済証紙購入額　請負金額の1/1000以上
なお、他の退職金制度に加入している等、共済証紙を購入する必要がない場合は、理由書の提出をもって共済証紙の購入を不要とする

※資材の購入及び下請け業者の選定に際しての留意事項
資材の購入及び工事の一部を下請け業者にて施工する場合、業者の選定に際しては、出来る限り市内業者を優先させること。

章	項　　目	特　　記　　事　　項
1章 一般共通事項	①適用基準等	※建築工事標準詳細図　(国土交通省大臣官房官庁営繕部監修　平成 28 年版) ※工事写真撮影ガイドブック 建築工事編及び解体工事編 (国土交通省大臣官房官庁営繕部監修　平成 30 年版)
	②工事実績情報の登録	※請負金額が500万以上は登録の手続きを行うこと。 (1.1.4)
	③品質計画	※建築基準法に基づく風圧区分等を必要とする場合は次による。 (1.2.2) 風速（Vo）＝34 m毎秒 地表面粗度　※Ⅲ (Zb=5 Zg=450 α=0.20) ・Ⅱ (Zb=5 Zg=350 α=0.15) 積雪区分　・30 cm　・40 cm　・
	④電気保安技術者	⊙適用する　・適用しない (1.3.3) 事業用電気工作物に係る工事の電気保安技術者は、その電気工作物の工事に必要な電気主任技術者の資格を有する者又はこれと同等の知識及び経験を有する者とする 一般電気工作物に係る工事の電気保安技術者は、第一種又は第二種電気工事士の資格を有する者とする
	⑤施工条件	⊙工事用車両の駐車場及び資機材置場　※敷地内　・ (1.3.5) ⊙現場工事は月～金とし、土、日、祝日に作業を行う場合は、監督職員の承諾を得ること。 ⊙施工作業時間は原則8:30～17:00とすること。清掃片付け等は18:00までとすること。 ⊙施工に際しては、工程及び施工内容について施設管理者と綿密な調整を行うこと。 ⊙工事に関わる法令手続きは受注者にて行うこと。手続きに係る手数料は受注者の負担とする。 ⊙仮囲い等については周辺住民等の安全上、使用上支障がないように計画し、維持管理に努めること。 ⊙工程計画については、関係者等と十分に調整を行った上で進めること。 ⊙敷材の搬出入は第三者の安全に留意して、災害及び事故の防止に努めること。 ⊙大型車両通行時には、誘導員等を配置し、安全確保に努めること。 ⊙足場を60日以上設置する場合は、着手の30日前までに、設置届を所管官庁へ提出すること。 ⊙道路の汚損がないように努めると共に、汚損した場合は直ちに清掃を行うこと。 ⊙既設構造物を汚損した場合は、受注者負担にて補修等を行うこと。 ⊙工事により発生する残土や廃材、汚泥等は適切処理を行うこと。また、窯場を設け、敷地外への泥水の流出を防止すること。 ⊙振動、騒音、ほこりのでる作業やその他について、事前に施設管理者及び近隣施設等と調整を行うこと。 ⊙工事期間中は、近隣住民の安全確保に努めること。 ⊙工事着手前に周辺住民への工事説明会が開催される場合は資料作成等に協力すること。 ・同一敷地内での別途工事について、協議に応じること。 ・2020/　/　～　/　/　は工事を行わないこと。 ・現場着手は11月15日以降とする。 ・工事期間は、　/　～　/　とする。尚、　/　～工事担当確認後事前使用を行うこととする。
	⑥発生材の処理等	・引渡しを要するもの（　　）(1.3.11) ・特定建設資材の搬出 再資源化等を行う（再資源化が困難な場合には縮減） ・特定建設資材以外の搬出 構外搬出適切処理 ・特別管理産業廃棄物　（・無　・有　　） 処理方法（　　） ※　廃棄物管理票（マニフェスト）確認表を作成し、監督職員にＡ票及びＤ票もしくはＥ票の確認を受けるものとする。ただし、電子情報処理組織に登録（電子マニフェスト）により確認を行う場合は、この限りではない。
	⑦交通安全管理	交通誘導員　※配置する　名以上（大型車の出入は必ず）　・配置しない (1.3.8)
	8 建築材料等	※本工事に使用する材料等のうち、特定のものが特記された場合は、設計図書に規定するもの又は、これらと同等のものとする。ただし同等のものとする場合は、監督職員の承諾を受ける。 ・品質及び性能を試験により証明する材料は以下の物とする。 (1.4.5) （　　）
	⑨化学物質を発散する建築材料等	本工事に使用する建築材料等は、設計図書に規定する所要の品質及び性能を有するものとし、次の 1) から 5) を満たすものとする。 1) 合板、木質系フローリング、構造用パネル，集成材、単板積層材、パーティクルボード、ＭＤＦ、その他木質建材、ユリア樹脂板及び仕上げ塗料は、ホルムアルデヒドを発散しないか、発散が極めて少ないものとする。 2) 保温材、緩衝材、断熱材はホルムアルデヒド及びスチレンを発散しないか、発散が極めて少ないものとする。 3) 接着剤は、フタル酸ジ-n-ブチル及びフタル酸ジ-2-エチルヘキシルを含有しない難揮発性の可塑剤を使用し、ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド、トルエンキシレン、エチルベンゼンを発散しないか、発散が極めて少ないものとする。 4) 塗料はホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼンを発散しないか、発散が極めて少ないものとする。 5) 1)及び 4)の建築材料等を使用して作られた家具、書架、実験台、その他の什器等は、ホルムアルデヒドを発散しないか、発散が極めて少ないものとする。 また、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」は、次のとおりとする。 規制対象外 ①ＪＩＳ及びＪＡＳのＦ☆☆☆規格品 ②建築基準法施行令第２０条の７第４項による国土交通大臣認定品 ③下記表示のあるＪＡＳ規格品 a. 非ホルムアルデヒド系接着剤使用 b. 接着剤等不使用 c. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない材料使用 d. ホルムアルデヒドを放散しない塗料等使用 e. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料使用 f. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料等使用 第三種 ①ＪＩＳ及びＪＡＳのＦ☆☆☆規格品 ②建築基準法施行令第２０条の7第３項による国土交通大臣認定品 ③旧ＪＩＳのＥ0規格品 ④旧ＪＡＳのＦco規格品
	10 特別な材料の工法	標仕に記載されていない特別な材料の工法は当該製品の指定工法による。
	⑪技能士	⊗適用する　・適用しない (1.5.2) ⊙鉄筋施工　⊙型枠施工　・鉄工　・石材施工　・ＡＬＣパネル施工 ⊗防水施工　・タイル張り　・建築大工　・建築板金　⊙左官 ⊙塗装　⊙建具製作　⊙サッシ施工　⊙内装仕上げ施工　・造園
	⑫施工の立ち会い等	下記事項は監督職員の立会検査を受けなければならない。 (1.5.7) ・杭打作業中　・鉄骨製品検査 ・鉄骨溶接、高力ボルト締め完了時　⊙基礎及び各階コンクリート打設時 ⊙基礎及び各階配筋完了時　⊙防水層の施工 ・組積の時　⊙仕上検査（監督職員の指示による） ⊙材料検査（監督職員の指示による）　⊙完成確認（中間完成を含む） ⊙製品検査（監督職員の指示による）　⊙ベンチマーク ⊙竣工後の検査が困難な工事については随時監督職員の立会検査を受ける。
	13 化学物質の濃度測定	(1.5.9) 施行完了時に室内空気中のホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼン パラジクロロベンゼン、スチレンの濃度を測定し報告すること。 測定は、パッシブ型採集機器により行う。 着工前測定　・行う　・行わない 測定対象室　・図示　・ 測定箇所数　・図示　・ 採取方法　・文部科学省の定めるところによる。　・ 報告書の様式　濃度測定記録表の記載事項は、次のとおり 1. 工事名　2. 測定年月日　3. 天候 4. 測定前の換気及び閉鎖時間　5. 測定時間 6. 室名と測定時間　7. 測定器具 8. 化学物質採取方法　9. 分析装置
	⑭完成図等	⊙作成する　・作成しない (1.7.1～3)(表1.7.1) 種類　⊗標仕 表1.7.1による　・ ・配置図及び案内図　・各階平面図 ・各立面図　・断面図 ・仕上表　・施工図 ・施工計画書　・ ⊗ＣＡＤデータの提出　⊗提出する　・提出しない ・保全に関する資料　提出部数　※２部　・
	⑮記録	工事記録については下記による。(A4版) ⊗以下一式（工事写真の撮り方 建築編 に準拠する） ⊗工事着工前　１部 ⊗工程写真　各工程毎　１部 ⊗竣工写真　・手札版　(　)部 ・カラーキャビネ版　(　)部 ・専門家撮影、アルバム編集の上提出　(　)部 ・電子データとし、ＣＤ-Ｒにて提出　(　)部 ⊗工事の各記録写真については、デジタル画像にて整備編集を行うように努めること。 ・監督職員の指示による ⊗工事日報・納品伝票等の写しは、監督職員が提出を求めた場合は提出こと。
	16 現況復旧	工事施工に際し、在来部分を汚損した場合又は損傷した場合は、構造・仕上げとも在来にならい補修する。
	⑰設備工事との取合い	設備機器の位置、取り合い等の検討できる施工図を提出して、監督職員の承諾を受ける。 施工範囲 ⊙図示した鉄筋コンクリート部の貫通孔・開口部の型枠及びそれらの補強 ⊙図示した壁、天井の仕上材、下地材の切込み及び下地材の補強 ・駆動装置が電動による建具類の２次配線及び操作スイッチ ・自動閉鎖装置取付け箇所の切込み及び補強 ・
	⑱設計ＧＬ	⊙図示のベンチマーク（Ｂ．Ｍ）　２３．８７０ ㎜（現状地盤はＢ．Ｍ　　㎜） ・現状地盤（監督職員の指示による）
	⑲社内検査報告書	工事完成(部分完成を含む)時には、社内検査を実施し、その報告書を監督職員に提出する。
	⑳完成引渡し後の点検	かし期間は、別に定めた特約（責任施工による保証期間など）を除き、四日市市工事請負契約書に準拠する。 ⊙工事完成引渡し後、必要に応じて一年又は二年を越えない範囲の適当な時期に、双方立ち会いで工事目的の物のかし点検を実施する。
	㉑随時検査	予定価格(税込)3,000万円以上の工事は、四日市市検査規程第8条第6項の規定により、発注者が随時検査を求めた場合、監督職員の指示に従い受検すること。
	㉒施工体制台帳の提出	公共工事の入札及び契約の適正化の促進に関する法律の定めにより、施工体制台帳の写しを提出すること。なお、警備業者についても記載すべき下請負人の範囲に含むものとする。
2章 仮設工事	①監督職員事務所	⊙設ける。（規模・備品等の設置は以下による）　・設けない (2.3.1) （・規模　　㎡程度　・仕上げ：床　、壁　、天井　　程度）
	②工事用水	構内既存の施設　・利用できる（・有償　・無償）　⊙利用できない
	③工事用電力	構内既存の施設　・利用できる（・有償　・無償）　⊙利用できない
	④仮設便所	⊙吸取式　・水洗式
	⑤足場	⊗手すり先行工法　くさび緊結式足場 (2.2.4) 防護シートによる養生　⊗行う（⊙ﾒｯｼｭｼｰﾄ　・防音ｼｰﾄ　）　・行わない
3章 土工事	①災害及び公害の防止	(3.1.3) ※「低騒音型・低振動型建設機械指定要領」に基づき指定された建設機械を使用する。
	②根切り	工事に先立ち必要と思われる埋設物等の調査を行う。 (3.2.1)
	③埋め戻し及び盛土	種別 (3.2.3)(表3.2.1.) ・Ａ種　・Ｂ種　・Ｃ種　・Ｄ種 建設発生土受け入れ量　　㎥ 発生場所（　　）
	④建設発生土の処理	⊗構外搬出適切処理 (3.2.5) ・構内指示の場所に敷き均し ・構内指示の場所にたい積（　　） ・構外指示の場所に処分　搬出調書等を提出する。 受入れ施設名・場所　（　　） 仮置場所　（　　） ⊗建設発生土（50m3以上）を搬出する場合は、書面にて処分地の報告(位置図等)を行うこと。また、処分地が民有地の場合、土地所有者からの建設発生土受入承諾書の写しを提出すること。
4章 地業工事	1. 適用基準	本特記事項に個別に記載の適用基準に加え、以下の基準を適用する。 国土交通省告示第468号　「基礎ぐい工事の適正な施工を確保するために講ずべき措置」（平成28年3月4日）
	2. 施工記録	受注者は、杭の施工期間中は、1週間ごとに、その週に施工した杭の施工記録をとりまとめ、翌週以内に監督職員に、工事打合せ簿を添付したうえで提出し、確認を受けること。 また電流値が記録されたチャート紙等の原本を合わせて提示し、必ず監督職員の確認を受けること。 なお、取得すべき施工記録が取得できない場合に、当該施工記録に代替する記録を確保するための手法については、施工計画書に明記しておくこと。
	3. 根拠資料	共通仕様書、特記仕様書及びその他基準書等の定めにより作成した施工管理資料の根拠となる資料(施工記録の原本、チャート紙、電子的な記録やプリントアウト紙等)は、受注者においては全て適切に管理し、保管しなければならない。 保管期間は契約書第31条第4項又は第5項(第38条においてこれらの規定を準用する場合を含む)の規定による引渡しを受けた日から10年とする。 また、発注者から請求があった場合は、速やかにこれらを提出または提示しなければならない
	4 試験及び報告書	・試験杭　※図示による。　・本数　本　寸法　m (4.2.2) ・杭の載荷試験　※行う　・行わない (4.2.3) ※試験杭の位置、本数、載荷荷重、試験方法、報告書の記載事項は図示による。 ・ ・地盤の載荷試験　※行う　・行わない (4.2.4) ※試験杭の位置、載荷荷重、試験方法、報告書の記載事項は図示による。 ・
	5 既製コンクリート杭地業	種類 (4.3.1)(4.3.3) ※高強度プレストレストコンクリート杭　・JIS規格品 ・認定品(建築基準法) 杭径(mm) / 杭長(m)及び種別 / 継手数 / セット数 / 備考 先端部形状　※開放形　・閉そく平たん形 (4.3.3) 杭の継手　・アーク溶接　・無溶接 (4.3.6)(4.3.7) 施工法 (4.3.4)(4.3.5) ・特定埋込杭工法 工法　・プレボーリング拡大根固め工法　・中堀拡大根固め工法 H13国交告1113号第6号による支持力算定式でα＝250程度を採用できる工法 杭周固定液　・使用する 根入れ深さ　・1m以上　・（　　） 杭の水平方向の位置ずれの精度　※100mm以下　・（　　） ・セメントミルク工法 試験掘 ※行う　（　　ヶ所） 掘削深さ　・1.5m程度　・（　　） 根入れ深さ　・1m以上　・（　　） 杭の水平方向の位置ずれの精度　※100mm以下　・（　　）
	6 場所打ちコンクリート杭地業	コンクリートの設計基準強度 、種別 (4.5.4)(表4.5.1) （・　　N/mm²）(・Ａ種　・Ｂ種　・図示による) セメントの種類　６章コンクリート工事のセメントの種類による 構造体コンクリートの強度と供試体の強度の差を考慮した割増は　　N/mm²
5章 鉄筋工事		鉄筋の種別　５章鉄筋工事の鉄筋の種類による (4.5.4) 鉄筋のかぶり厚さ（㎜）　※100 掘削工法　・ (4.5.5)(4.5.6) 根入れ深さ　・1m以上　・（　　） 杭の水平方向の位置ずれの精度　・　mm以下　・（　　） 孔壁の超音波測定器による確認　・行う　・行わない
	⑦割り石，砂，砂利，捨コンクリート地業	⊙砂利地業　厚さ（㎜）　・60　⊙図示による (4.6.3) ※再生クラッシャラン（40～0）　・切込み砕石 ⊙捨コンクリート地業　厚さ（㎜）　・50　⊙図示による (4.6.4) ・床下防湿層　ポリエチレンフィルム　厚 0.15mm (4.6.5) 施工場所　※建物内の土間スラブ及び土間コンクリート下(ピット下を除く)
	①鉄筋の種類	(5.2.1)(表5.2.1) 種類の記号 / 呼び名（㎜） ⊙ＳＤ295Ａ / ※ Ｄ16以下 ⊙ＳＤ345 / ※ Ｄ19以上
	②溶接金網	網目の形状　(⊗正方形　・　) (5.2.2) 鉄線の径　（　６　）㎜　寸法（　１００×１００　）
	③材料試験	※JIS規格品については径の異なるごとに２ｔ未満の場合は規格証明書の提出を省略することができる。 (5.2.3)
	④継手及び定着	鉄筋の継手方法 (5.3.4) ※径Ｄ19mm以上の柱、梁の主筋はガス圧接、その他は重ね継手 ・重ね継手 ・柱、はり主筋のかさね継手長さ　（　　） 定着 ※表５．３．４による。ただし、設計図書にて別記のあるものは設計図書による。
	5 耐久上不利な箇所等の鉄筋のかぶり厚	・耐久性上不利な箇所の鉄筋の最小かぶり厚さは下記による。 (5.3.5) 施工箇所等 / 最小かぶり厚さ（㎜）
	⑥各部配筋	各部配筋参考図１節[基礎及び基礎梁の配筋]から７節[梁貫通孔及びその他の配筋]に準じる (5.3.7)
	7 杭頭の補強方法	・Ａ形　・Ｂ形　※図 示 (別図1.1)
	⑧帯筋	帯筋の形状 (別図2.2) ⊙Ｈ形　・Ｗ－Ｉ形　※ＳＰ形（スパイラル筋）　・丸 形
	9 ハンチの傾斜	・ハンチの傾斜　（※１：４　・　） (別図3.1)
	⑩壁開口部補強の種別	一般型　（　・Ａ形　※Ｂ形　・図示　） (別図4.2) 耐震壁　（　※図示　）
	11 はり貫通孔の補強	補強形式　・Ｈ 形　・Ｍ 形　・ＭＨ形　・図 示 (別図7.1)(表7.1～3) ・既製型　（建設技術評価規定において評価を取得したもの又は、(財)日本建築センターの評価を取得した製品）
	12 機械吊上げ用フック	
	⑬圧接完了後の検査	検査方法　・引張試験　※超音波探傷試験 (5.4.3)(5.4.10)
6章 コンクリート工事	①コンクリートの種類	種別 ※Ⅰ類　・Ⅱ類 (6.2.1)(6.4.1)(6.4.3)(表6.2.1) 普通コンクリートの気乾単位容積質量　⊙2.1t/m³を超え2.5t/m³以下　・ (6.2.3) 仕上りの平たんさ種別　・ａ種　・ｂ種　・ｃ種 (6.2.5)(表6.2.5)
	②設計基準強度	普通コンクリート (6.2.2) 設計基準強度Ｆc(N/mm²) / 施 工 箇 所 ※ 21 / ⊙ 24 /
	③セメントの種別	※普通ポルトランドセメント又は混合セメントのＡ種 (6.3.1)(6.13.2)(表6.3.1) ・高炉セメントＢ種　・フライアッシュセメントＢ種 ・早強ポルトランドセメント　・普通エコセメント
	④骨材の種類	アルカリシリカ反応による区分　※Ａ (6.3.1)(6.5.4) フェロニッケルスラグ細骨材等　※使用しない　・使用（部位：　）
	⑤混和材料	※混和剤は、JIS A 6204（コンクリート用化学混和剤）によるＡＥ剤、ＡＥ減水剤又は高性能ＡＥ減水剤とする。 (6.3.1)(6.3.2) ・混和材　※フライアッシュ(JIS A 6201)
	⑥調合管理強度	構造体強度補正値（Ｓ） (6.3.2)(表6.3.2)(6.12.2) （普通ポルトランドセメント） 打　設　期　間 / 補正値(N/mm²) / 備　考 3/ 1～7/9　9/ 9～11/23 / 3.0 / 11/24～2/28 / 6.0 / 7/10～9/ 8 / 6.0 / 暑中コンクリート

※提出書類はＡ４版とする。

※産業廃棄物税
本工事には産業廃棄物税相当分が計上されていないため、請負者が本工事により生じた産業廃棄物が、課税対象となった場合には、翌年度に産業廃棄物税納税証明書等を添付して、本工事により生じた産業廃棄物税相当分を請求することができる。

※暴力団等不当介入に関する事項
１．契約の解除
四日市市の締結する契約等からの暴力団等排除措置要綱（平成20年四日市市告示第28号）第３条又は第４条の規定により、四日市市建設工事等入札参加資格停止基準に基づく入札参加資格停止措置を受けたときは、契約を解除することがある。

２．暴力団等による不当介入を受けたときの義務
（１）不当介入には、断固拒否するとともに、速やかに警察へ通報並びに業務発注所属へ報告し、警察への捜査協力を行うこと。
（２）契約の履行において、不当介入を受けたことにより、業務遂行に支障が生じたり、納期等に遅れが生じるおそれがあるときには、業務発注所属と協議を行うこと。
（３）(1)(2)の義務を怠ったときは、四日市市建設工事等入札参加資格停止基準に基づく入札参加資格停止等の措置を講ずる。

事業名	令和３年度 公共下水道事業		
工事名	波木汚水中継ポンプ場上屋建築工事		
工事場所	四日市市　波木町 地内		
名　称	特記仕様書（１）		
縮　尺	---	設計年月日	令和　年　月　日
工　種		設 計 者	
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	Ａ－３

6章 コンクリート工事

⑦ 型枠

外部に面するコンクリート打ち放し仕上げの打増し　・20　※図示　(6.8.1)
打ち継ぎ目地　※幅 20×深さ 10　・図示　(6.6.4)(9.7.3)
ひび割れ誘発目地　※幅 20×深さ 10　・図示　(6.8.1)(9.7.3)
せき板の種類　※厚さ 12mm　・　(6.8.2)
※下記のいずれかとする。
(1)「コンクリート型枠用合板の農林規格」による表面加工品
(2)「コンクリート型枠用合板の農林規格」によるB－C
(3)床型枠用鋼製デッキプレート

打ち放し仕上げの種別　(6.2.5)(表6.2.4)

種　別	施　工　箇　所	
・A 種		
※B 種	壁・柱・梁型	
○C 種	見上げ	

○スリーブ材料　(6.8.2)(表6.8.1)
材種　※標仕6.8.2(9)による
・鋼管　・硬質塩化ビニール管　・溶融亜鉛めっき鋼板　・つば付鋼管

⑧ フレッシュコンクリート試験・強度試験　(6.9.2)(6.9.3)(表6.9.1)(表6.9.2)
※コンクリートの強度試験の試験回数は、下記による。
20m³ 以下の場合の試験については、監督職員の指示による。
20～50m³ の場合は任意の一単より試料を採取し、各３個供試体を作成する。
50m³ 以上は 標仕6.9.3(1) による。

9 軽量コンクリートの種別
設計基準強度　Fc (N/m²)　・18　・21　・　(6.10.2)(表6.10.1)
種 別　※1種　・2種　施工場所(　　)
気乾単位容積重量 (t/m³)　(※1.8～2.1t/m³程度　・　　)

10 マスコンクリート
・適用箇所(　　)　(6.13.1)
セメントの種類　※高炉セメントB種　(6.13.2)
スランプ　※15cm　(6.13.2)

⑪ 無筋コンクリート　(6.14.2)(6.14.3)
材料・品質
粗骨材の最大寸法 (mm)　(捨ｺﾝｸﾘｰﾄ及び防水押えｺﾝｸﾘｰﾄの場合　※25　・　)

種　類	スランプ	設計基準強度 Fc (N/m²)	施　工　箇　所
普通コンクリート	※15又は18	※18	防水押え・ゲート室・階段室
	・	・	

7章 鉄骨工事

1 鉄骨製作工場　(7.1.3)
・監督職員の承諾する工場
・全国鉄構工業協会、日本鉄骨評価センター　認定工場（下記認定グレード以上）
(・S　・H　・M　・R　・J)

2 施工管理技術者　(7.1.4)
※適用する　・適用しない

3 鋼材　(7.2.1)(表7.2.1)

材　質	品名又は使用箇所	規　格
・SS 400		※JISの規格品
・SSC 400		※JISの規格品
・SN 400		※JISの規格品
・SN 490		※JISの規格品
・STKR 400		※JISの規格品
・		

4 高力ボルト　(7.2.2)
※トルシア形高力ボルト ・JIS形高力ボルト ・溶融亜鉛メッキ高ボルト

5 普通ボルト　(7.2.3)
※標仕表7.2.3による

6 アンカーボルト　(7.2.4)
材質　・一般構造用圧延鋼(JIS G 3101)　※SS400　・SS490
・ABR400　・ABR490

7 ターンバックル　(7.2.6)
胴の種類　※割枠式　・　ボルトの種類　※羽子板ボルト　・

8 デッキプレート　(7.2.7)(6.8.3)
※JIS G 3352　・(　　)
構造床　・材質(　　)・形状(　　)・寸法(　　)
合成ｽﾗﾌﾞ　・材質(　　)・形状(　　)・寸法(　　)
その他　・

9 材料試験等　(7.2.10)
※ＪＩＳ規格品の鋼材で断面の異なるごとに、それぞれ１t未満の場合で軽微な部材については、監督職員の承認を受けて規格証明書等の提出を省略することができる。

10 工作　(7.3.2)
※縁端距離、ボルト間隔及びゲージ等は、国土交通省大臣官房官庁営繕部「建築鉄骨設計基準」による

11 仮組み　(7.3.10)
・実施する　※実施しない

12 高力ボルト接合　(7.4.2)
すべり係数試験　・実施する　※実施しない
試験方法(　　)、試験片の摩擦面の状態(　　)

13 施工管理技術者　(7.6.2)
※溶接施工管理技術者をおく　・適用しない

14 溶接施工　(7.6.7)
エンドタブの種類　※鋼製タブ
代替タブを使用する場合は、セラミックスタブとし、以下の書類を提出し、監督職員の承諾を得ること。
・セラミックスタブの使用実績
・AW検定協議会の代替エンドタブ技量認定資格者または日本エンドタブ協会によるエンドタブ施工講習（溶接技能者・固形タブ・A級）修了者の資格証
・鉄骨製作工場における施工実績
エンドタブの切断　・行う(　　)　・行わない
スカラップ　・改良型スカラップ

15 溶接部の試験　(7.6.11)(7.6.12)
外観検査　自主検査　※全数　第三者検査　※全数
超音波探傷試験　自主検査　※全数
第三者検査　ＡＯＱＬ　※4.0%　・2.5%
検査水準　※第６水準　・図示

試験箇所	試験方法
完全溶込み溶接部（板厚6mm以上）	※標仕7.6.12(4)による ・図示

16 デッキプレートの溶接　(7.7.8)
(a) ※アークスポット又は隅肉溶接　・
(b) 合成スラブの溶接　※焼き抜き栓溶接

17 さび止め塗料　(7.8.4)
・鉄骨造の鉄部錆止め塗料の種別は 標仕表18.3.1 の下記とする。
・JIS K 5625　・ JIS K 5674
・DP塗装の場合　JIS K 5552 + JIS K 5551(2回)
耐火被覆材の接着する面の塗装　・行わない　・行う(　　)

18 耐火被覆　(7.9.2～7.9.8)

種　別		所要性能及び適用構造部位
・耐火材吹付け	・乾式吹付けロックウール	
	・半乾式吹付けロックウール	
	・湿式ロックウール	
・耐火板張り		
・ラス張りモルタル塗り		
・耐火塗料		

19 アンカーボルト等の設置　(7.10.3)(表7.10.1)
・構造用アンカーボルト　・図示
・建方用アンカーボルトの保持及び埋込み　・Ａ種　※Ｂ種
ならしモルタルの工法　※Ａ種　・Ｂ種　(表7.10.2)
・無収縮モルタル(プレミックスタイプ)　下記同等品とする
プレユーロックス(太平洋マテリアル)　マスターフロー870グラウト(BASFポゾリス)
ノンシュリンクライトグラウト(ＡＢＣ商会)　デンカタスコン(電気化学工業)
(社)公共建築協会の評価を受けているもの

⑫ 溶融亜鉛めっき工法　施工管理技術者　※適用する　・適用しない　(7.12.2～7.12.5)

亜鉛めっきの種別	材　料	適用部位
○A種	最低板厚6mm以上の形鋼、鋼板	
B種	最低板厚3.2mm以上、6mm未満の形鋼、鋼板	
C種	普通ボルト、アンカーボルト 最低板厚1.6mm以上、3.2mm未満の形鋼、鋼板	

高力ボルトを使用する場合の摩擦面の処理　・ブラスト処理　・りん酸塩処理
・ブラスト処理　標仕7.12.5による。
・りん酸塩処理　処理方法及びすべり耐力等の確認方法に関する資料を提出すること。

8章 コンクリートブロック・ＡＬＣパネル・押出成形セメント板工事

1 補強コンクリートブロック造の材料　(8.2.2)
(a)種類　・16 N/mm²　普通ブロック　厚さ　・100　・120　・150　・
・16 N/mm²　防水ブロック　厚さ　・100　・150
表8.2.2以外のコンクリートの設計基準強度(Fc)　※21N/mm²　・　(8.2.4)

2 コンクリートブロック塀壁及び塀　(8.3.2)
(a)種類　※表8.3.1 による　厚さ　・100　・120　・150
(b)コンクリートの設計基準強度(Fc)　※21N/mm²　・
(C)各部の配筋　※標仕 各部配筋参考図 7.3による　・図示

3 ALCパネル　(8.4.2～8.4.5)(表8.4.2～4)

種　類	単位荷重(N/m²)	厚さ(mm)	耐火性能	取付け工法(種別)
・外壁パネル	・1180　・1960	※100　・		・A種　・B種
・間仕切パネル		※100　・		・C種　・D種　・E種
・屋根パネル	・980	※100　・		※標仕表8.4.4 による
・床パネル	・2350　・3530	・100　・150	・有　・無	

外壁目地幅　・　mm　・製造所の仕様による　(8.4.3)
耐火目地材　・　(8.4.2)

4 押出成形セメント板
※厚物(厚さ50mm以上)
種類　※無石綿タイプ　(8.5.2～8.5.4)(表8.5.1～2)

施工箇所	表面形状	厚さ(mm)	工　法	耐火性能
・外　壁	※フラットパネル	・50・60	・A種	※有り
			・B種	・無し
・間仕切り	※フラットパネル	・50・60	・B種	※無し
			・C種	・有り

・薄物(厚さ50mm未満)

・パネルの開口及び欠き込み　(8.5.5)

		開口の大きさ	切断後のﾊﾟﾈﾙの残り部分の幅
パネルに開口を設ける場合	短辺	パネル幅の１／２以下	１５０mm以下
	長辺	５００mm以下	３００mm以下
パネルを切り欠く場合	短辺	(ﾊﾟﾈﾙ幅－３００mm) 以下	３００mm以下
	長辺	５００mm以下	３００mm以下

9章 防水工事

① アスファルト防水　(9.2.2)
アスファルトの種類　※3種
端部押え金物　※既製アルミニウム製Ｌ－30×15×2.0程度　・
屋根保護防水断熱工法に用いる断熱材
材質　※押出法ポリスチレンフォーム断熱材3種bA（スキン層付き）
厚さ(mm)　※35
屋根露出防水断熱工法に用いる断熱材
材質　※JIS A 9521に基づく発泡プラスチック断熱材
・硬質ウレタンフォーム断熱材2種1号又は2号
厚さ(mm)　※35
絶縁用シート　・ポリエチレンフィルム 厚0.15mm以上　・フラットヤーンクロス
乾式保護材　製造所　・
防水保護のれんがの種類　※市販品のレンガ又は市販品のレンガ形ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾞﾛｯｸ
施工標識　※設ける　・設けない
防水層の種類、種別　(9.2.3)(表9.2.3～9)
○屋根保護防水　・Ａ－１　・Ａ－２　・Ａ－３　○Ａｉ－１　・Ａｉ－２　・Ａｉ－３
・Ｂ－１　・Ｂ－２　・Ｂ－３　・Ｂｉ－１　・Ｂｉ－２　・Ｂｉ－３
・屋根露出防水　・Ｄ－１　・Ｄ－２　・Ｄ－３　・Ｄ－４　・Ｄｉ－１　・Ｄｉ－２
・屋内防水　・Ｅ－１　・Ｅ－２
仕上塗料（屋根露出防水）　※種類および使用量は製造所の仕様による
絶縁工法における脱気装置
※設ける　材質(　　)設置数量(　　)　・設けない
ルーフドレン回り及び立上り部周辺の断熱材の張りじまい　※図示による　(9.2.4)

② 保護層等の施工　(9.2.5)
○保護コンクリートの厚み　※８０mm　・
○立上り部の保護　・乾式保護材　・れんが押え
○コンクリート押え　・モルタル押え

3 改質アスファルトシート防水　(9.3.2～9.3.4)(表9.3.1～3)

種 別	施工箇所	仕上げ塗料

仕上げ塗料の使用量　※メーカー仕様による　・
露出防水絶縁断熱工法に用いる断熱材
材質　※JIS A 9521に基づく発泡プラスチック断熱材
・硬質ウレタンフォーム断熱材2種1号又は2号
厚さ(mm)　※35
脱気装置　・設ける　材質(　　)設置数量(　　)　・設けない
施工標識　※設ける　・設けない

4 合成高分子系ルーフィングシート防水　(9.4.2～9.4.4)(表9.4.1～2)

種 別	厚さ(mm)	施工箇所	仕上げ塗料	仕様区分
				※非歩行 ・軽歩行

仕上げ塗料の使用量　※メーカー仕様による　・
絶縁シート　※発泡ポリエチレンシート　・

5 塗膜防水　(9.5.2～9.5.4)(表9.5.1～2)

種 別	施工箇所	備考
		仕上げ塗料
		・シルバー　・カラー

仕上げ塗料の使用量　※メーカー仕様による　・
脱気装置　・設ける　材質(　　)設置数量(　　)　・設けない
・Ｙ－２における保護層(　　)
施工標識　※設ける　・設けない

6 ケイ酸質系塗布防水　(9.6.1)(表9.6.1)
・適用部位及び防水層の位置
適用部位　地下構造物　・外壁　・床　・水槽　・ピット
防水層の位置　・背面水圧側　・水圧側

(9.6.2～9.6.4)(表9.6.2)

種 別	施工箇所	備考
※Ｃ－ＵＩ		
・Ｃ－ＵＰ		

施工標識　※設ける　・設けない

7 その他防水
・工　法
施工標識　※設ける　・設けない

⑱ 保証期間
防水の保証期間は原則、10年とする。ただし、既存の劣化等の状況により保証ができない場合は、保証できない理由を明確にし、監督職員と協議を行うこと。

⑲ シーリング　(9.7.2)(表9.7.1)
※下表以外は、標仕表9.7.1 による

施工箇所	シーリング材の種類(記号)
ＰＵ－２	外壁・内部ライニング回り
ＭＳ－２	建具回り

10章 石工事

接着性試験　※行わない　・行う　(9.7.5)
・簡易接着性試験　・引張接着性試験
目地寸法　※図示による　・　(9.7.3)

1 施工一般　(10.1.3)
石材の割付　・図示による。　※標仕10.1.3(1)の(7)及び(イ)による

2 天然石張り　(10.2.1)
石の品質　床用石材 ※２等品　・　その他の石材　※１等品　・
石の種類・表面仕上げ　(10.2.1)(表10.2.1～2)

施 工 箇 所	種　類	産地・名称	厚さ(mm)	仕上げの種類

3 テラゾ張り　(10.2.1)
種石の種類　※大理石　・
形状・寸法　※図示
表面仕上げ　※本磨き　・　(表10.2.2)

4 壁の石張り工法　(10.3.2)(10.3.3)(10.5.2)(10.5.3)
外壁石張り
・外壁湿式工法　※流し筋工法　・あと施工アンカー工法
・あと施工アンカー,横筋流し工法
・乾式工法(　　)
・石裏面処理　・行う(・小口共)
・裏打ち処理　・行う
・ドレンパイプ　※ステンレスSUS304　・
内壁石張り　(10.4.2)(10.4.3)(10.5.2)(10.5.3)
・空積工法　※あと施工アンカー横筋流し工法　・あと施工アンカー工法
・乾式工法(　　)
・石裏面処理　・行う(・小口共)
・裏打ち処理　・行う

5 床及び階段の石張り
床石張りの裏面処理　・行う　(10.6.2)
屋内のワックス掛け　・行う　(10.1.5)

11章 タイル工事

1 目地位置　(11.1.3)
伸縮目地の位置　・標仕表11.1.1による　・図示による

2 セラミックタイル張り　(11.2.1)
タイルの種類

施工箇所	形状寸法(mm)	用途による区分	耐凍害性 無	耐凍害性 有	色調 標準	色調 特注	うわぐすり 無釉	うわぐすり 施釉	役物 無	役物 有
		・屋内・床								
		・屋外・壁	※	・	※	・	・	・	・	・
		・屋内・床								
		・屋外・壁	※	・	※	・	・	・	・	・
		・屋内・床								
		・屋外・壁	※	・	※	・	・	・	・	・
		・屋内・床								
		・屋外・壁	※	・	※	・	・	・	・	・

タイルの見本焼き　※行わない　・行う(※外壁タイル　)
タイルの試験張り　※行わない　・行う(※外壁タイル　・　)
※セラミックタイル型枠先付け工法に用いるタイルは耐凍害性を有するものとする

3 張付け用材料　(11.2.3)(11.3.3)
※保水剤は、メチルセルロース等の水溶性樹脂とする。
※有機質接着材の種類　(表11.3.1)
※タイプⅠ　・タイプⅡ
※セメント混和用ポリマーディスパージョンは JIS A6203による。
※既調合目地材は、実績等の資料を監督職員に提出する。

4 壁タイル張り工法　(11.2.7)(11.3.7)(表11.2.3)
※下表による。　・

タイルの種別	タイルの寸法	工　法	
内装タイル		・改良積上げ張り ※壁タイル接着剤張り	
外装タイル	小口以上 二丁掛け以下	・密着張り ・改良積上げ張り ・改良圧着張り ※壁タイル接着剤張り	
内装タイル以外のユニットタイル	25mm角を超え小口未満	・マスク張り	
	小口未満	・モザイクタイル張り ※壁タイル接着剤張り	

5 防腐処理　(12.3.1)
防腐処理は下記による
・行う　(施工箇所　)　※行わない
木材保存剤は、監督職員の承諾するものとする。

6 防蟻処理　(12.3.1)
防蟻処理は下記による
・行う　(施工箇所　)　※行わない
木材保存剤は、監督職員の承諾するものとする。

6 防虫処理　(12.3.2)
防虫処理は下記による
・行う　(施工箇所　)　※行わない

12章 木工事

1 表面仕上げ　(12.1.4)(表12.1.1～2)
躯体表面の処理　・行う　・行わない
・ＭＣＲ工法　・目荒らし工法
タイルの接着力試験　※行わない　・行う(※外壁タイル　・　)　(11.1.5)

2 木材　(12.2.1)(表12.2.1)
木材の含水率　※Ａ種　・Ｂ種
・下地用針葉樹製材　※２級　・１級　(12.2.1)
・造作用針葉樹製材　・上小節(見え掛り面　)　(12.2.1)
・小　節(見え隠れ面・不透明塗料塗り　)
・広葉樹製材　・２級　※１級　・特級　(12.2.1)
・主要材の樹種
下地材(・杉　・松)
造作材(・杉　・松　・ひのき)

3 集成材又は単板積層材　(12.2.1)
集成材又は単板積層材の材質
ホルムアルデヒド放散量　※規制対象外　・第三種
集成材の等級

品　名	規格・品質	芯材の種類	施 工 箇 所
・造作用集成材	※1等 ・2等	たも ・なら ・しおじ	
・化粧ばり造作用集成材	※1等 ・2等	単一針葉樹	
・化粧ばり構造用集成材			
・造作用単板積層材			
・直交集成材			

4 床張り用合板　(12.2.1)
合板の材質　※標仕12.2.1(6)(7)～(オ) による
合板の接着の程度の種類　※１類　・
板面の品質　※２等(広葉樹)又はＣ－Ｄ(針葉樹)　・
ホルムアルデヒド放散量　※規制対象外　・第三種

5 防腐処理　(12.3.1)
防腐処理は下記による
・行う　(施工箇所　)　※行わない
木材保存剤は、監督職員の承諾するものとする。

6 防蟻処理　(12.3.1)
防蟻処理は下記による
・行う　(施工箇所　)　※行わない
木材保存剤は、監督職員の承諾するものとする。

6 防虫処理　(12.3.2)
防虫処理は下記による
・行う　(施工箇所　)　※行わない

13章 屋根及びとい工事

1 長尺金属板葺　(13.2.2)(13.2.3)(表13.2.1)

屋根ふき形式	材　種	板の厚さ(mm)	下　ぶ　き
・かわら棒ぶき(心木なし) 通し吊子	※塗装溶融55%ｱﾙﾐﾆｳﾑ亜鉛めっき鋼板	※0.4mm	※アスファルトルーフィング940
・平ぶき	・	・	・
・			

2 折板葺　(13.3.2)(13.3.3)(表13.2.1)

形　式	※重ね型　・はぜ締め形
形 状(mm)	山高(　)　山ピッチ(　)　板厚(　)
材　料	※塗装溶融55%ｱﾙﾐﾆｳﾑ亜鉛めっき鋼板
断 熱 材	・有り(種別：　厚さ：　mm)　・無し
耐火性能	・３０分耐火　・無し
軒先面戸板	・有り　・無し

③ とい材料　(13.5.2)(表13.5.1)
縦どい　材種　※硬質塩化ビニル管カラー(VP)　・配管用鋼管
軒どい　材種　※硬質塩化ビニル雨どい ・表面処理鋼板 ・ステンレス鋼板
とい受け金物　材料　※ステンレス製の市販品　・
取付ピッチ　※表13.5.2 による　・

4 鋼管製といの防露巻き　(13.5.2)(表13.5.4)
※行う　防露材　※標仕表13.5.4 による　・
(13.5.3)(表13.5.5)
施工箇所　(　)
・行わない

事 業 名	令和３年度 公共下水道事業
工 事 名	波木汚水中継ポンプ場上屋建築工事
工事場所	四日市市　波木町 地内
名　　称	特記仕様書（２）
縮　　尺	---
設計年月日	令和　年　月　日
工　　種	
設 計 者	
事業主体	四日市市 上下水道局
図面番号	Ａ－４

14章 金属工事

1 ステンレスの表面仕上げ　(14.2.1)

種類	施工箇所
※ＨＬ程度	下記以外の見え掛かり全て
・No.2Ｂ程度	
・鏡面仕上げ	
・鏡面仕上げ（No.8）	

2 アルミニウム及びアルミニウム合金の表面処理　(14.2.2)(表14.2.1)

種別	施工箇所
・ＢＢ－１種	
・ＢＢ－２種（・ﾌﾞﾗｳﾝ系 ・ﾌﾞﾗｯｸ ・ｽﾃﾝｶﾗｰ）	
・	

表面処理の膜厚試験　・行う　・行わない

3 鉄鋼の亜鉛めっき　(14.2.3)(表14.2.2)

表面処理方法	種別	施工箇所
溶融亜鉛めっき	・Ａ種	
	・Ｂ種	
	・Ｃ種	
電気亜鉛めっき	・Ｄ種	
	・Ｅ種	
	・Ｆ種	

表面処理の品質　※品質証明書を提出する　・品質試験を行う　・

4 軽量鉄骨天井下地材料　(14.4.2)(表14.4.1)
屋内　※19形　・
屋外　※25形　・

⑮軽量鉄骨壁下地材料　(14.5.3)(表14.5.1)
・50形　◎65形　・90形　・100形　・標仕表14.5.1 による

6 金属成形板張り　(14.6.2)(表14.2.1)

形状	製法	材種	寸法(mm)	厚さ(mm)	表面処理
・ｽﾊﾟﾝﾄﾞﾚﾙ形	・押出し ・ロール	・アルミニウム製			・ＢＢ－１種 ・ＢＢ－２種
・パネル形	※プレス ・				

伸縮継手　※設けない　・設ける(施工箇所は図示)　(14.6.3)
取付下地　※屋内19形　※屋外25形　野縁間隔　・300㎜　・360㎜　・

⑰アルミニウム製笠木　(14.7.2)(表14.2.1)(表14.7.1)

種類	呼称肉厚	表面処理	固定間隔	備考
・250形	1.6以上	※ＡＢ－１種又は	固定方法及び間隔は品質計画で定めたもの	隅角部等の役物は本体製造所の仕様による。
・300形	1.8以上	ＢＢ－１種		
◎350形	2.0以上	・ＢＢ－２種（　　）		

⑱手すり及びタラップ　(14.2.1)(14.8.2)(14.8.3)(表14.2.2)

種類	材料の種別	表面処理
手すり	※ステンレス（SUS 304）	※ＨＬ程度　・鏡面程度　・
	・鉄	亜鉛めっき 外部 ※Ｃ種　・ 内部 ※Ｅ種　・
タラップ	※ステンレス（SUS 304）	※研磨無し　・
	・鉄	亜鉛めっき 内外部 ※Ｃ種　・

15章 左官工事

①モルタル塗り　(15.3.2)
防水モルタル　防水剤は下記製造所の製品とする。
シフカー建設防水工業（シフカー液Ｂ号）　セントラル工業（シーアイシー防水剤）
ポース（ポース防水剤）　日本セメント防水剤製造所（ウォータイトＢ号）
マノール（マノール防水剤）
保水剤は、メチルセルロース等の水溶性樹脂とする。
吸水調整剤の品質　※表15.3.2による

目地　位置　※図示による　・　(15.3.5)
種別　※押し目地　・
・既成目地材

2 セルフレベリング材　(15.5.2)(表15.5.1)
種類、品質　※標仕表15.5.1 による。

種類	厚さ(mm)	施工箇所
※セメント系	※10　・	
・せっこう系	・	

④仕上塗材仕上げ　(15.6.2)(表15.6.1)

種類	呼び名	仕上の形状
・薄付け仕上塗材	・外装薄塗材Ｅ	・砂壁状　・着色骨材砂壁状
	・内装薄塗材Ｅ	砂壁状じゅらく
	・可とう形外装薄塗材Ｅ	・砂壁状　・ゆず肌状　・さざ波状
	・防水形外装薄塗材Ｅ	・ゆず肌状　・さざ波状　・凹凸状
	・外装薄塗材Ｓ	・砂壁状
◎複層仕上塗材	・複層塗材ＣＥ	・ゆず肌状　・凸部処理　・凹凸状
	・可とう形複層塗材ＣＥ	上塗材
	・複層塗材Ｅ	◎水系アクリル
	◎複層塗材ＲＥ	・水系アクリルシリコン
	・防水形複層塗材ＣＥ	
	・防水形複層塗材Ｅ	外観　※つやあり　・つやなし ・メタリック
・	・	

複層仕上塗材の耐候性　※耐候形3種　・　(15.6.2)

防火材料の指定
※屋内の壁及び天井仕上げ材は、防火材料とする。
・次の箇所を除き防火材料とする。（　　）
建物内部に使用するユリア樹脂等を用いた塗料のホルムアルデヒドの放散量
※規制対象外　・第三種

16章 建具工事

①防火戸　(16.1.3)
◎防火戸（建築基準法に基づく認定）　◎有り　・無し
・防火戸の自動閉鎖装置及び防火戸の煙感知器との連動装置　※図示

2 見本の製作等　(16.1.4)
・特殊な建具の仮組（建具番号　　）

⑩アルミニウム製建具
外部に面する建具(フロントサッシは除く)
コンクリート系下地及び鉄骨下地　(16.2.2)(16.2.4)(表16.2.1)

種別	耐風圧性	気密性	水密性	枠見込み(mm)	施工箇所
・Ａ種	Ｓ－4	※Ａ－3	※Ｗ－4	※ 70	※図示
◎Ｂ種	Ｓ－5				
・Ｃ種	Ｓ－6	・Ａ－4	・Ｗ－5	・	

木下地　(16.2.2)(16.2.4)(表16.2.2)

種別	耐風圧性	気密性	水密性	枠見込み(mm)	施工箇所
・Ｄ種	Ｓ－2	※Ａ－3	※Ｗ－3	・	※図示
・Ｅ種	Ｓ－3				

表面処理　※BB-1種　・BB-2種(・ﾌﾞﾗｳﾝ系 ・ﾌﾞﾗｯｸ ・ｽﾃﾝｶﾗｰ)

屋内建具
表面処理　※AC-1種又はBB-1種　・AC-2種又はBB-2種(・ﾌﾞﾗｳﾝ系 ・ﾌﾞﾗｯｸ ・ｽﾃﾝｶﾗｰ)

・防音建具　遮音性の等級　・　・　(16.2.2)
・断熱建具　断熱性の等級　・　・
・耐震建具　面内変形追従性の等級　・　・

4 網戸　(16.2.3)
使用方法　※可動式　・固定式
網の材種　防虫網　・合成樹脂製　・ガラス繊維入り合成樹脂製
※ステンレス（SUS 316）製
網目　※16～18メッシュ
防鳥網　※ステンレス（SUS 304）線材　・

5 樹脂製建具　(16.3.2)(16.3.4)(表16.3.1)
外部に面する建具
コンクリート系下地及び鉄骨下地

種別	耐風圧性	気密性	水密性	枠見込み(mm)	施工箇所
・Ａ種	Ｓ－4	Ａ－4	※Ｗ－4	・	※図示
・Ｂ種	Ｓ－5		・Ｗ－5		
・Ｃ種	Ｓ－6				

木下地　(16.3.2)(16.3.4)(表16.3.2)

種別	耐風圧性	気密性	水密性	枠見込み(mm)	施工箇所
・Ｄ種	Ｓ－2	※Ａ－4	※Ｗ－3	・	※図示
・Ｅ種	Ｓ－3				

遮音性能　※Ｔ－Ａ種　・Ｔ－Ｂ種
断熱性能　※Ｈ－Ａ種　・Ｈ－Ｂ種

⑥鋼製建具
◎簡易気密型ドアセット　適用箇所：図示　(16.4.2)
気密性　⊗Ａ－3　・　水密性　⊗Ｗ－1　・
鋼板の厚さ（㎜）　⊗標仕表16.4.2 による　・　(16.4.4)(表16.4.2)

7 鋼製軽量建具　(16.5.2)
・簡易気密型ドアセット　適用箇所：
気密性　※Ａ－3　・
召合せ、縦小口包み板等の材質　(16.5.3)
※鋼　板　・ステンレス鋼板　・アルミニウム合金の押出形材
鋼板の厚さ（㎜）　※標仕表16.5.1 による　・　(16.5.4)(表16.5.1)

8 標準型鋼製軽量建具
・製造所の仕様による　(16.5.6)

9 ステンレス製建具
ステンレス鋼板　※SUS304　・SUS430J1L　・SUS443J1　(16.6.3)
鋼板の厚さ（㎜）　※標仕表16.6.1 による　・　(16.6.4)(表16.6.1)
表面仕上　※ＨＬ　・　(16.6.4)
曲げ加工　※普通曲げ　・角出し曲げ（補強あり）　(16.6.5)

10 木製建具
建具材の含水率による種別　(16.7.2)(表16.7.1)
・Ａ種　※Ｂ種　・Ｃ種
フラッシュ戸
かまち、中骨の樹種　※標仕表16.7.2 による　・標仕表16.7.2 のむく材とする
表面材　※普通合板　・難燃合板　・特殊合板　・
ホルムアルデヒド放散量　※規制対象外　・第三種
※接着の程度は、水掛かりを１類、その他を２類とする。
・かまち戸　かまち（　　）　鏡　板（　　）
・ふすまの材料　※標仕表16.7.3　(表16.7.3)
・ふすまの上張りの種類　※新鳥の子　・　(押入れ内は雲花紙とする)
・ふすまの縁の仕上げ　※塗り縁(カシュー塗料２回塗り)
・生地縁（※ウレタンクリヤー塗装　・素地）

⑪建具用金物
金物の見掛かり部の材質　※標仕表16.8.1 による　・　(16.8.2)(表16.8.1)
モノロック　ゴール(UH)　美和ロック(U9HK)
シリンダー箱錠　ゴール(AS)　堀商店(No.1110,1171)
美和ロック(U9HM,MA,LH,LA)
シリンダー本締まり錠　ゴール(HD)　美和ロック(U9BH,DA)　堀商店(No.1131)
ヒンジクローザー　※丁番型　・内蔵型　・
押板、とっ手　樹建工業　ユニオン

マスターキーについては下記による。　(16.8.4)
◎グループ及びグランドマスターキーを製作し、鍵箱に整理し提出する。
・マスターキーを製作し、鍵箱に整理し提出する。
・一般キー（マスターキー装置付）のみパネルに整理して提出する。
・一般キー(マスターキー装置なし)のみパネルに整理して提出する。
・鍵　箱　既製品（・30個用　・60個用　・120個用　・　）

12 自動ドア開閉装置　(16.9.2)(16.9.3)(表16.9.1～4)
種別

開閉方法	引き戸用検出装置の種類	
※引き戸	※光線センサー	・熱線センサー
（性能値は表16.9.1）	・音波センサー	・光電センサー
・多機能トイレ用引き戸	・電波センサー	・タッチスイッチ
（性能値は表16.9.2）	・押しボタンスイッチ	・多機能トイレスイッチ

・凍結防止措置（適用箇所は建具表による）

13 自閉式上吊り引き戸装置　性能　※標仕表16.10.1　・　(16.10.3)(表16.10.1)

14 重量シャッター　(16.11.2)
形式　・管理用シャッター　・外壁用防火シャッター
・屋内用防火シャッター　・防煙シャッター　・
開閉形式　※上部電動式（手動併用）　・上部手動式　(表16.11.1)
外部に面するシャッターの耐風圧性能　（　　）N/m2
防火又は防煙シャッターの危害防止機構
※障害物感知装置（自動閉鎖型）
※「防火区画に用いる防火設備等の構造方法を定める件」に定める基準に適合するもの。
シャッターケース（防火・防煙以外のもの）　・設ける　・設けない

15 軽量シャッター　(16.12.2)(表16.12.1)
開閉形式　※上部電動式（手動併用）　・手動式
スラット　材質　※塗装溶融亜鉛めっき鋼板　・
厚さ　・0.5　・0.8
形状　・インターロッキング形　・オーバーラッピング形
外部に面するシャッターの耐風圧性能　（　　）N/m2

16 その他のシャッター
・リンググリルシャッター
パイプ及びリングの種類　※ステンレス（SUS 304）　・
・スライディングドア　・アルミ　・スチール（消防合格品）

17 オーバーヘッドドア　(16.13.2)
セクション材料　※スチールタイプ　・アルミニウムタイプ
・ファイバーグラスタイプ
開閉方式　※バランス式　・チェーン式　・電動式
ガイドレール　※ステンレス鋼板　・溶融亜鉛メッキ鋼板
耐風圧性能　（　　）N/m²

⑱ガラス　(16.14.2)
ガラス材料　建具表による
ガラスブロック
形状寸法　・
ガラスの色　・無色　・着色（　　）
模様による種類　・拡張ガラスブロック　・指向ガラスブロック

ガラスの留め材
種別　(区分は図示による)　※シーリング材(SR-1 ｼﾘｺｰﾝ系)　・ガスケット

19 ガラス用フィルム
品質は JIS A 5759 による。

名称	種類	張り面	性能等	施工箇所
※ガラス飛散防止フィルム	第２種	※内面 ・外面	※層間変位試験に適合するもの（B法）	

17章 カーテンウォール工事

1 性能
・耐風圧性（　　）　(17.1.1～3)
・耐震性（　　）
・水密性（　　）
・気密性（　　）
・耐火性（　　）
・耐温度差性（　　）
・遮音性（　　）
・断熱性（　　）
※製造所標準仕様による

2 材料、形状及び仕上げ
製品の許容差　※表17.2.1　表17.3.1による　・　(17.2.3)(17.3.3)
製品の見え掛り部分の仕上げ　・

3 取付
主要取付部材の取付許容差　※表17.2.3　表17.3.2による　(17.2.5)(17.3.5)

18章 塗装工事

1 材料
・屋内の壁及び天井の塗装仕上げは、防火材料とする。　(18.1.3)
・次の箇所を除き防火材料とする。（　　）
建物内部に使用する塗料のホルムアルデヒドの放散量
※規制対象外　・第三種

②各面の素地ごしらえ　(18.2.2)
木部　(18.2.2)
不透明塗料塗り　※Ａ種　・　透明塗料塗り　※Ｂ種　・　(表18.2.1)
鉄面、亜鉛めっき面　(18.2.3)(18.2.4)
鉄面種別　・Ａ種　・Ｂ種　※Ｃ種　(表18.2.2)
亜鉛めっき面種別　・Ａ種　・Ｂ種　(表18.2.3)
モルタル及びプラスター面　(18.2.5)
種別　・Ａ種　※Ｂ種　(表18.2.4)
コンクリート、ＡＬＣパネル及び押出成形セメント板面　(18.2.6)
標仕18.2.6(1)の類　種別　・Ａ種　※Ｂ種　(表18.2.5)
標仕18.2.6(2)の類　種別　・Ａ種　※Ｂ種　(表18.2.6)
石こうボード及びその他ボード面　(18.2.7)
継目処理工法　種別　※Ａ種　・Ｂ種　(表18.2.7)
その他　種別　・Ａ種　※Ｂ種

③さび止め塗料塗り　(18.3.2)
塗料種別　(18.3.2)
鉄鋼面　※Ａ種（　　）　・Ｂ種　(表18.3.1)
仕上げＥＰ－Ｇの場合　・Ａ種（　　）　※Ｂ種
亜鉛めっき鋼面　※Ａ種　・Ｂ種　(表18.3.2)
仕上げＥＰ－Ｇの場合　・Ａ種（　　）　※Ｃ種
錆止め塗料塗り　(18.3.3)
鉄鋼面　見え掛り（※Ａ種　・　）　その他（※Ｂ種　・　）　(表18.3.3)
亜鉛めっき鋼面　鋼製の建具（※Ａ種　・　）その他(※Ｂ種　・　)　(表18.3.4)

④合成樹脂調合ペイント塗り(ＳＯＰ)
※合成樹脂調合ペイントの１種　（　　）　(18.4.2)
・合成樹脂調合ペイントの２種　（　　）
・木部　工法　屋外（※Ａ種・　）　屋内（※Ｂ種・　）　(18.4.3)(表18.4.1)
・鉄鋼面　工法　・Ａ種　※Ｂ種　(18.4.4)(表18.4.2)
◎亜鉛めっき面　工法は、標仕表18.4.3　(18.4.5)(表18.4.3)

5 クリヤラッカー塗り(ＣＬ)
・木部　工法　・Ａ種　※Ｂ種　(18.5.2)(表18.5.1)

6 アクリル樹脂系非水分散形塗料塗り(ＮＡＤ)
工法　・Ａ種　※Ｂ種　(18.6.2)(表18.6.1)

⑦耐候性塗料塗り(ＤＰ)
・鉄鋼面　工法は、標仕表18.7.1　(18.7.2)(表18.7.1)
（ただし、6㎜未満の鋼材の素地ごしらえはC種とする）
◎亜鉛めっき面　工法は、標仕表18.7.2　(18.7.3)(表18.7.2)
上塗種別
◎　JISK5659（１級）　ふっ素系樹脂塗料
・　JISK5659（２級）　シリコン系樹脂塗料
・　JISK5659（３級）　ポリウレタン系樹脂塗料
・コンクリート面、押出成型セメント板面
工法は、標仕表18.7.3　種別は(・Ａ種　・Ｂ種　・Ｃ種)とする　(18.7.4)(表18.7.3)
上塗種別
・　JISK5658　主要原料　ふっ素樹脂(1級)
・　JISK5658　主要原料　シリコーン樹脂(2級)
・　JISK5658　主要原料　ポリウレタン樹脂(3級)

⑧つや有合成樹脂エマルションペイント塗り(ＥＰ－Ｇ)
◎ｺﾝｸﾘｰﾄ面、ﾓﾙﾀﾙ面、ﾌﾟﾗｽﾀｰ面、せっこうﾎﾞｰﾄﾞ面、その他のﾎﾞｰﾄﾞ面
工法　・Ａ種　※Ｂ種　(18.8.2)(表18.8.1)
・木部　工法は、標仕表18.8.2　(18.8.3)(表18.8.2)
・鉄鋼面　工法　・Ａ種　※Ｂ種　(18.8.4)(表18.8.3)
・亜鉛めっき鋼面　工法は、標仕表18.8.4　(18.8.5)(表18.8.4)

9 合成樹脂エマルションペイント塗り(ＥＰ)
工法　・Ａ種　※Ｂ種　(18.9.2)(表18.9.1)

10 合成樹脂エマルション模様塗料塗り(ＥＰ－Ｔ)
・ｺﾝｸﾘｰﾄ面、ﾓﾙﾀﾙ面、ﾌﾟﾗｽﾀｰ面、せっこうﾎﾞｰﾄﾞ面等
工法　・Ａ種　※Ｂ種　(18.10.2)(表18.10.1)

11 ウレタン樹脂ワニス(ＵＣ)
表面仕上げの種類
※平滑仕上げ　・防滑仕上げ
＜製造所名（製品名）＞
工法　・Ａ種　※Ｂ種　(18.11.2)(表18.11.1)

12 ｵｲﾙｽﾃｲﾝ塗り(ＯＳ)
木部　工法は標仕表18.12.1による　(18.12.2)(表18.12.1)

13 木材保護塗料塗り(ＷＰ)
工法　・Ａ種　※Ｂ種　(18.13.2)(表18.13.1)

19章 内装工事

1 ビニル床シート、ビニル床タイル張り

・ビニル床シート　(19.2.2)

種類	JISの記号	色柄	厚さ(mm)
※発泡層のないもの	※ＦＳ　・	・無地 ※マーブル	※2.0㎜　・2.5㎜
・発泡層のあるもの		※柄物　・無地	

工法　※熱溶接工法　・突付け(施工箇所：　　)　(19.2.3)
接着剤　※標仕表19.2.1 による　・エポキシ、ウレタン樹脂系（　　）　(19.2.2)

・ビニル床タイル　(19.2.2)

種類	JISの記号	厚さ(mm)	備考
※単層ビニル床タイル	ＴＴ	※2.0	
・複層ビニル床タイル	ＦＴ		
・コンポジションビニル床タイル	ＫＴ		

接着剤　※標仕表19.2.1 による　・エポキシ、ウレタン樹脂系（　　）　(19.2.2)

・帯電防止床タイル　(19.2.2)

種類	厚さ(mm)	性能
※単層ビニル床タイル	※2.0	体積抵抗値 1.0x10⁹ Ω以下、又は 漏えい抵抗値 1.0x10¹⁰ Ω未満
・複層ビニル床タイル		
・コンポジションビニル床タイル		

接着剤　※標仕表19.2.1 による　・エポキシ、ウレタン樹脂系（　　）　(19.2.2)

ビニル幅木の高さ（㎜）　※60　・75　・100

2 接着剤
壁紙施工用でん粉系接着剤、ユリア樹脂等を用いた接着剤のホルムアルデヒドの放散量
※規制対象外　・第三種

3 カーペット敷き　(19.3.2)(19.3.3)(表19.3.1～2)

施工箇所	種類	種別	色柄	敷込み工法	帯電防止
	・織ｼﾞｭｳﾀﾝ	・Ａ種 ・Ｂ種 ※Ｃ種	※無地 ・柄物	※グリッパー	・行う ・行わない
	・タフテッド		※無地 ・柄物	※全面接着 ・グリッパー	・行う ・行わない

施工箇所	種類	厚さ	ラバーの有無
'	・ニードルパンチ	・	・有り ・無し

下敷き材　（・なし　※有り　JIS L 3204（反毛フェルト）第２種２号　厚８㎜）
耐電性　※人体帯電圧3kV以下

・タイルカーペット　(19.3.2)(表19.3.2)

パイル形状	種類	寸法(mm)	総厚さ(mm)	施工箇所
※ループパイル	※第一種	※500×500	※ 6.5	
・カットパイル	・第二種	・	・	

4 合成樹脂塗り床　(19.4.2)(表19.4.1～表19.4.7)

種別	仕上げの種類
・弾性ウレタン塗り床材	※平滑仕上げ　・防滑仕上げ　・つや消し仕上げ
・エポキシ樹脂塗り床材	※薄膜流し展べ仕上げ ・厚膜流し展べ仕上げ（※平滑　・防滑） ・樹脂モルタル仕上げ（※平滑　・防滑） ・防滑仕上げ

5 フローリング張り　(19.5.2～19.5.7)(表19.5.1～表19.5.4)

種別	樹種	工法	仕上げ塗装等
※天然木化粧複合フローリング ・単層フローリング	※なら ・ひのき	※釘どめ工法（Ｃ種） ・接着剤併用釘留め	※塗装品
・モザイクパーケット張り			

ホルムアルデヒドの放散量　※規制対象外　・第三種

事業名	令和３年度 公共下水道事業
工事名	波木汚水中継ポンプ場上屋建築工事
工事場所	四日市市　波木町 地内
名称	特記仕様書（３）

縮尺	---	設計年月日	令和　年　月　日
工種		設計者	
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	Ａ－5

19章 内装工事

6 畳敷き材料

畳の種別 (19.6.2)(表19.6.1)
・A種 ・B種 ・C種 ・D種(・KT-Ⅲ)

⑦石こうボードその他のボード張り (19.7.2)(表19.7.1)

※石こうボード、その他ボード、合板の類で天井及び壁に使用されるものは、下記以外すべて防火材料の認定表示のあるものとする。
※合板類で、防火材料の特記がない場合

種類	JISの記号	厚さ(mm)、規格等
・石こうボード	GB-R	○12.5(不燃) ・9.5(準不燃)
・吸音用孔あき石膏ボード		・9.5 ※12.5
・不燃積層せっこうボード	GB-NC	・9.5(不燃) 化粧無(下地張り用) 化粧有(ﾄﾗﾊﾟｰﾁﾝ模様)
・強化石膏ボード	GB-F	・12.5(不燃) ・15(不燃) ・
・シージングせっこうボード	GB-S	・9.5 ※12.5
・化粧石こうボード	GB-D	※9.5 ・12.5
・けい酸カルシウム板	0.8FK	無石綿 ※6 ・8
・ロックウール吸音板	DR	※ﾌﾗｯﾄﾀｲﾌﾟ(※9(不燃) ・12 ・) ・凹凸ﾀｲﾌﾟ(※12(不燃) ・15 ・)
・硬質木毛セメント板	HW	・15 ・20 ・25 ・
・普通木毛セメント板	NW	・15 ・20 ・25 ・
・単板張り パーティクルボード		・無研磨板VN ・研磨板VS ・10 ・12 ・15 ・18
・ﾐﾃﾞｨｱﾑﾃﾞﾝｼﾃｨﾌｧｲﾊﾞｰﾎﾞｰﾄﾞ	MDF	
・メラミン樹脂化粧板		※1.2 ・1.6
・ポリエステル樹脂化粧合板		※2.7 ・4.0
・化粧けい酸カルシウム板	0.8FK	※0.6 ・

合板類、繊維板、及びパーティクルボードのホルムアルデヒドの放散量
※規制対象外 ・第三種

工法 (19.7.3)(表19.7.2)(表19.7.3)(表19.7.4)(表19.7.5)
・合板類の張り付け ・A種 ※B種 (表19.7.3)
・石こうボードの目地工法 (表19.7.5)
・継目処理工法(　　)・突付け工法(　　)
・目透し工法(　　)
・石こうボードの石こう系接着剤による直張り工法 (19.7.3(6)による)
・(　　)

※9.0mm未満の合板上張り留め付けはタッカー留めとする。

8 壁紙張り

施工箇所	品質	防火性能
	※量産ｸﾛｽ ・	・不燃 ・準不燃 ・難燃
		・不燃 ・準不燃 ・難燃
		・不燃 ・準不燃 ・難燃
		・不燃 ・準不燃 ・難燃
		・不燃 ・準不燃 ・難燃

モルタル及びプラスター面の素地ごしらえ ・A種 ※B種 (表18.2.4)
石こうボード及びその他ボード面の素地ごしらえ ・A種 ※B種 (表18.2.7)
壁紙のホルムアルデヒドの放散量 ※規制対象外 ・第三種

⑩断熱材 (19.9.2)(19.9.3)

種類	施工箇所	厚さ(mm)	品質等
○押出法ポリスチレンフォーム保温板	※2種b	※一般部	※25 ・	○ノンフロンのもの ・特定フロンを使用しないもの
	※3種b	・接地部分 ・	※25 ・	
・現場発泡断熱材	※A種1又はA種1H	※断熱材補修部分		・ノンフロンのもの ・特定フロンを使用しないもの 難燃性・3級・2級
		・一般部	※15	
・断熱材兼用型枠	・木質系 ・ｺﾝｸﾘｰﾄ系 ・ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ系	※壁(図示の範囲)	※40以下	

ロックウール、グラスウール、ユリア樹脂又はメラミン樹脂を使用した断熱材のホルムアルデヒドの放散量 ※規制対象外 ・第三種

10 ポリカーボネート樹脂板

施工箇所	厚さ	色	耐候性	防火性能
	・3 ・5 ・	・着色 ・無色 ・ブロンズ	※一般型 ・超耐候性	※有り(大臣認定) ・無し

・大臣認定 (・DW ・UW)

20章 ユニット及びその他工事

1 フリーアクセスフロア (20.2.2)

施工箇所	仕上り高(mm)	耐震性能	耐荷重性能	表面仕上げ材
			・3000N ・5000N	・帯電防止床タイル ・タイルカーペット

スロープ及びボーダー ※製造所の標準仕様 ・図示

2 可動間仕切り (20.2.3)

構造形式	ﾊﾟﾈﾙ部の総厚さ(mm)	表面材種 厚さ(mm)	表面仕上げ
※パネル式 ・スタッド式 ・スタッドパネル式		※鋼板 (※0.6 ・0.8) ・	※メラミン樹脂又はアクリル樹脂焼付け ・

遮音性 ・あり(　　) ・なし

3 移動間仕切り (20.2.4)
操作方法 ・手動式 ・電動式 ・部分電動式
パネル表面材(・　　) 遮音性(・　　)
パネル圧着装置の操作方法 (・　　)

4 トイレブース (20.2.5)
パネル表面材 ※高圧メラミン樹脂系化粧板(アルミ製コナーエッジ付き)
・ポリエステル樹脂系化粧板(アルミ製コナーエッジ付き)
脚部 (ｽﾃﾝﾚｽ製) ※幅木タイプ ・脚金物タイプ

⑮階段滑り止め (20.2.6)
材種、形状 ※ステンレス製ビニルタイヤ入り ・
寸法(幅)※35mm ・ 取付け工法 ※接着工法 ・埋込み工法

6 黒板及びホワイトボード (20.2.8)

種類		寸法(mm)	色彩	備考
・黒板	※ホーロー		※緑 ・黒	※平面 ・曲面 ・
	※焼付け		※緑 ・黒	
・ホワイトボード	※ホーロー		※白	

7 表示 衝突防止表示 ※図示(市販品 ※ステンレス製 径約30mm ・) (20.2.10)
・なし
誘導標識、非常用進入表示等は市販品とし、その他は図示とする。

8 ブラインド (20.2.12)

形式	種類	スラットの材種・幅(mm)	施工箇所
※横型	※ギヤ式 ・コード式 ・操作棒式	※アルミニウム合金 ※25 ・	
・縦型	・1本操作コード ※2本操作コード	・アルミスラット ・80 ・クロススラット ・100	

9 ロールスクリーン 材種・品質(　　) (20.2.13)
操作方法(　　)

10 カーテン (20.2.14)

施工箇所	名称・品質	ひだの種別	形式
		・箱ひだ等 ・片ひだ	・片引 ・引分
		・箱ひだ等 ・片ひだ	・片引 ・引分

防炎加工 消防庁認定の ㋑ とする
・カーテンレール ・アルミニウム製 ※ステンレス製 ※C型又はD型
カーテンきれ地の はぎれ ※半幅未満は使用しない ・ 一幅未満は使用しない
暗幕用カーテンの重なりは300mm以上とする。なお、重ねか所は下記による。
・両端 ・上部 ※召合わせ

11 アコーディオンドア
表面材 ※ビニルレザー張り(防炎加工) ・
形式 ・両開き ・片開き
折りたたみ幅(mm) ※約 230 ・約 120 ・

12 点検口
天井点検口 ※アルミニウム製 (※額縁タイプ ・目地タイプ)
床点検口 ※アルミニウム製 ・ステンレス製
受け枠(・)

13 流し台ユニット

種類	寸法	適用内容	規格・品質等
流し台	※1200 ・1500 ・1800	トラップ付	・優良住宅部品
コンロ台	※600 ・700 ・	バックガード付	・
つり戸棚	※1200 ・900 ・600		
水切棚	※1200 ・900	SUS製 1段式	※市販品

14 天井見切縁 材種(※塩化ビニル製 ・アルミニウム合金)

15 くつふきマット

施工箇所	材種	寸法(mm)	受わく

16 フェンス

形式	高さ	網	基礎

製造所(　　)

17 旗ざお受金物 材種 ※ステンレス製 SUS 304 ・
製造所(　　)

18 旗ざお 形式 ・テーパー式 ・同一断面式 長さ(　　)
材質 ※アルミニウム合金 操作方法 ・ロープ式 ・ハンドル式

19 丸環 材種 ※ステンレス製(SUS 304) ・

20 救助袋 形式 ※斜降式 ・垂直式

21 屋根マンホール 形式 ※角形 ・丸形 寸法 ※ 600角 ・
材質 ※ＳＵＳ製 ・鋼板めっき製 ・

22 視覚障害者用誘導床材
材種 ・塩化ビニル系
・レジンコンクリート系 厚さ(mm) ※30 ・
・ 厚さ(mm) ・

23 車止め支柱 材質(・ステンレス ・)
SUSチェーン(・有 ・無) ・上下式 ・抜き差し式 ・固定式

24 エキスパンションジョイント金物
材質 ・アルミ ・ステンレス
クリアランス ・50 ・100 ・
耐火性能 ・有り(　　)・無し

25 耐震スリット

方向	タイプ	耐火性能	防水性能
・垂直方向 ・水平方向	※完全(全貫通型)スリット	・耐火型 ・非耐火型	・有り ・無し

目地	内壁(幅x深さ)	外壁(幅x深さ)
目地材	シーリング剤(見え掛りのみ)	シーリング剤(内外とも)
目地寸法(mm)	※20x10 ・	※20x10 ・

21章 排水工事

1 排水管 排水管用材料 (21.2.1～2)(表21.2.1)

材質	管の種類	管形状(接合方式)
※硬質ポリ塩化ビニル管	※ＶＰ ・ＶＵ	
・遠心力鉄筋コンクリート管	※外圧管(※1種 ・2種)	B形(ゴム接合)
・排水用硬質ポリ塩化ビニル管継手	・ＤＶ	

⑰排水桝及びふた 鋳鉄製マンホールふた (21.2.1)

種類	
・水封形 ○密閉形(ﾃｰﾊﾟｰﾊﾟｯｷﾝ式)	○T-2用 ・T-6用
・簡易密閉形(ﾊﾟｯｷﾝ式) ・中ふた付密閉形	・T-14用 ・T-20用

グレーチングふた (21.2.1)

材質	形式	種類	適用荷重	ﾒﾝﾊﾟｰﾋﾟｯﾁ	上面形状
・鋼製 ・ステンレス製	※受枠付き ・ ボルト固定 ※無し ・図示	・溝ふた用 ・桝ふた用 ・かさ上げ用 ・U字溝用	・歩行用 ・T-2用 ・T-6用 ・T-14用 ・T-20用	※細目 ※普通目 ・細目	※凹凸形 ※平形 ・凹凸形

3 埋戻し土 種別 ・A種 ※B種 ・C種 ・D種 (21.2.1)(表3.2.1)

22章 舗装工事

1 路床 ・遮断層 厚さ(mm)・ 材料 ※川砂、海砂、良質な山砂 ・ (22.2.2)
・路床安定処理 厚さ(mm)・ 添加材料の種類
・盛土材料 種別 ・A種 ・B種 ・C種 ・D種 (22.2.3)(表3.2.1)
・フィルター層 厚み ・車道150mm歩道50mm ・ (22.2.2～3)(表21.2.2)

2 路床土の支持力比試験 ・行う(・乱した土 ・乱さない土) ・行わない (22.2.5)

3 路床締固め度の試験 ・行わない ・行う (22.2.5)

4 砂の粒度試験 ・行わない ・行う

5 路盤材料 路盤の厚さ 車道部(※150 ・)mm 歩道部(※100 ・)mm (22.3.2～5)
種別及び呼び名 ※クラッシャランＣ－40又はクラッシャランスラグＣＳ－40
再生クラッシャランＲＣ－40
締固め度の検査 ※行う (　　箇所) ・行わない

6 路盤の構成及び仕上がり ・標仕22.3.2(3)は適用しない (22.3.2)

7 アスファルト舗装 構成及び厚さ ・車道部の基層なし 基層 － 表層 50mm (22.4.2)
・車道部の基層有り 基層 50mm 表層 30mm
・歩道部 基層 － 表層 30mm
配合その他 (22.4.4)
加熱アスファルト混合物等の種類 (表22.4.4～5)
基層 ・粗粒度アスファルト混合物(20)
表層 ※密粒度アスファルト混合物(13)又は密粒度アスファルト混合物(13Ｆ)
・細粒度アスファルト混合物(13)
試験練り ・行う ※行わない
シールコート ・行う ※行わない (22.4.5)
切取り試験 ・行う ※行わない (22.4.6)
平たん性 ※通行に支障となる水たまりを生じない程度
アスファルト混合物の抽出試験 ・行う ・行わない

8 コンクリート舗装 構成及び厚さ (22.5.2)

部位	厚さ(mm)	施工箇所
歩行者用通路	※70 ・	

コンクリート ※表22.5.1による ・ (22.5.3)(表22.5.1)
注入目地材 ※低弾性タイプ ・高弾性タイプ (表22.5.3)
厚さの試験 ・行う ※行わない (22.5.6)
平たん性 ※通行に支障となる水たまりを生じない程度

9 カラー舗装 構成及び厚さ ※標仕22.6.2による ・ (22.6.2)(表22.6.1)
舗装の種類 ・加熱系(・アスファルト混合物 ・石油樹脂系混合物)
・常温系(・ニート工法 ・塗布工法)
車道部の基層 ・有り ※無し

10 透水性アスファルト舗装 厚さ ※歩道部３０mm ・ (22.7.2)
平たん性 ※著しい不陸がないもの
アスファルト ・歩道部 ※ストレートアスファルト (22.7.3)(表22.7.1)
試験練り ・行う ※行わない (22.7.4)
開粒度アスファルト混合物の抽出試験 ・行う ・行わない (22.7.6)

11 ブロック系舗装 目地材 ※砂 ・モルタル (22.8.2)
舗石の基層 ※コンクリート舗装 ・アスファルト舗装
平たん性 ※歩行に支障となる段差がない(３mm以下)
舗石の種類 ・形状 ・寸法
コンクリート平板の種類及び寸法 ・N300 ・ (22.8.3)
インターロッキングブロック 材質 形状
表面加工 種類 寸法
クッション材 ※砂 ・空練りモルタル

12 砂利敷き 材料 ・A種(通路) ・B種(建物周囲その他) (22.9.2)

23章 植栽工事

1 植栽地の試験 ・標仕23.1.3を適用しない (23.1.3)

2 植栽基盤の適用 植栽基盤の整備 ・適用しない ・適用する(　　) (23.2.2)
有効土層の面積及び厚さ ・面積 ・厚さ (表23.2.1)
植栽基盤の工法 種別※A種(樹木) ※B種(芝等) ・C種 ・D種 (表23.2.2)

3 材料 植込み用土 ※現場発生土の良質土 ・客土 (23.2.3)
土壌改良材 ※バーク堆肥又は汚泥発酵肥料 ・ (23.2.3)

4 植樹 樹木の樹種、寸法、株立数、数量 ※図示による ・ (23.3.2)
支柱材 ※加圧式防腐処理丸太材 ・真竹
幹巻き用材料 ※幹巻き用テープ ・わら ・こも ・

5 新植の工法 支柱 ・添え柱型 ・鳥居型 ・ハット掛け形 (23.3.3)
・布掛け ・ワイヤ掛け ・地下埋設形支柱

6 新植樹木の枯補償 枯補償の期間 ※引渡しの日から１年 ・ (23.3.4)

7 移植樹木の枯損処理 枯損処理を行う期間 ※引渡しの日から１年 ・ (23.3.6)

8 芝張り 芝 ※こうらい芝 ・野芝 (23.4.2)
吹付けは種用種子 ※洋芝類(量) ・ (23.4.2)
芝張りの工法 ※標仕 23.4.3 による (23.4.3)

9 屋上緑化 土壌層の厚さ(　　cm) (23.5.2)
・排水層 ・軽量骨材 ・板状成形品 (23.5.3)
・土壌層 ・人工軽量土 ※改良土

個人情報取扱注意事項

個人情報の取り扱いに関する事項
この契約による業務を行うに当たり個人情報(特定個人情報(個人番号をその内容に含む個人情報をいう。)を含む。)を取り扱う場合においては、下記条文を順守すること。

(基本事項)
第１ この契約による工事の施工者(以下「乙」という。)は、この契約による工事を施工するに当たり、個人情報(特定個人情報(個人番号をその内容に含む個人情報をいう。)を含む。以下同じ。)を取り扱う際には、個人情報の保護の重要性を認識し、個人の権利利益を侵害することのないようにしなければならない。
(施工者の義務)
第２ 乙及びこの契約による工事に従事している者又は従事していた者(以下「乙の従事者」という。)は、当該工事を施工するに当たり、個人情報を取り扱うときは、四日市市個人情報保護条例(平成11年四日市市条例第25号。以下「条例」という。)第11条に規定する義務を負う。
２ 乙は、この契約による工事において個人情報が適正に取り扱われるよう乙の従事者を指揮監督しなければならない。
(秘密の保持)
第３ 乙及び乙の従事者は、この契約による工事を施工するに当たって知り得た個人情報を当該工事を施工するために必要な範囲を超えて使用し、又は他人に知らせてはならない。
２ 乙は、乙の従事者が在職中及び退職後においても、前項の規定を遵守するように必要な措置を講じなければならない。
３ 前２項の規定は、この契約が終了し、又は解除された後においても同様とする。
(適正な管理)
第４ 乙は、この契約による工事に係る個人情報の漏えい、滅失又は改ざんの防止その他の個人情報の適正な管理のために必要な措置を講じなければならない。
２ 乙は、個人情報の適正な管理のため、管理責任者を置くものとする。
３ 管理責任者は、個人情報を取り扱う工事の従事者を必要な者に限定し、これらの従事者に対して、個人情報の管理方法等について適正な指導管理を行わなければならない。
４ 四日市市(以下「甲」という。)は、必要があると認めたときは、個人情報の管理状況等に関し、乙に対して報告を求め、又は乙の作業場所を実地に調査することができるものとする。この場合において、甲は乙に必要な改善を指示することができるものとし、乙は、その指示に従わなければならない。
(収集の制限)
第５ 乙及び乙の従事者は、この契約による工事を施工するために、個人情報を収集するときは、当該工事を施工するために必要な範囲内で、適法かつ公正な手段により収集しなければならない。
(再提供の禁止)
第６ 乙は、あらかじめ甲の承諾があった場合を除き、この契約による工事に係る個人情報を第三者に再提供してはならない。
２ 乙は、前項の承諾により再提供する場合は、再提供先における個人情報の適正な取り扱いのために必要な措置を講じなければならない。
３ 前項の場合において、乙は、再提供先と本注意事項に準じた個人情報の取り扱いに関する契約を交わすものとする。
(複写、複製の禁止)
第７ 乙及び乙の従事者は、あらかじめ甲の指示又は承諾があった場合を除き、この契約による工事を施工するに当たって、甲から提供された個人情報が記録された資料等(以下「資料等」という。)を複写し、又は複製してはならない。
(持ち出しの禁止)
第８ 乙及び乙の従事者は、あらかじめ甲の指示又は承諾があった場合を除き、資料等(複写又は複製したものを含む。第9において同じ。)を契約書に指定された作業場所から持ち出してはならない。
２ 甲及び乙は、乙が前項の指示又は承諾により資料等を持ち出す場合、その内容、期間、持ち出し先、輸送方法等を書面により確認するものとする。
３ 前項の場合において、乙は、資料等に施錠又は暗号化等を施して関係者以外の者がアクセスできないようにするとともに、資料等を善良なる管理者の注意をもって保管又は管理し、漏えい、滅失及びき損の防止その他適切な管理を行わなければならない。
(資料等の返還)
第９ 乙は、この契約による工事を施工するに当たって、甲から提供された個人情報が記録された資料等を、当該工事の終了後速やかに甲に返還し、又は引き渡さなければならない。ただし、甲の指示により廃棄し、又は消去する場合を除く。
２ 前項の廃棄又は消去は、次の各号に定めるほか、他に漏えいしないよう適切な方法により行うものとする。
(1) 紙媒体 シュレッダーによる裁断
(2) 電子媒体 データ完全消去ツールによる無意味なデータの上書き、もしくは媒体の破砕
３ 乙は、第6の規定により甲の承諾を得てこの契約による工事に係る個人情報を第三者に再提供したときは、当該工事の終了後速やかに当該第三者から資料等を回収のうえ甲に返還し、又は引き渡さなければならない。ただし、甲の指示により、乙又は第三者が資料等を廃棄し、又は消去する場合を除く。
４ 前項ただし書の規定により、第三者が資料等を廃棄し、又は消去する場合においては、乙は、当該資料等が廃棄、又は消去されたことを直接確認しなければならない。
(研修・教育の実施)
第10 乙は、乙の従事者に対し、個人情報の重要性についての認識を深めるとともに、この契約による工事における個人情報の適正な取り扱いに資するための研修・教育を行うものとする。
(罰則等の周知)
第11 乙は、条例第44条、第45条、第47条及び第48条に規定する罰則適用について、乙の従事者に周知するものとする。
(苦情の処理)
第12 乙は、この契約による工事の施工に当たって、個人情報の取り扱いに関して苦情があったときは、適切かつ迅速な処理に努めるものとする。
(事故発生時における報告)
第13 乙は、この個人情報取扱注意事項に違反する事故が生じ、又は生じるおそれがあることを知ったときは、速やかに甲に報告し、甲の指示に従うものとする。
(契約解除及び損害賠償)
第14 甲は、乙又はこの従事者がこの個人情報取扱注意事項に違反していると認めたときは、契約の解除及び損害賠償の請求をすることができる。

事業名	令和３年度 公共下水道事業		
工事名	波木汚水中継ポンプ場上屋建築工事		
工事場所	四日市市 波木町 地内		
名称	特記仕様書(４)		
縮尺	---	設計年月日	令和 年 月 日
工種		設計者	
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	A－6

工事区分一覧表

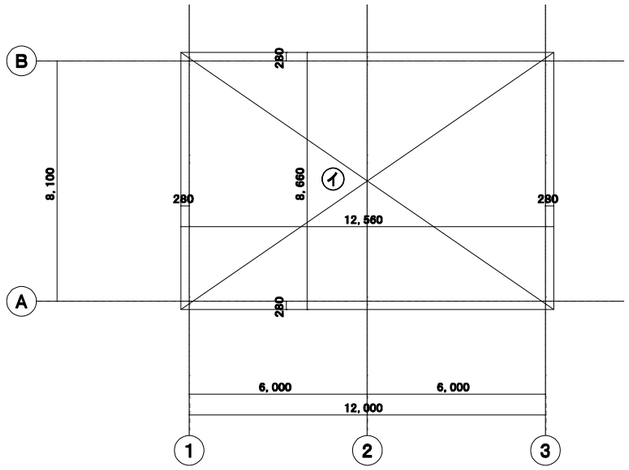
Ｎｏ	項　目	場　所	建築工事	建築機械設備工事	建築電気設備工事	土木工事	ﾌﾟﾗﾝﾄ機械設備工事	ﾌﾟﾗﾝﾄ電気設備工事	備　考
１	捨てコン・砕石					○			
２	躯体	１ＳＬ以下				○			
３	〃	１ＳＬ以上	○						
４	無筋コンクリート	水路階（水路内）				○			
５	〃	水路階（機器設置部分）					○		スクリーン，破砕機，ポンプ部
６	〃	地下１階（ポンプ室）				○			
７	〃	１階（自家発電機室）						○	
８	〃	１階（ゲート室）					○		
９	〃	２階（電気室）						○	
１０	合成木材蓋	地下１階（ポンプ室），角落し部				○			枠共
１１	〃	地下１階（ポンプ室） スクリーン，破砕機，ポンプ部					○		枠は土木
１２	角落し	水路階				○			枠共
１３	タラップ	水路階（着水井）・１階（ゲート室）	○			○			
１４	ＰＣ蓋	１階（ゲート室）				○			枠共
１５	ホイストレール	１階（ゲート室）	○						
１６	〃	地下１階（ポンプ室）				○			
１７	衛生器具	２階（便所）		○					
１８	アルミ製手摺	外部（階段・バルコニー）	○						
１９	ステンレス梯子タラップ	外部	○						
２０	竪樋	外部（ＧＬまで）	○						
２１	マンホール蓋	外部（ハンドホール）	○						枠共
２２	〃	着水井，水路，ポンプ井等必要箇所				○			枠共
２３	足洗い場	屋外	○						
２４	手洗い	地下1階（ポンプ室）		○					ドレン管含む
２５	〃	１階（ゲート室）		○					ドレン管含む
２６	床排水管	1階～地下1階～着水井またはポンプ井				○			目皿含む
２７	側溝モルタル仕上げ	地下１階				○			
２８	〃	１階（ゲート室）					○		
２９	吊フック	地下１階(ポンプ室)				○			
３０	〃	１階（ゲート室）	○						
３１	防食塗装	着水井，各水路，ポンプ井					○		全て
３２	ケーブル敷設	水中ポンプ，破砕機，電動チェンブロック					○		1階端子箱まで
３３	側溝部グレーチング					○			必要に応じて
３４	ハンドホール		○						

Ｎｏ	項　目	場　所	建築工事	建築機械設備工事	建築電気設備工事	土木工事	ﾌﾟﾗﾝﾄ機械設備工事	ﾌﾟﾗﾝﾄ電気設備工事	備　考
３５	建具		○						
３６	仕上げ	地下階段を含む	○						
３７									
３８									
３９									
４０									
４１									
４２									
４３									
４４									
４５									
４６									
４７									
４８									
４９									
５０									
５１									
５２									
５３									
５４									
５５									
５６									
５７									
５８									
５９									
６０									
６１									
６２									
６３									
６４									
65									

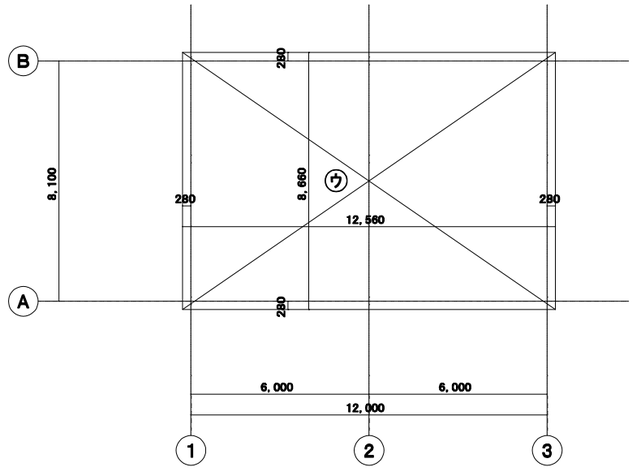
記載項目例

- 躯　体
- 地下貯油槽外殻
- 捨コン
- ポーチ
- 砂利地業
- 客　土
- 止水板
- 足洗場
- スリーブ
- スロープ
- 箱　抜
- 床流し
- 仕　上
- 花　壇
- 取合差筋
- 流し台
- マンホール蓋
- コンロ台
- ハンドホール
- 水切棚
- タラップ
- 吊戸棚
- ホイストレール
- 浴　槽
- 受枠及蓋
- スノコ
- ドレーン
- バランス釜
- 樋
- 防火パン
- 換気扇取付枠
- 安全水槽
- 床排水目皿
- フード
- 連通管
- 配管トラフ
- トップライト
- 配管ピット
- ルーフファン
- 防液堤
- 床無筋コンクリート
- 床仕上
- 機械基礎及差筋
- 階段室及段ウラ
- 側　溝
- グレーチング
- 手　摺
- 雨水桝
- 笠　木
- ノンスリップ

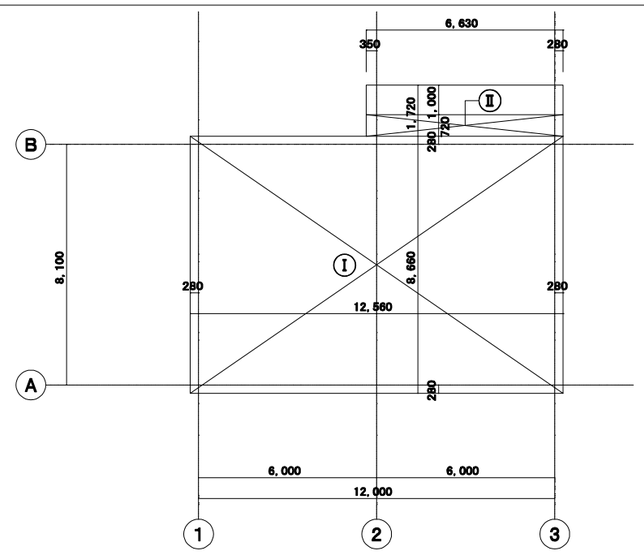
事業名	令和３年度 公共下水道事業		
工事名	波木汚水中継ポンプ場上屋建築工事		
工事場所	四日市市　波木町 地内		
名　称	工事区分表		
縮　尺	ーーー	設計年月日	令和　年　月　日
工　種		設計者	
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	A-7



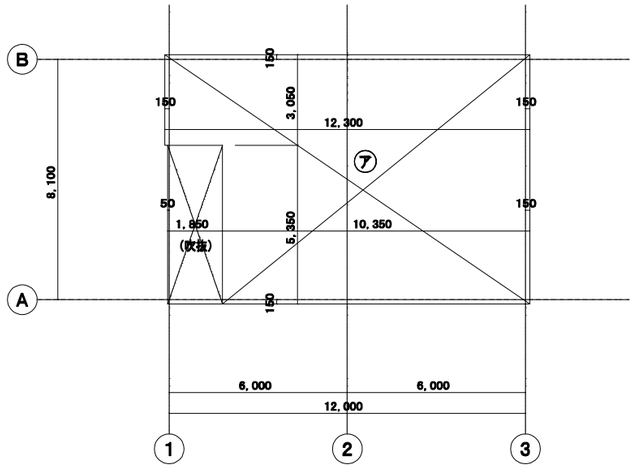
1階求積面積図　S=1:200



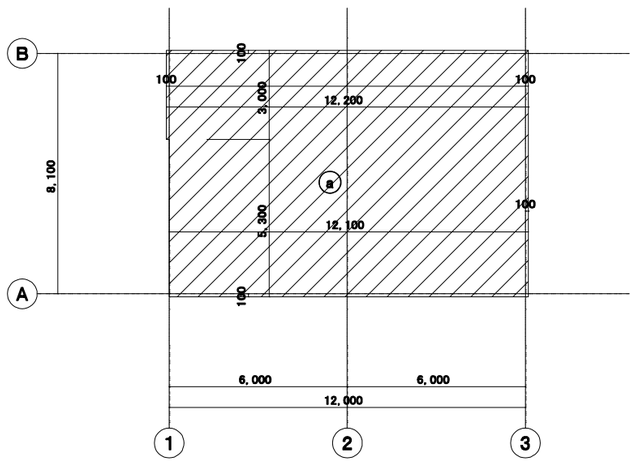
2階求積面積図　S=1:200



建築面積求積図　S=1:200



地下１階求積面積図　S=1:200



水路階求積面積図　S=1:200

水路階延床面積				
計算式（建築）			計算式（工作物）	
――	――	(ぎ)	12．10 × 5．30	64．130
――	――		12．20 × 3．00	36．600
合　計	―― ㎡		合　計	100．730 ㎡

地下１階延床面積				
計算式			計算式（工作物）	
(ア) 10．35 × 5．35	55．373		――	――
12．30 × 3．05	37．515		――	――
合　計	92．888 ㎡	合　計		―― ㎡

１階延床面積				
計算式			計算式（工作物）	
(イ) 12．56 × 8．66	108．770		――	――
合　計	108．770 ㎡	合　計		―― ㎡

２階延床面積				
計算式			計算式（工作物）	
(ウ) 12．56 × 8．66	108．770		――	――
合　計	108．770 ㎡	合　計		―― ㎡

延床面積 ㎡			
	建築物	工作物	合　計
水路階	――	100．73	100．73
地下１階	92．88	――	92．88
１階	108．77	――	108．77
２階	108．77	――	108．77
合　計	310．42	100．73	411．15

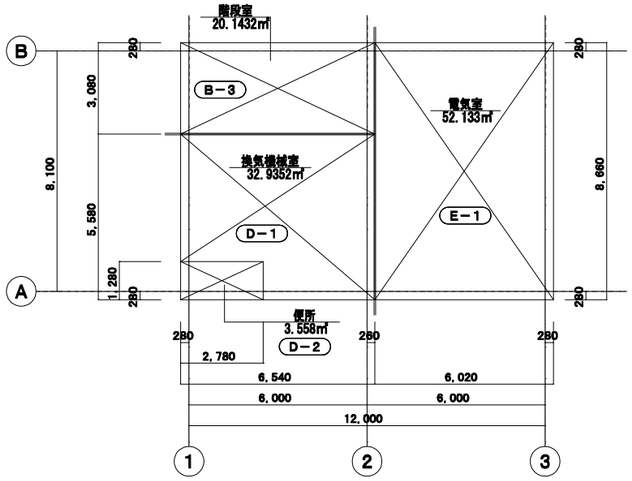
施工面積	411．15 ㎡

延床面積	310．42 ㎡

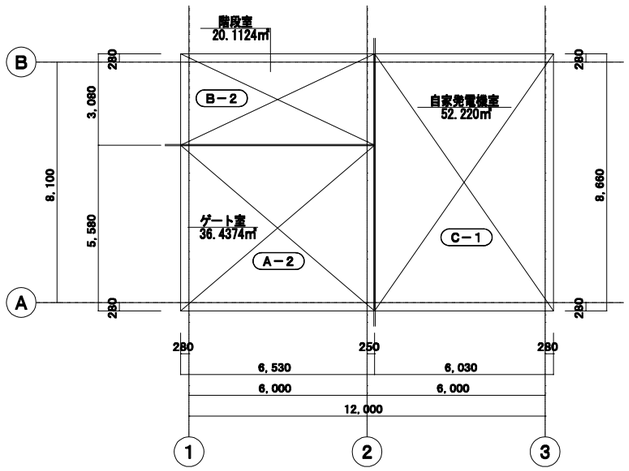
建築面積		
計算式		
(Ⅰ) 12．56 × 8．66	108．770	
(Ⅱ) 6．63 × 0．72	4．774	
合　計	113．544 ㎡	

建築面積	113．54 ㎡

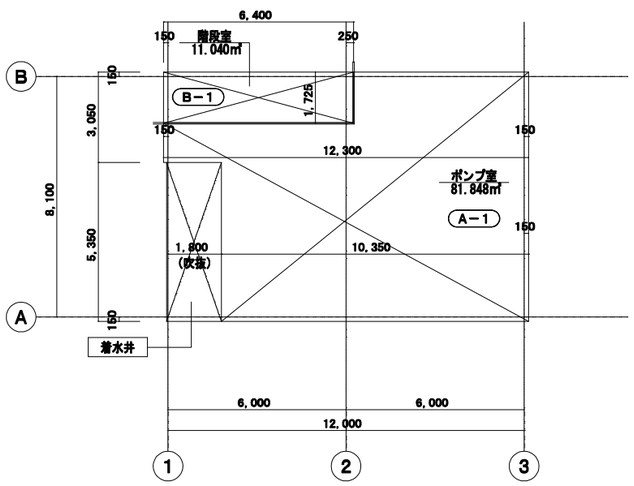
事業名	令和３年度 公共下水道事業		
工事名	波木汚水中継ポンプ場上屋建築工事		
工事場所	四日市市　波木町 地内		
名　称	求積面積図		
縮　尺	1/200	設計年月日	令和　年　月　日
工　種		設計者	
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	A－8



２階部屋別求積面積図　S=1:200



１階部屋別求積面積図　S=1:200



地下１階部屋別求積面積図　S=1:200

地下１階部屋別床面積計算表

ポンプ室床面積計算表

記号	室名	計算式	面積
A－1	ポンプ室	10.35 × 5.35	55.373
		12.30 × 3.05	37.515
B－1	階段室		▲ 11.040
合計			81.848㎡

階段室床面積計算表

記号	室名	計算式	面積
B－1	階段室	6.40 × 1.725	11.040
合計			11.040㎡

１階部屋別床面積計算表

ゲート室床面積計算表

記号	室名	計算式	面積
A－2	ゲート室	6.53 × 5.58	36.4374
合計			36.4374㎡

階段室床面積計算表

記号	室名	計算式	面積
B－2	階段室	6.53 × 3.08	20.1124
合計			20.1124㎡

自家発電機室床面積計算表

記号	室名	計算式	面積
C－1	自家発電機室	6.03 × 8.66	52.220
合計			52.220㎡

２階部屋別床面積計算表

階段室床面積計算表

記号	室名	計算式	面積
B－3	階段室	6.54 × 3.080	20.1432
合計			20.1432㎡

換気機械室床面積計算表

記号	室名	計算式	面積
D－1	換気機械室	6.54 × 5.580	36.4932
D－2	便所		▲ 3.5580
合計			32.9352㎡

便所床面積計算表

記号	室名	計算式	面積
D－2	便所	2.78 × 1.28	3.558
合計			3.558㎡

電気室床面積計算表

記号	室名	計算式	面積
E－1	電気室	6.02 × 8.66	52.133
合計			52.133㎡

防火区画

床面積（㎡）

		地下１階部屋別床面	１階部屋別床面	２階部屋別床面	合計
A	A－1	81.848	———	———	118.2854
	A－2	———	36.4374	———	
B	B－1	11.040	———	———	51.2956
	B－2	———	20.1124	———	
	B－3	———	———	20.1432	
C－1		———	52.220	———	52.220
D	D－1	———	———	32.9352	36.4932
	D－2	———	———	3.558	
E－1		———	———	52.133	52.133
合計		92.888	108.7698	108.7694	310.4272

※四日市市火災予防条例　第13条1項(3)及び第14条4項より、電気室・自家発電機室については防火区画するものとする。

事業名	令和３年度 公共下水道事業		
工事名	波木汚水中継ポンプ場上屋建築工事		
工事場所	四日市市　波木町 地内		
名称	部屋別求積面積表		
縮尺	1/200	設計年月日	令和　年　月　日
工種		設計者	
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	A－9

汚水中継ポンプ場仕上表

共通事項

1. 内外部付属物の適用分類、詳細番号は○印のものを適用する。
2. 仕上表に記載の詳細番号のうち、１－０２－０３は建築工事標準詳細図（国土交通大臣官房官庁営繕部監修）を示す。
3. 特記以外の木、鉄部の塗装は、ＳＯＰとする。但し、和室周りは除く。
4. 付属物のうち、室名板、床点検口、掲示板、案内板ピクトグラフ、階数表示板等は、平面図による。
5. 付属物のうち、カーテンボックス、ブラインドボックス、ブラインド、天井点検口等は、天井伏図による。
6. ＰＦ板、木毛板等の打込み側所は、別図による。
7. 内部の見え掛りとなるＰＦ板打込み部分は、ＧＢ厚１２．５直張り（継目処理工法）とし、塗装は、その部屋の壁面と同様とする。
8. 壁のボード張りは水平方向に継手は設けない。
9. 天井仕上げボード張りのうち、ＧＢ（ＮＣ）及びＤＲ（下地ＧＢ共）は突付け張りとし、天井回り廻はアルミ製、天井付き目地とする。
10. 直接地盤工事に接する内部床コンクリート下地には防湿層としてポリエチレンフィルム厚０．１５の敷込みを行う。ただし、床仕上げが、ビニル床タイル、ビニル床シート及び合成樹脂塗床、床用塗料の場合とする。
11. 打放し仕上の出隅部分は、面取りを行う。

略号

C	コンクリート下地	外装薄塗材（Ｅ）	外装合成樹脂エマルション系薄付け仕上塗材
CB	コンクリートブロック下地	内装薄塗材（Ｓｉ）	内装けい酸質系薄付け仕上塗材
W	木造下地	内装薄塗材（Ｅ）	内装合成樹脂エマルション系薄付け仕上塗材
S	軽量鉄骨下地	複層塗材（Ｓｉ）	けい酸質系複層仕上塗材
M	モルタル	複層塗材（ＣＥ）	ポリマーセメント系複層仕上塗材
Ｃ（Ｂ）	コンクリート下地（打放シＢ）	複層塗材（Ｅ）	合成樹脂エマルション系複層仕上塗材
Ｃ（Ｃ）	コンクリート下地（打放シＣ）	複層塗材（ＲＥ）	反応硬化形合成樹脂エマルション系複層仕上塗材
GB(R)	せっこうボード	複層塗材（ＲＳ）	合成樹脂溶液系複層仕上塗材
GB(N)	不燃積層せっこうボード（化粧無し：下地処理用）	軽量吹付	軽量骨材仕上塗材
GB(NC)	不燃積層せっこうボード（化粧有り：トラバーチン模様）	ＳＯＰ	合成樹脂調合ペイント塗り
GB(D)	化粧せっこうボード	ＣＬ	クリヤラッカー塗り
GB(S)	シージングせっこうボード	ＮＡＤ	アクリル樹脂系非水分散形塗料塗り
GB(F)	強化せっこうボード	ＤＰ	耐候性塗料塗り
ケイカル板	けい酸カルシウム板（タイプ２）	ＥＰ－Ｇ	つや有合成樹脂エマルションペイント塗り
DR	ロックウール化粧吸音板　トラバーチン模様	ＥＰ－Ｇ(水系)	つや有合成樹脂エマルションペイント塗り（屋内水系塗料塗り）
DR（凹凸）	ロックウール化粧吸音板　凹凸模様	ＥＰ	合成樹脂エマルションペイント塗り
DR（軒天）	ロックウール化粧吸音板（軒天井用：トラバーチン模様）	ＥＰ－Ｔ	合成樹脂エマルション模様塗料塗り
DR（軒天凹凸）	ロックウール化粧吸音板（軒天井用：凹凸模様）	ＵＣ	ウレタン樹脂ワニス塗り
ＰＦ板	押出法ポリスチレンフォーム保温材	ＯＳ	オイルステイン塗り
HW	木質系セメント板（硬質木毛セメント板）	ＷＰ	木材保護塗料塗り
ＴＢ	テラゾーブロック	ＧＷ	グラスウール吸音板（ガラスクロス張）
		複合板	ＰＦ板⑦３０＋ＧＢ－Ｒ⑦１２．５

外部付属物及び詳細番号

・屋上点検口	・5－21－1	・旗　竿	・図　示
・屋上管類貫通部	・5－22－1	・くつぬきマット	・8－21－2　・8－21－3
・クーリングタワー基礎	・5－22－2　・5－22－3	・消音機ＲＣ基礎	・図　示
・テレビアンテナ基礎			
・屋上換気塔	・5－21－2　・図　示	・くつ洗い流し	・8－23－1　・8－23－2
・煙　突	・図　示　・7－21－1	・グレーチング流し	
⊙タラップ	◔8－31－2　・8－31－3	⊙電気用ハンドホール蓋	⊙図　示
	⊙背もたれ付　・図　示	・文字板	・図　示
⊙とい	◔5－31，32，33　Φ（100）	・庁名板	・図　示
⊙ルーフドレイン	◔5－32－1　・図示 Φ（100）	・郵便受	・図　示
	・5－33－1	⊙目地	◔2－02－7～11
・トップライト	・搬入口　・図　示		
・ＥＸＰ．Ｊ金物	・既製品　・図　示		
⊙笠木横用避雷導体			
⊙手すり	⊙アルミ		
	○・脱着式　・図示		
	・ステンレス（図示）		
	・スチール（図示）		

内部付属物及び詳細番号

・流し台	・図　示	・カーテンボックス	・鋼　製　・3－31－1.2
・フード	・図　示	・カーテンボックス	・アルミ製　・3－31－3
・コンロ台	・図　示		
・流し上部水切り		・屋内掲示板	・既製品
・つり戸だな	・図　示	⊙手すり	・アルミ　・スチール
・水切りだな	・図　示		⊙図　示
・脱衣箱	・6－32－1		
・天井点検口	・3－42－2	⊙階段手すり	・アルミ
・床点検口	・既製品		○・図　示
・便所へだて	・既製品　・6－22－1～3	⊙吸音壁	◔2-02-13
・放体不自由者便所	・6－23－1，2	・断熱材打込み	・7－01－1　・7－01－2
・便所手摺	・6－27－1～5	・押　入	・6－46－1
・トラフ	・1－21－1～8	⊙ホイストレール	⊙図　示
・くつぬきマット	・8－21－1	・クレーンガーター	・図　示
⊙タラップ	・図　示　◔8－31－1	⊙搬入口	⊙図　示
		⊙マンホール蓋	⊙図　示
⊙フック	⊙Ｕ型	⊙室名札	◔8－43－1～3
	・釣針型	⊙ピクトグラフ	◔8－44－1，2
・グレーチング受枠	・図　示	・庁舎案内板、各階案内板	・8－42－1～3
・浴室まわり	・6－31－1～4	・下足箱	・図　示

外部仕上表

床	腰	外壁	屋根		パラペット	搬入バルコニー	外部階段	備考
			下地	仕上				
モルタル金ゴテ コンクリート直均し	コンクリート打放（Ｂ）	コンクリート打放（Ｂ）の上複層塗材（ＲＥ）	下　地：コンクリート直均し 防水層：アスファルト防水（Ａｉ－１） 絶縁材：フラットヤーンクロス７０ｇ/㎡ 程度 断熱材：押出法ポリスチレンフォーム３種ｂ	押え：無筋コンクリート厚８０ 補強用溶接金網６φ－１００@ 仕上：押えコンクリート直均し仕上	笠木：アルミ既製品　Ｗ＝３５０ 立上：コンクリート打放（Ｃ） ＜５－０１－１＞	床：モルタル⑦３０～５０	蹴上・踏面：モルタル⑦３０	アルミ製庇（既製品）

内部仕上表

階	室名	床 下地	床 仕上	床 詳細番号	幅木 下地	幅木 仕上	幅木 高さ	幅木 詳細番号	腰壁 下地	腰壁 仕上	腰壁 高さ	腰壁 詳細番号	壁 下地	壁 仕上	壁 詳細番号	壁 柱型仕上	壁 柱型詳細番号	天井 下地	天井 仕上	天井 高さ	天井 詳細番号	天井 梁型仕上	天井 詳細番号	備考
水路階	着水井	無筋Ｃ⑦ 1410	直均し	C 1-01-3									C	打放	2-02-7	―――	C ―――	C	打放	スラブ下	3-01-11	―――	C ―――	タラップ 角落し 排水管 C <防食塗料> PM
	主水路・バイパス水路	無筋Ｃ⑦ 640～815	直均し	C 1-01-3									C	打放	2-02-7	―――	C ―――	C	打放	スラブ下	3-01-11	―――	C ―――	<タラップ> C <角落し> C <防食塗料> PM
	分配槽・ポンプ井	無筋Ｃ⑦ 0～1550	直均し	C 1-01-3									C	打放	2-02-7	―――	C ―――	C	打放	スラブ下	3-01-11	―――	C ―――	<タラップ> C <角落し> C <防食塗料> PM
Ｂ１階	ポンプ室	無筋Ｃ⑦ 200 補強用溶接金網 ６φ－１００@	直均し	C 1-01-3									C	打放	2-02-7	―――	C ―――	C	打放	スラブ下	3-01-11	壁仕上に同じ	C 3-01-11	<排水溝> C <吊りフック> C ホイストレール
１階	ゲート室	無筋Ｃ⑦ 300 補強用溶接金網 ６φ－１００@	直均し	PM 1-01-3									C	打放（Ｂ）	2-02-7	―――	―――	C	打放（Ｃ）	スラブ下	3-01-11	壁仕上に同じ	3-01-11	マンホール C 搬入口 排水管 ＶＰ（L=5.6m） 排水目皿 吊りフック ホイストレール
	自家発電機室	無筋Ｃ⑦ 300 補強用溶接金網 ６φ－１００@	直均し	PE 1-01-3	C	打放（Ｂ）	300	2-02-7					C	ＧＷ⑦２５	2-02-13	―――	―――	C	ＧＷ⑦２５	スラブ下	3-01-12	壁仕上に同じ	2-02-13	防液堤
２階	換気機械室	C 増打⑦３０	直均し	1-01-3	C	打放（Ｂ）	300	2-02-7					C	ＧＷ⑦２５	2-02-13	―――	―――	C	ＧＷ⑦２５	スラブ下	3-01-12	壁仕上に同じ	2-02-13	
	電気室	無筋Ｃ⑦ 300 補強用溶接金網 ６φ－１００@	直均しの上帯電防止タイル	PE 1-01-4	複合板	ボードの上ビニル巾木	100	2-02-7					複合板	ボードの上ＥＰ－Ｇ	2-02-13	打放（Ｂ）の上ＥＰ－Ｇ	2-02-7	C	打放（Ｃ）の上ＥＰ－Ｇ	スラブ下	3-01-11	打放（Ｂ）	3-01-11	複合板は外壁側のみ。
					C	打放（Ｂ）の上ビニル巾木	100	2-02-7					C	打放（Ｂ）の上ＥＰ－Ｇ	2-02-7									
	便所	C 増打⑦３０	直均しの上 ビニル床シート ｔ＝２．０	1-01-4	C	打放（Ｂ）の上ビニル巾木	100	2-02-7					C	打放（Ｂ）	2-02-7	打放（Ｂ）	2-02-7	C	打放（Ｃ）	スラブ下	3-01-11	打放（Ｂ）	3-01-11	ライニング 衛生器具
共通	階段室	最下部 無筋Ｃ⑦ 200 補強用溶接金網 ６φ－１００@	直均し	1-01-3									C	打放(B)	2-02-7	壁仕上と同じ	2-02-7	段裏 C	打放(C)	スラブ下	3-01-11	―――	―――	排水溝 ステンレスノンスリップ 手摺 水抜きパイプ
		一般部 M	モルタル金ゴテ	1-01-1														最上部 C	打放(C)	スラブ下	3-01-11	壁仕上と同じ	3-01-11	

特記なき限り

仕上材料の厚さ

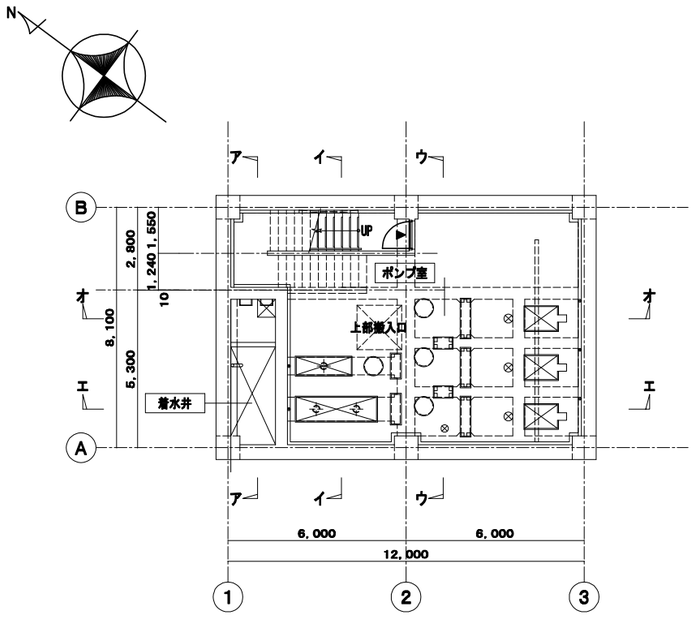
材料名	種別	壁（mm）	天井（mm）	備考
ＧＢ－Ｒ	仕上	１２．５	９．５	ＮＭ－８６１９（１２．５mm）
	下地	１２．５		ＱＭ－９８２８（９．５mm）
ＧＢ－ＮＣ	仕上		９．５	ＮＭ－０４４１
ケイ酸カルシウム板(タイプ２)	仕上		６．０	ＮＭ－８５７８
グラスウール吸音板(ｶﾞﾗｽｸﾛｽ張)	仕上	２５	２５	ＮＭ－８６０６（不燃材料とする）

材料名	種別	壁（mm）	天井（mm）	備考
ＤＲ			１２	ＮＭ－８５９９
ケイカル板(複合板面)		６		ＮＭ－８５７６
ＧＷ		２５		ＮＭ－８６０６
ＥＰ-Ｇ				ＮＭ－８５８５

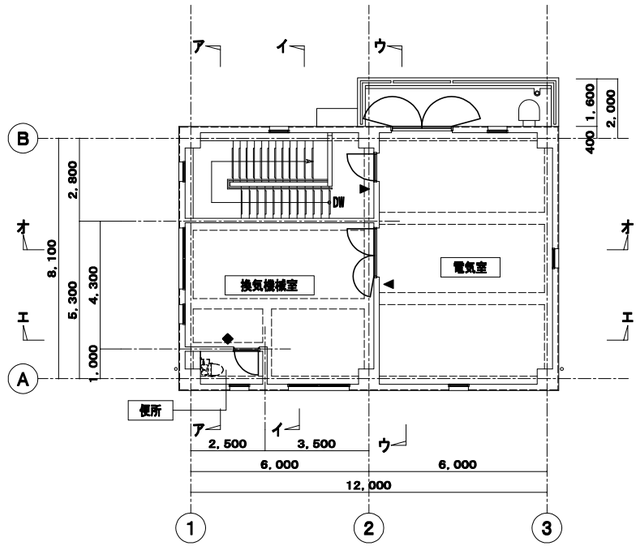
工事区分略号

< > C	：土木工事
< > PM	：プラント機械設備工事（別途工事）
< > PE	：プラント電気設備工事（別途工事）

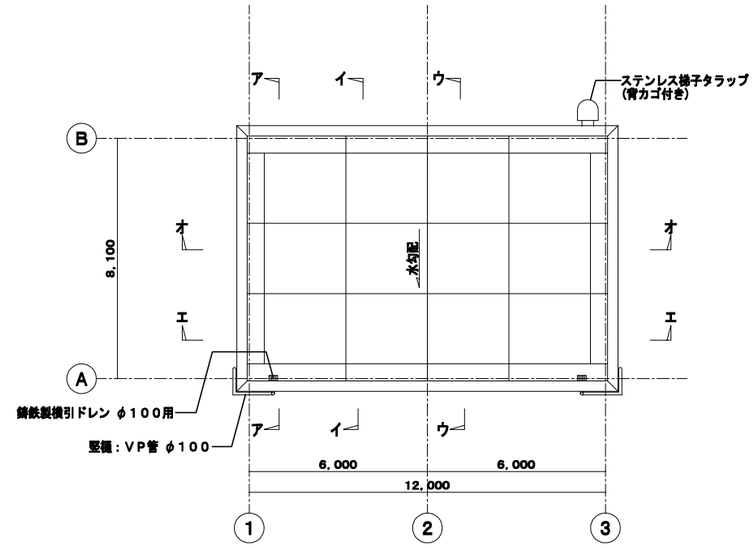
事業名	令和３年度 公共下水道事業		
工事名	波木汚水中継ポンプ場上屋建築工事		
工事場所	四日市市　波木町 地内		
名称	仕上表		
縮尺	――	設計年月日	令和　年　月　日
工種		設計者	
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	Ａ－１０



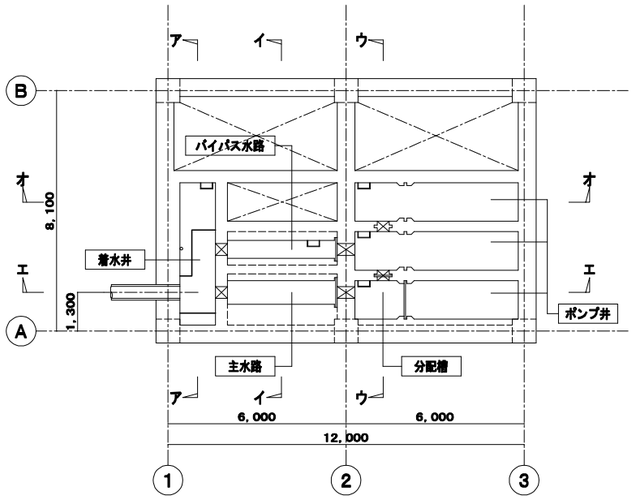
地下１階平面図　S=1:200



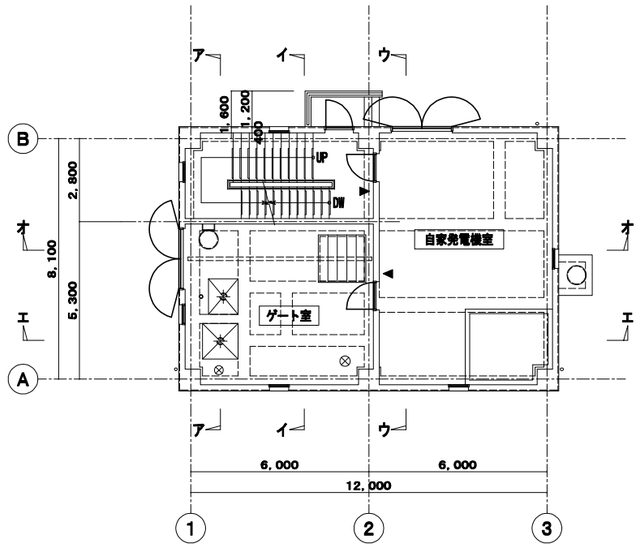
２階平面図　S=1:200



屋上平面図　S=1:200



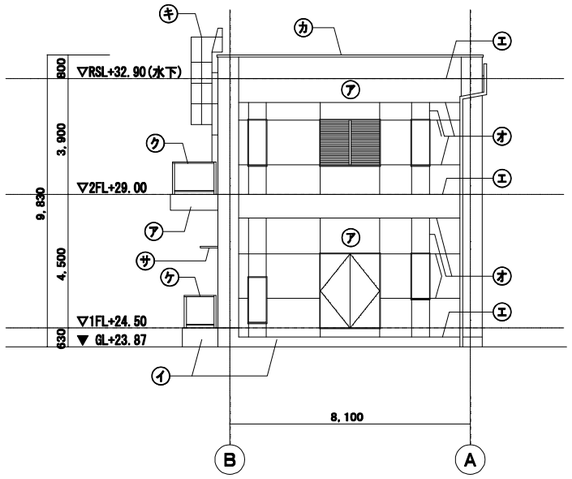
水路階平面図　S=1:200



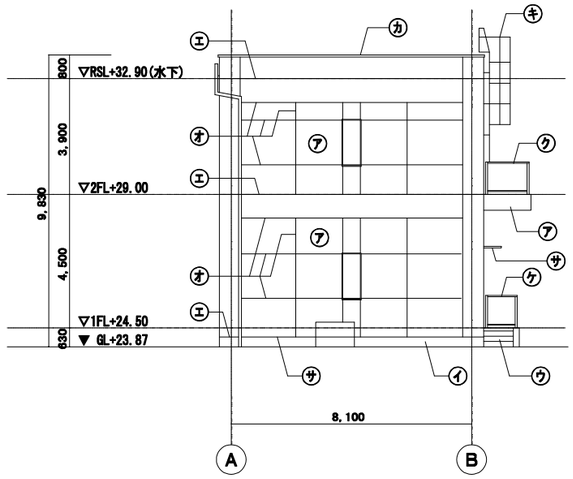
１階平面図　S=1:200

記号	凡　例
▲	室名札
◆	ピクトグラフ

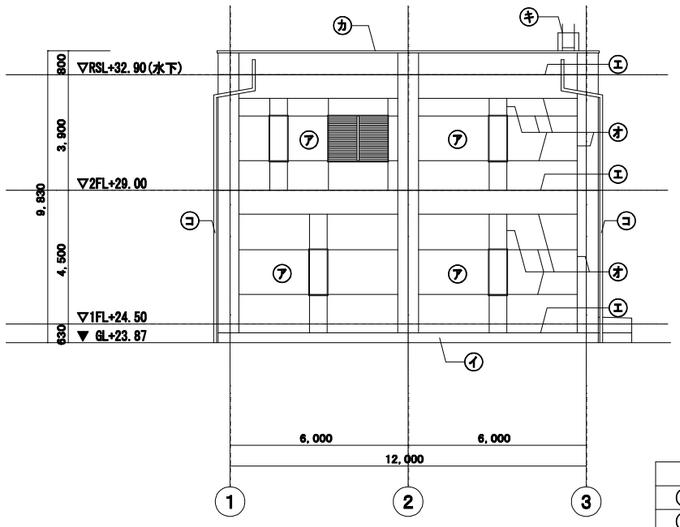
事業名	令和３年度 公共下水道事業		
工事名	波木汚水中継ポンプ場上屋建築工事		
工事場所	四日市市　波木町 地内		
名　称	平面図		
縮　尺	1/200	設計年月日	令和　年　月　日
工　種		設計者	
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	A－11



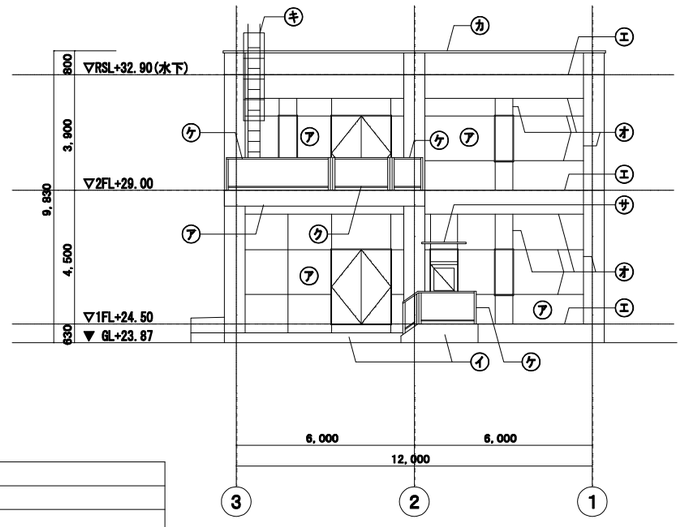
北立面図　S=1:200



南立面図　S=1:200



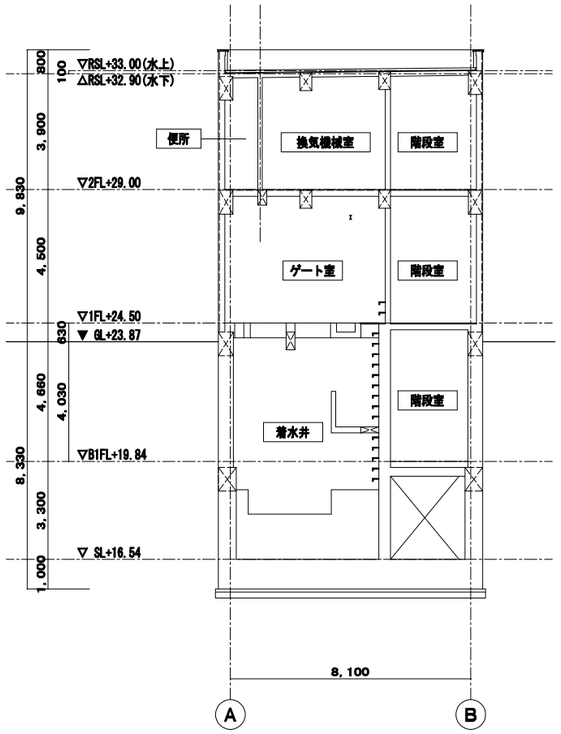
西立面図　S=1:200



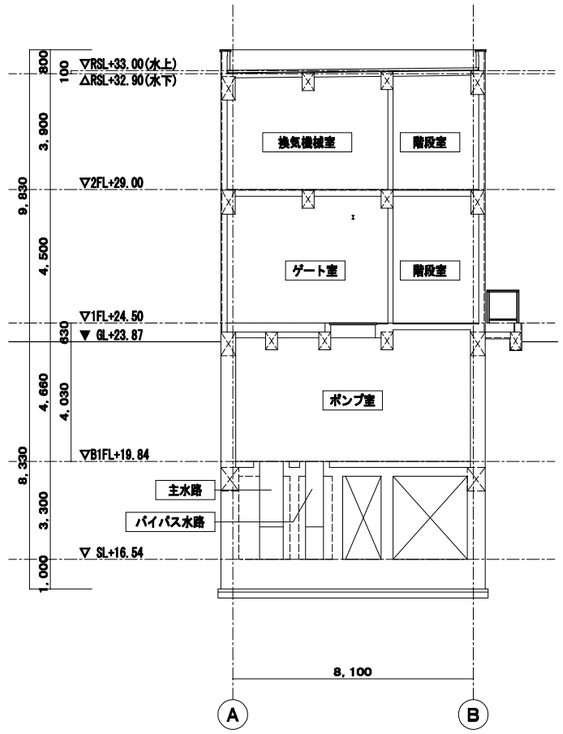
東立面図　S=1:200

凡　例	
㋐	C打放（B）の上複層塗材（RE）
㋑	C打放（B）
㋒	防水モルタル金ごて
㋓	打継目地（２０×２０）を示す、シーリング（PU―２）　２０×１０
㋔	誘発目地（２０×２０）を示す、シーリング（PU―２）　２０×１０
㋕	アルミ製笠木 W＝３５０（既製品）
㋖	ステンレス製梯子タラップ（背カゴ付）
㋗	アルミ製脱着式手摺
㋘	アルミ製固定式手摺
㋙	縦樋　VP管 φ１００（ステンレス支持金物 @２，０００程度）
㋚	アルミ製庇（既製品）１，５００×６００

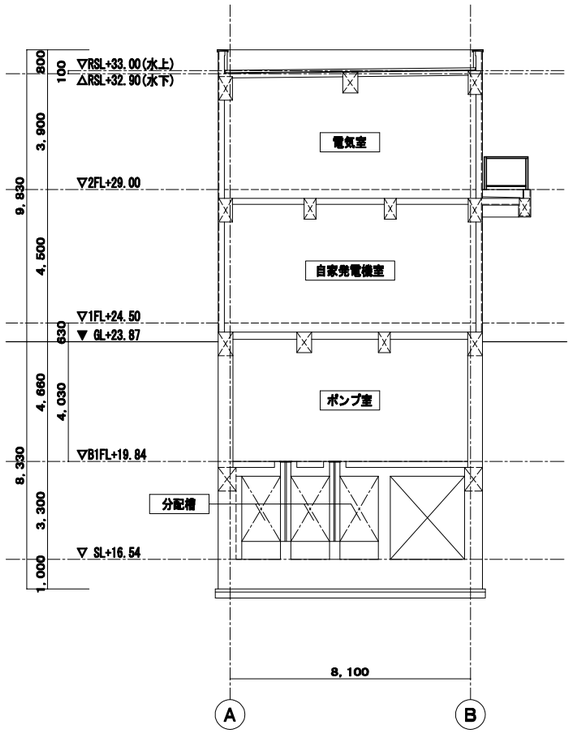
事業名	令和３年度 公共下水道事業		
工事名	波木汚水中継ポンプ場上屋建築工事		
工事場所	四日市市　波木町 地内		
名称	立面図		
縮尺	1/200	設計年月日	令和　年　月　日
工種		設計者	
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	A－１２



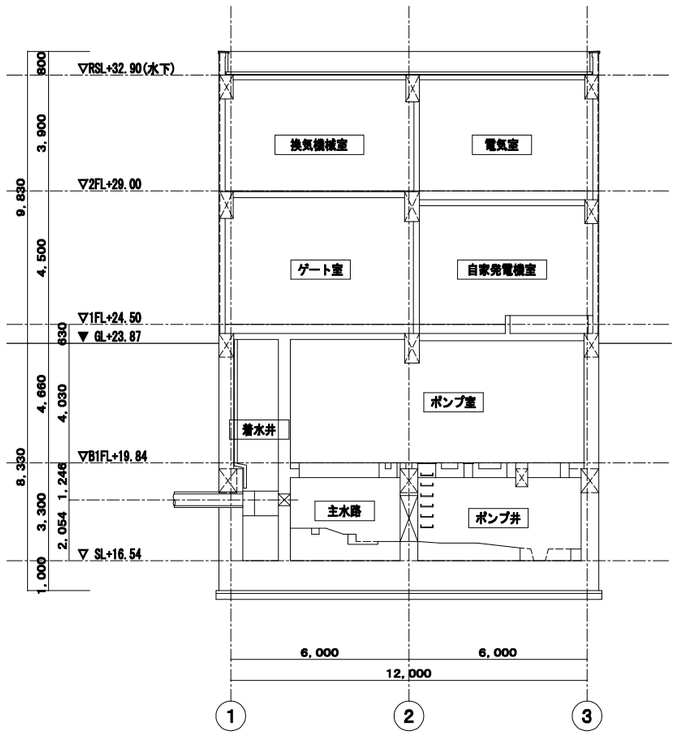
アー断面図　S=1:200



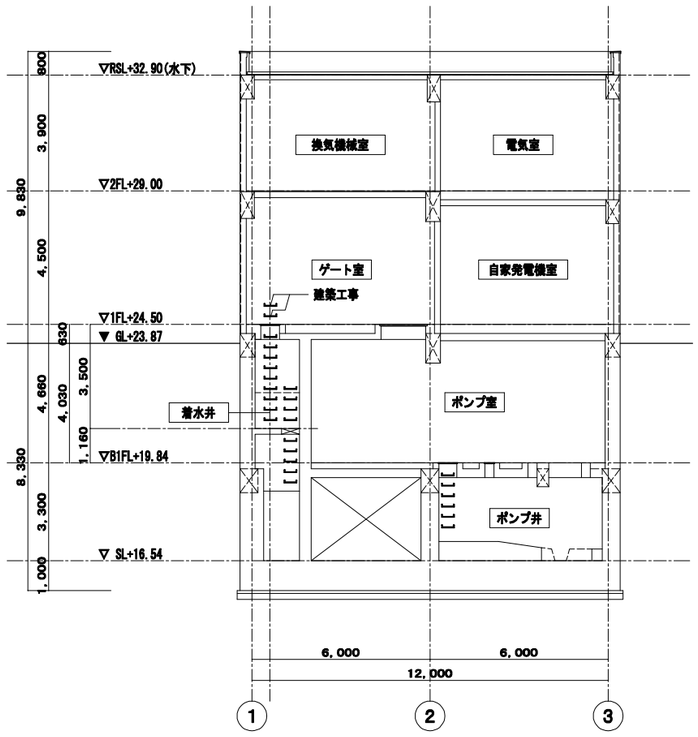
イーイ断面図　S=1:200



ウーウ断面図　S=1:200

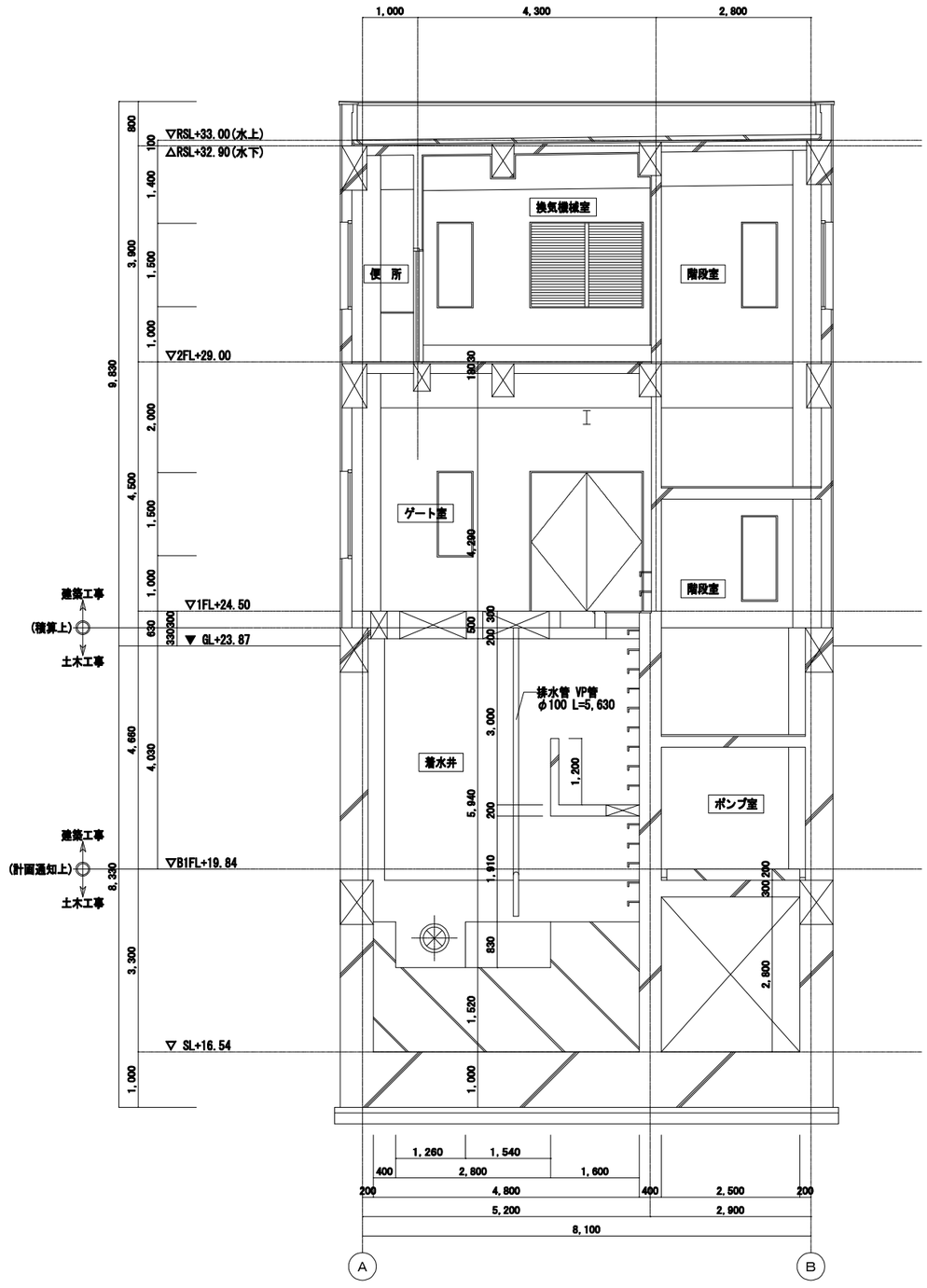


エーエ断面図　S=1:200

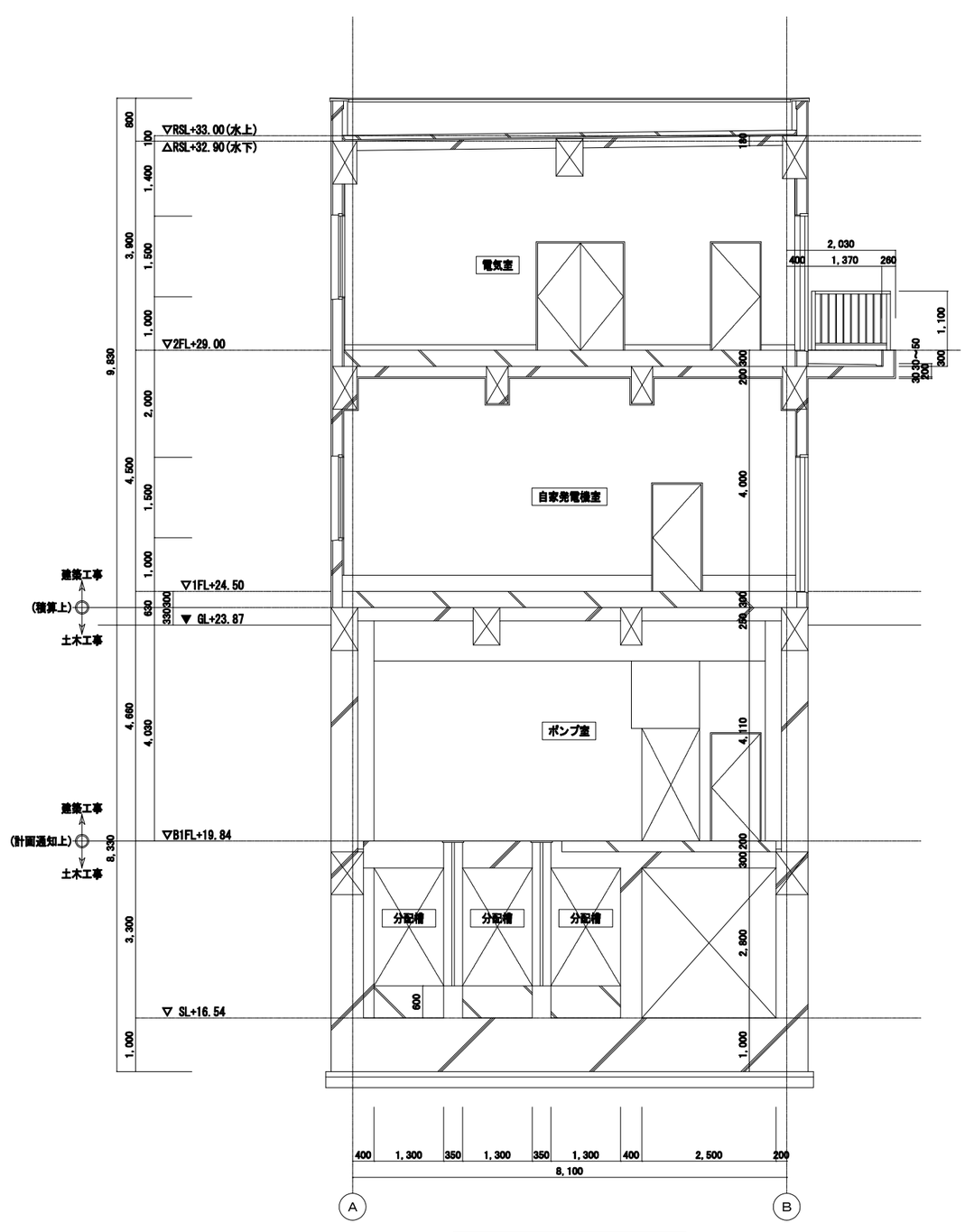


オーオ断面図　S=1:200

事業名	令和３年度 公共下水道事業		
工事名	波木汚水中継ポンプ場上屋建築工事		
工事場所	四日市市　波木町 地内		
名称	断面図		
縮尺	1/200	設計年月日	令和　年　月　日
工種		設計者	
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	A－１３

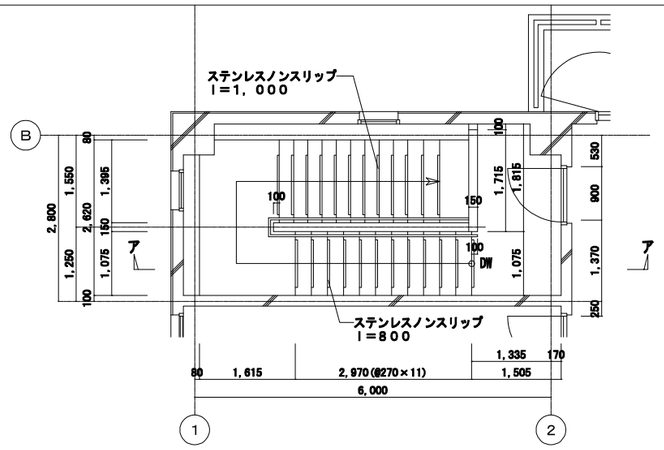


矩計図（1） S=1:100

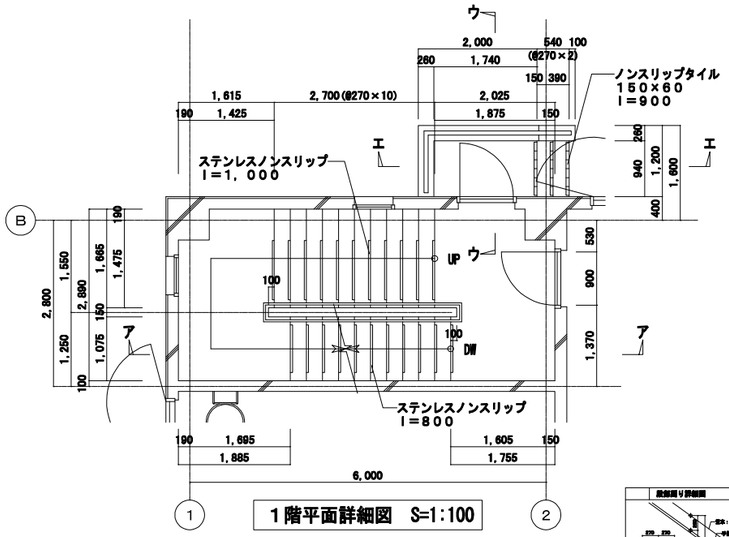


矩計図（2） S=1:100

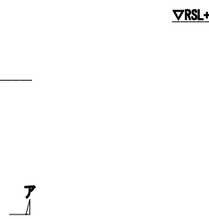
事業名	令和３年度 公共下水道事業		
工事名	波木汚水中継ポンプ場上屋建築工事		
工事場所	四日市市 波木町 地内		
名称	矩計図		
縮尺	1/100	設計年月日	令和 年 月 日
工種		設計者	
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	A－１４

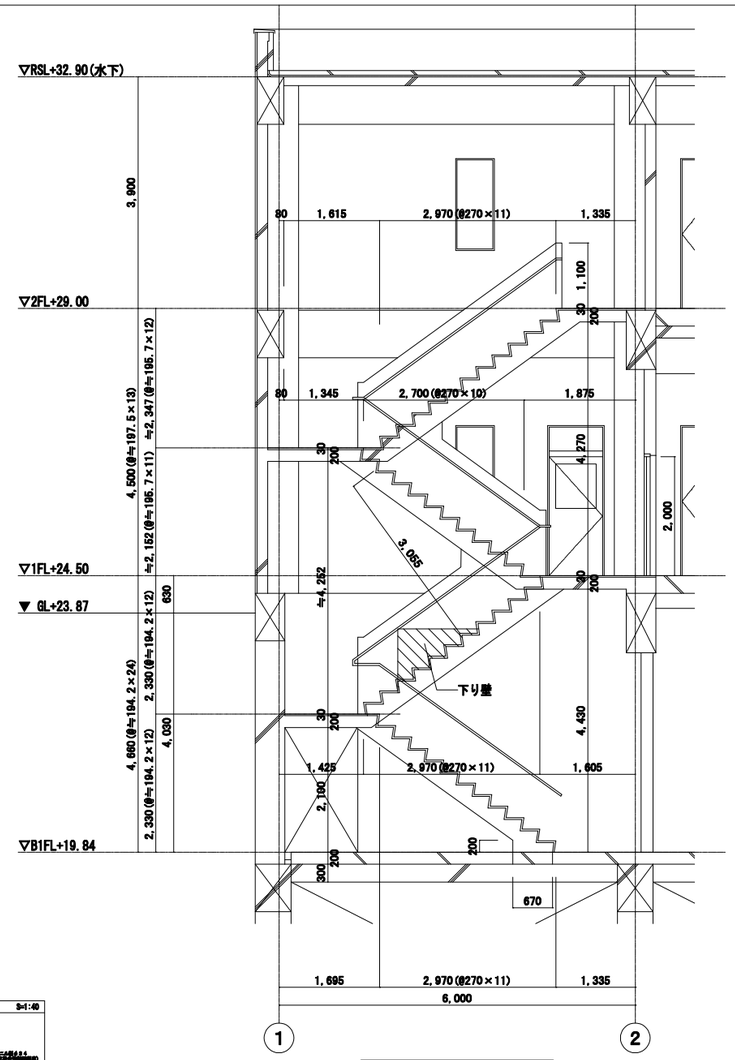


２階平面詳細図　S=1:100

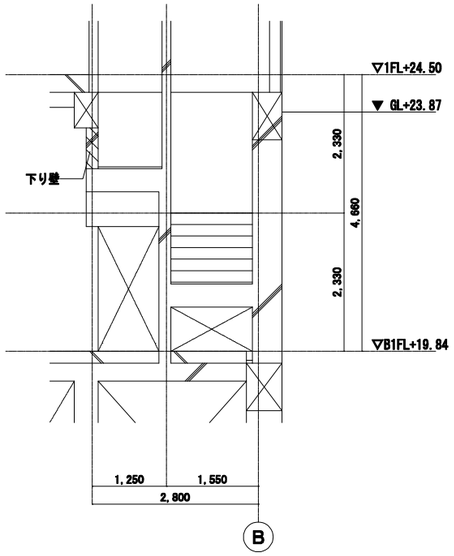


１階平面詳細図　S=1:100

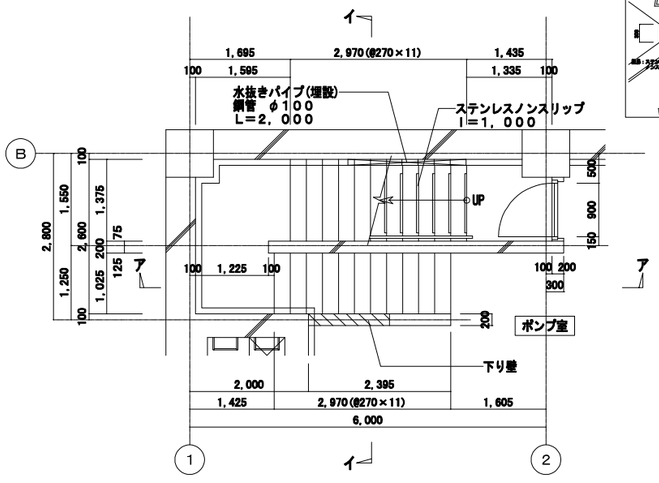




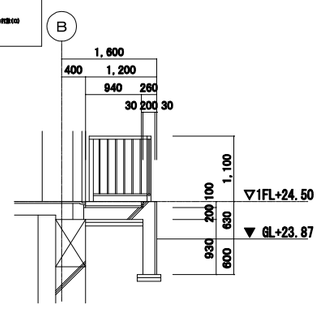
アーア断面図　S=1:100



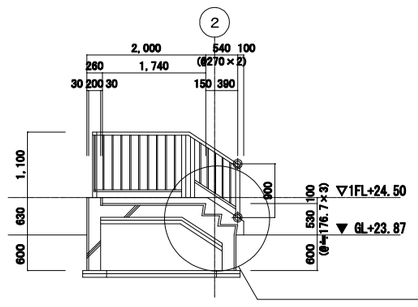
イーイ断面図　S=1:100



Ｂ１階平面詳細図　S=1:100

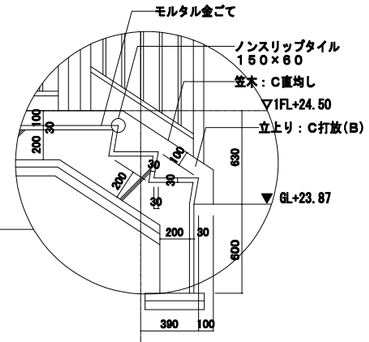


ウーウ断面図　S=1:100



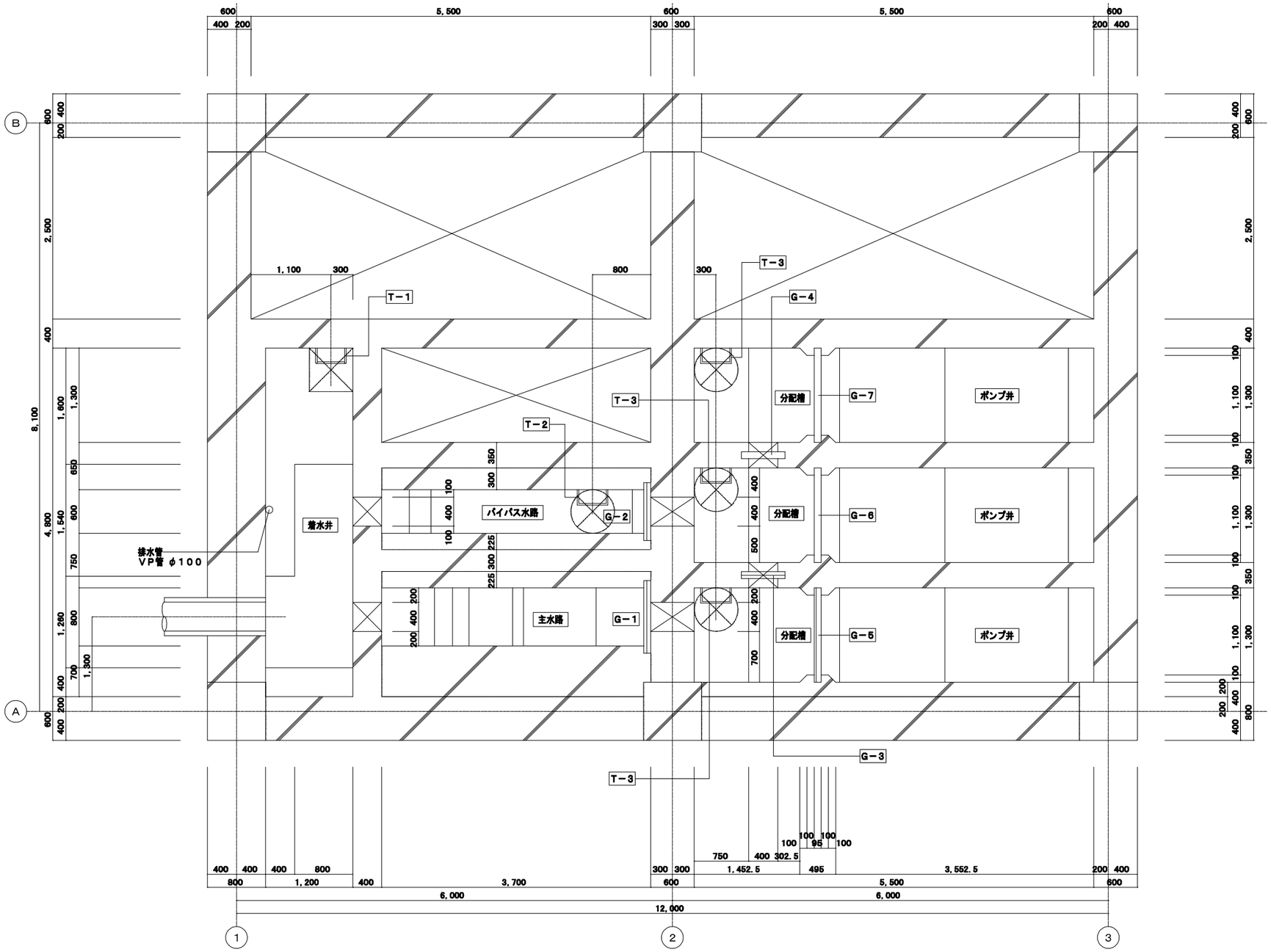
エーエ断面図　S=1:100

※階部階段：地業、躯体工事共建築工事



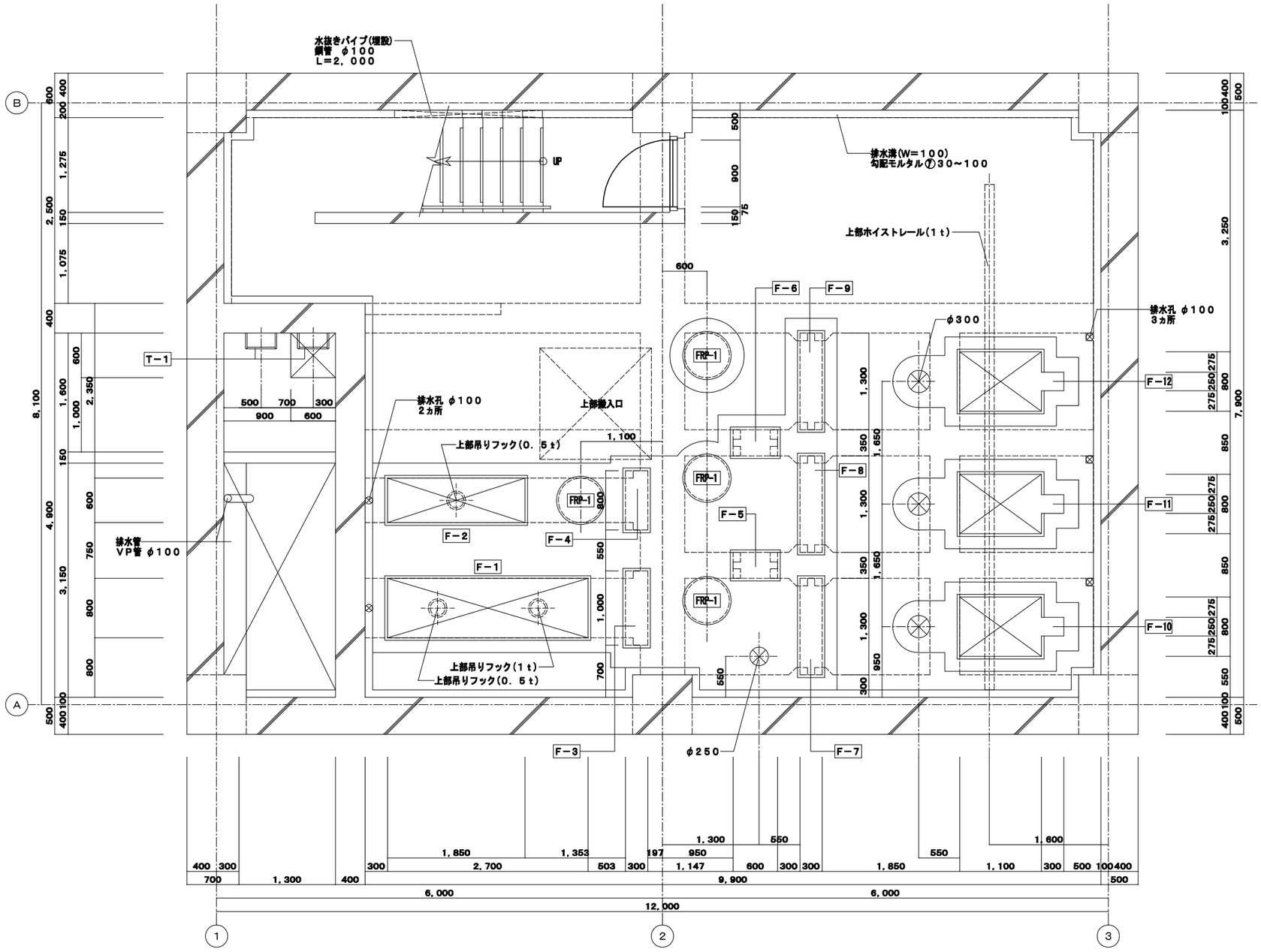
S=1:40

事業名	令和３年度 公共下水道事業		
工事名	波木汚水中継ポンプ場上屋建築工事		
工事場所	四日市市　波木町 地内		
名称	階段詳細図		
縮尺	1/100	設計年月日	令和　年　月　日
工種		設計者	
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	A－15



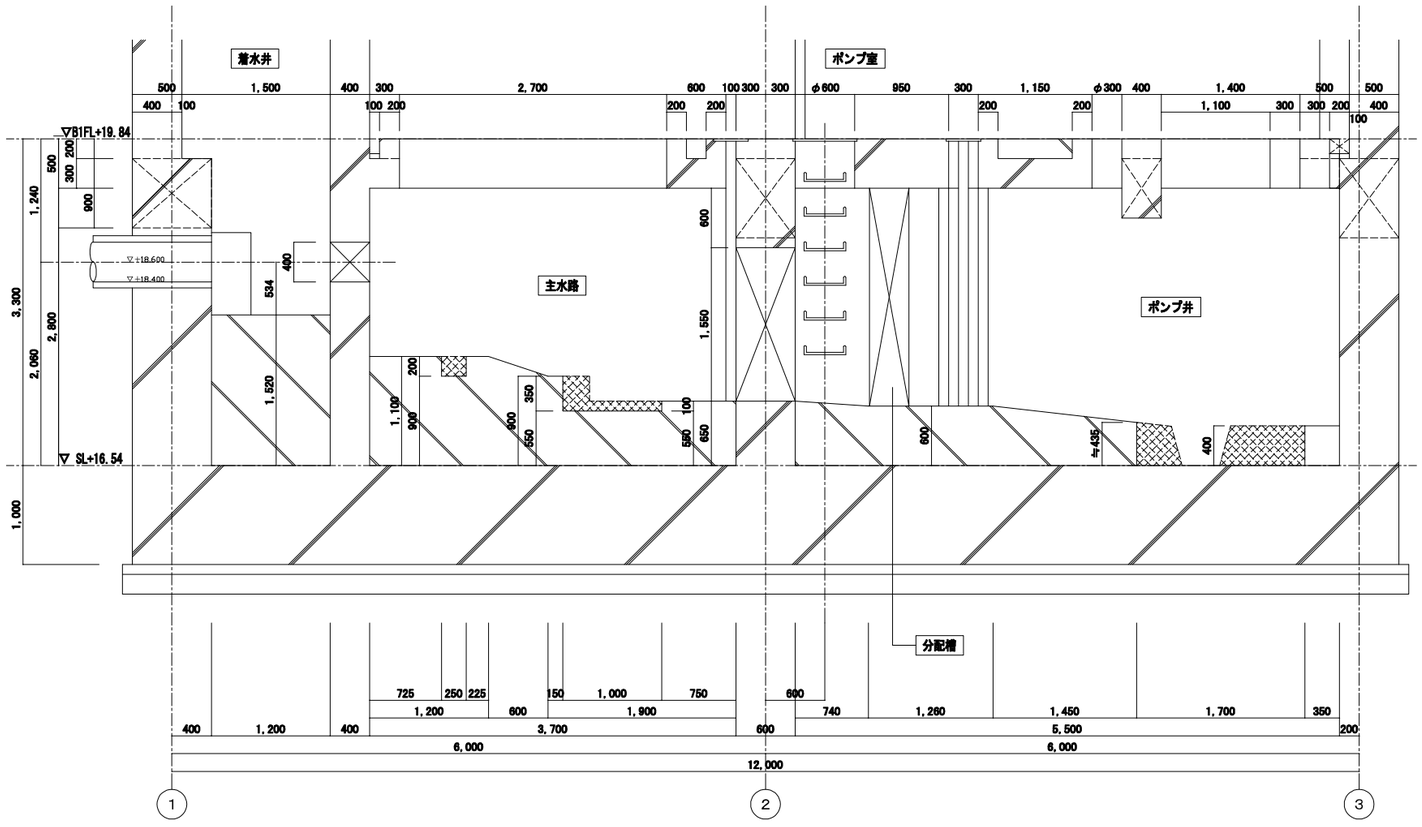
水路階平面詳細図　S=1:60

事業名	令和３年度 公共下水道事業		
工事名	波木汚水中継ポンプ場上屋建築工事		
工事場所	四日市市　波木町 地内		
名称	水路階平面詳細図		
縮尺	1/60	設計年月日	令和　年　月　日
工種		設計者	
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	A－16

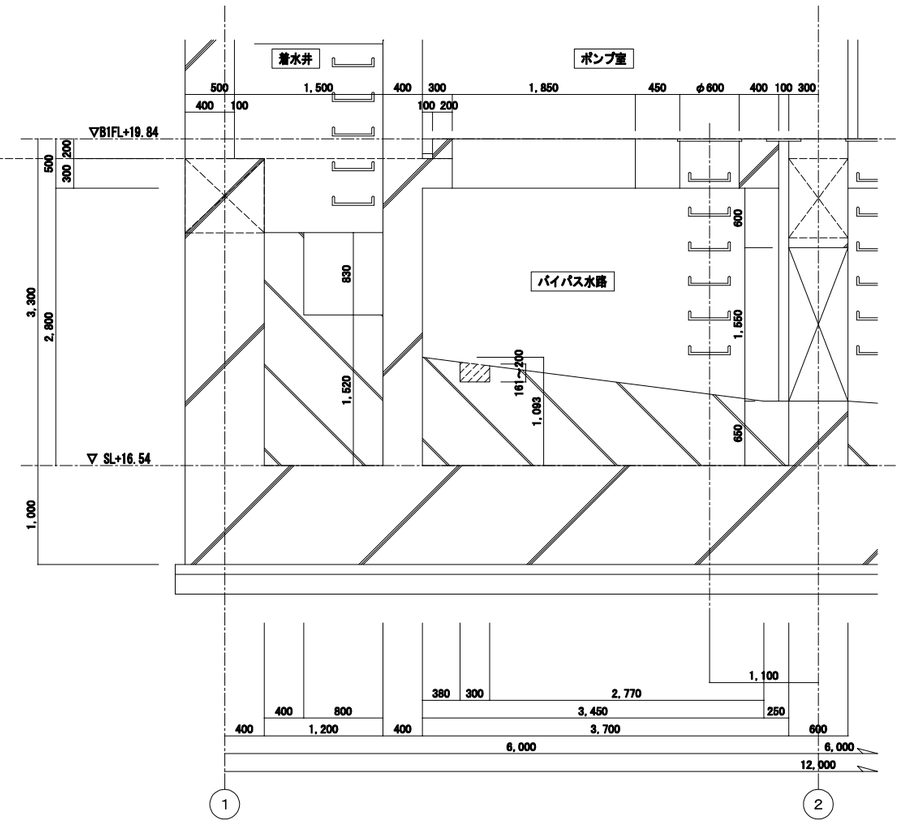


B１階平面詳細図 S=1:60

事業名	令和３年度 公共下水道事業		
工事名	波木汚水中継ポンプ場上屋建築工事		
工事場所	四日市市 波木町 地内		
名称	B１階平面詳細図		
縮尺	1/60	設計年月日	令和 年 月 日
工種		設計者	
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	A－17



主水路断面詳細図　S=1:60



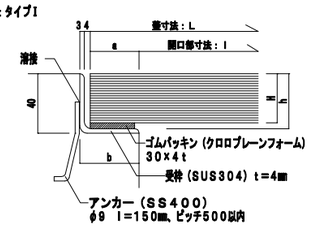
バイパス水路断面詳細図　S=1:60

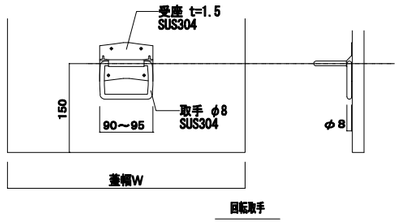
凡　例	
	プラント機械設備工事

事 業 名	令和３年度 公共下水道事業		
工 事 名	波木汚水中継ポンプ場上屋建築工事		
工事場所	四日市市　波木町 地内		
名　　称	水路部断面詳細図		
縮　　尺	1/60	設計年月日	令和　年　月　日
工　　種		設 計 者	
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	A－18

D－1　合成木材製蓋詳細図

蓋形式：タイプⅠ





合成木材蓋（単板蓋タイプ）形式選定表

タイプ区分		蓋 形 式 (L×W×H)	開口部寸法 l (mm)	受枠寸法 (mm) a	h	h'	b	t	概算重 (kg/㎡)
Ⅰ	1	(　~1066) ×600×33.5	~1000	33	37	—	40	3	20
	2	(1067~1266) ×600×33.5	1001~1200	33	37	—	40	3	22

注　1）受枠寸法のhにはパッキン厚をそれぞれ含む。
　　2）蓋幅は、標準６００㎜とし、調整用は３００～６００㎜とする。
　　3）受枠がＬ５０×５０×４Ｔの場合、蓋裏面にスペーサー（Ｗ４５×９ｔ）を接着して対応する。
　　4）タイプ２については、補強蓋付きも可能とする。

仕　様

1）受枠は、アンカー筋（受枠～５Ｔまでは　φ９㎜、６Ｔは　φ１３㎜）で躯体の段取り筋に溶接して固着する。固着点は、隅角部については角を構成する辺に１点づつ、辺については５００mm以内の等間隔とする。

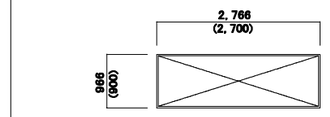
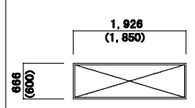
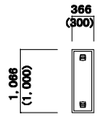
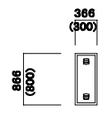
特記事項

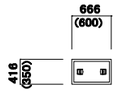
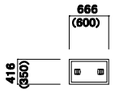
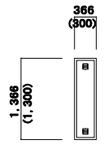
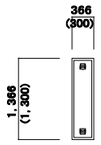
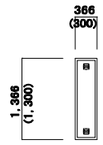
1）蓋の形式選定は、上記表による。

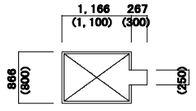
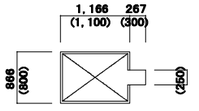
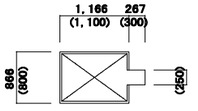
設計注意事項

1）設計荷重は、３．５ｋＮ／㎡またわ中央部１．０ｋＮ／枚のいずれか大きい荷重とする。
2）許容たわみ量はｌ／２００とする。
3）板厚は、単板部分３３．５mm、長尺部分１５mmを基本とする。
4）強風による蓋の飛散を考慮する。

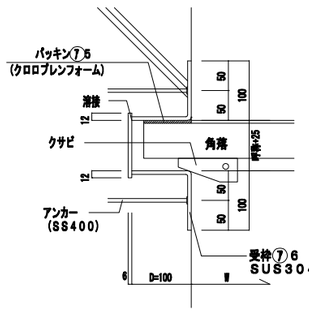
合成木材製蓋割付図　（　）内寸法は、開口寸法を示す。　　S=1:100

F－	箇所数	F－1	1	F－2	1	F－3	1	F－4	1
使用箇所		地下１階：ポンプ室		地下１階：ポンプ室		地下１階：ポンプ室		地下１階：ポンプ室	
形　状									
		※蓋：機械工事 枠：土木工事		※蓋：機械工事 枠：土木工事					

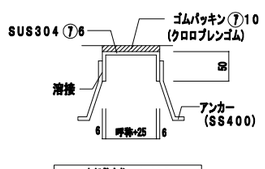
F－	箇所数	F－5	1	F－6	1	F－7	1	F－8	1	F－9	1
使用箇所		地下１階：ポンプ室		地下１階：ポンプ室		地下１階：ポンプ室		地下１階：ポンプ室		地下１階：ポンプ室	
形　状											

F－	箇所数	F－10	1	F－11	1	F－12	1				
使用箇所		地下１階：ポンプ室		地下１階：ポンプ室		地下１階：ポンプ室					
形　状											
		※蓋：機械工事 枠：土木工事		※蓋：機械工事 枠：土木工事		※蓋：機械工事 枠：土木工事					

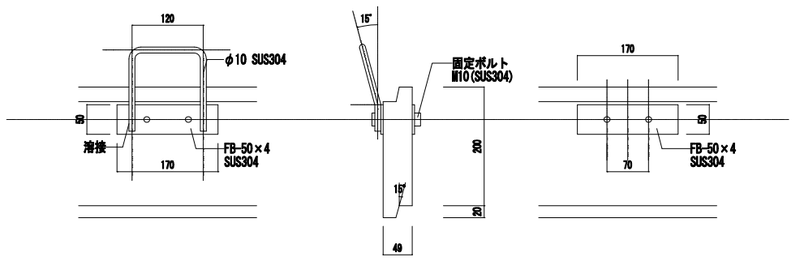
D－2　角落し詳細図



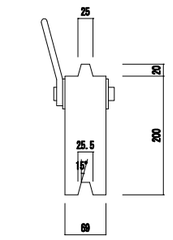
受枠金物　1／40



底部蓋金物　1／40



呼称50(タイプⅠ)・取手詳細図　1／10



呼称70(タイプⅡ)詳細図　1／10

仕　様

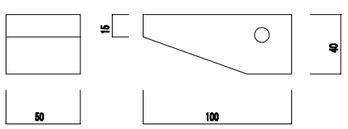
1）受枠は、ＳＵＳ３０４製とし、アンカー（ＳＳ４００）φ１３×１５０ｌを受枠に溶接する。
2）アンカーは、躯体の鉄筋に溶接して固着する。

特記事項

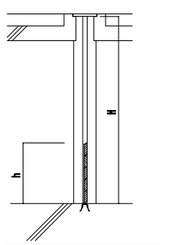
1）合成木材は、ガラス長繊維強化硬質発泡ウレタン樹脂の材質を示す。

設計注意事項

1）許容たわみ量はｌ／２００とする。
2）浮力防止用クサビを、最上段部に使用する。



クサビ形状　1／40

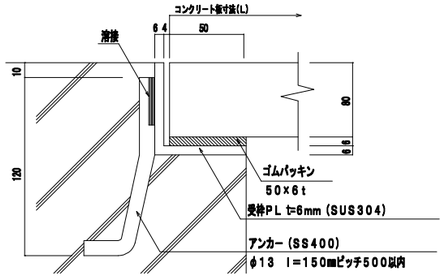


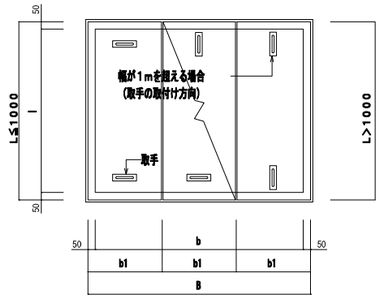
断面詳細図　1／40

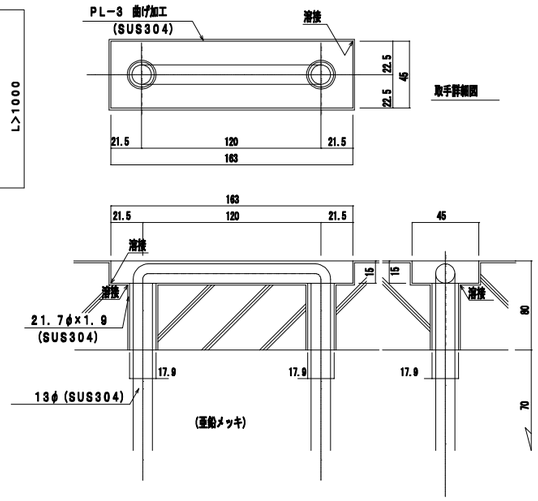
符号	呼称	枠深さ	水路			枠		角落し				使用箇所	備考
		D	W	H	水深	w	h	タイプ	比重	角落し高さ	個所当の段数		
G-1	50	100	800	2150	1100	1000	2650	A	0.74	200	6	1	本体・受枠・取手
G-2	50	100	600	2150	1100	800	2650	A	0.74	200	6	1	本体・受枠・取手
G-3	50	100	400	2200	1150	600	2700	A	0.74	200	6	1	本体・受枠
G-4	50	100	400	2200	1150	600	2700	—	—	—	—	1	受枠
G-5	70	100	1300	2200	1150	1300	2700	B	0.74	200	6	1	本体・受枠・取手
G-6	70	100	1300	2200	1150	1300	2700	—	—	—	—	1	受枠
G-7	70	100	1300	2200	1150	1300	2700	—	—	—	—	1	受枠

事業名	令和３年度 公共下水道事業		
工事名	波木汚水中継ポンプ場上屋建築工事		
工事場所	四日市市　波木町 地内		
名　称	雑詳細図（１）（土木工事）		
縮　尺	図示	設計年月日	令和　年　月　日
工　種		設計者	
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	A－19

D－3　ＰＣ製蓋詳細図







コンクリート蓋選定表

蓋寸法 L (mm)	蓋厚 h (mm)	蓋重量 (kg/㎡)	採 用
～1000	50	96	
1001～1400	50	96	
1401～1800	50	120	○
1801～2100	60	144	
2101～2500	80	192	
2501～3000	80	192	

注　1）寸法の許容誤差は±2mmとする。

仕　様

1）蓋の制作はプレストレスコンクリート設計施工方針または建築工事共通仕様書による。
2）短スパン（約１ｍ以内）は、プレストレスが実際に導入されないので、鉄筋コンクリート板とする。
3）取手は２個／枚とする。
4）蓋には、荷重表示を行う。

特記事項

1）蓋の形式選定は、上記表による。

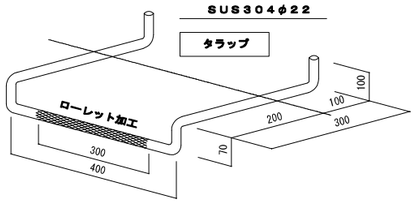
設計注意事項

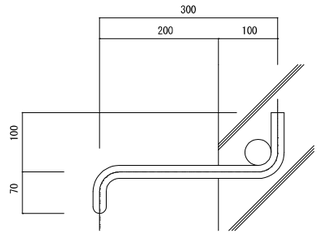
1）設計荷重は、床用３．５ｋＮ／㎡、かつ中央集中１．０ｋＮ／枚とする。
2）許容たわみ量は、Ｌ／４００を標準とする。
3）蓋表面をスリップ防止処理をする場合、別途に考慮する。
4）取手の設置間隔については、１枚当たりの重量及び取外し頻度に応じて検討すること。

ＰＣ製蓋割付図　（ ）内寸法は、開口寸法を示す。　S=1:100

Ｐ－	箇所数	Ｐ－１	1		
使用箇所		１階：ゲート室			
形状		1,600 (1,500) / 1,600 (1,500)			
Ｐ－	箇所数				
使用箇所					
形状					

D－4　ステンレス足掛金物詳細図





符　号	壁用	床用	箇所数	合計	設置場所
Ｔ－１	２０	－	1	２０	着水井
Ｔ－２	６	－	1	６	バイパス水路
Ｔ－３	６	－	３	１８	分配槽
Ｔ－４	４	－	1	４	ハンドホール

仕　様

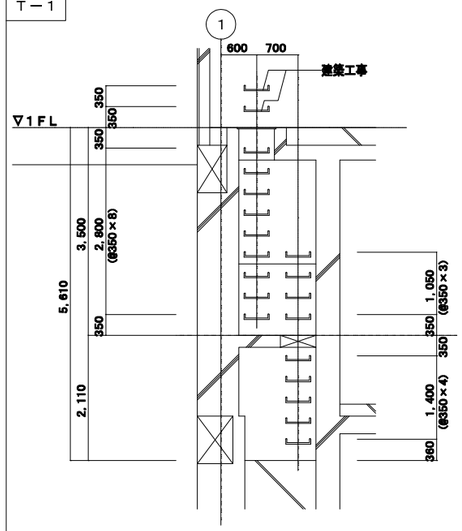
1）壁に１００㎜以上埋め込む。
2）３５０ピッチ取付を原則とする。

特記事項

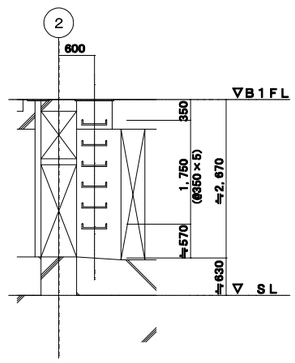
設計注意事項

タラップ割付図　S=1:100

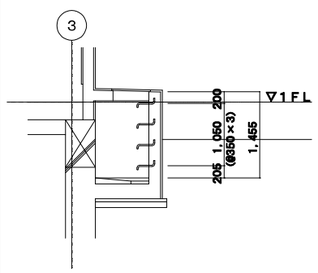
Ｔ－１



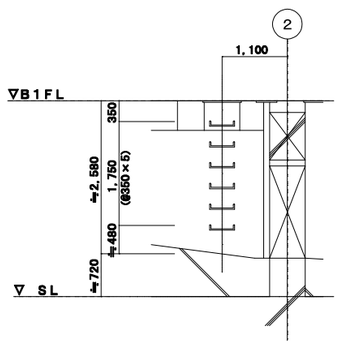
Ｔ－３



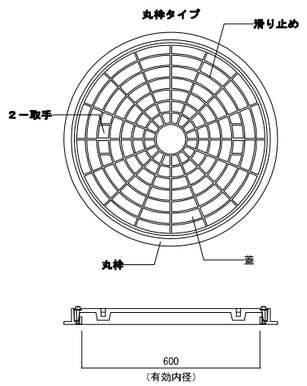
Ｔ－４



Ｔ－２



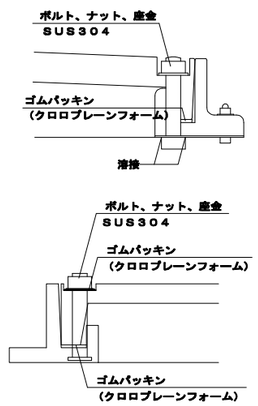
D－5　ＦＲＰ製蓋詳細図



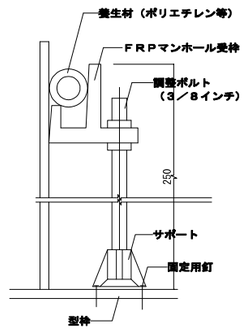
ＦＲＰ製マンホール蓋　型式選定表（参考）

寸法呼称	有効内径(mm)	安全荷重種別呼称	安全荷重(kN)	使用サイズ
３００型	３００	５００ｋ	５．０	
		１０００ｋ	１０．０	
６００型	６００	５００ｋ	５．０	○
		１０００ｋ	１０．０	
７００型	７００	１５００ｋ	１５．０	
９００型	９００	１５００ｋ	１５．０	

参考図－１
蓋ロック機構断面図



参考図－２
受枠施工断面図



ＦＲＰ製蓋割付図　S=1:100

FRP-	箇所数	FRP-1	5
使用箇所		Ｂ１階：ポンプ室・１階：ゲート室	
形状		600 / 600	1枚

仕　様

1）受枠はボイド管を取付けたスラブ打設型枠より受枠サポート用調整ボルトで所定位置に保持した後、スラブを打設して固定する。
2）本施工方式以外の方法によるものも可とする。

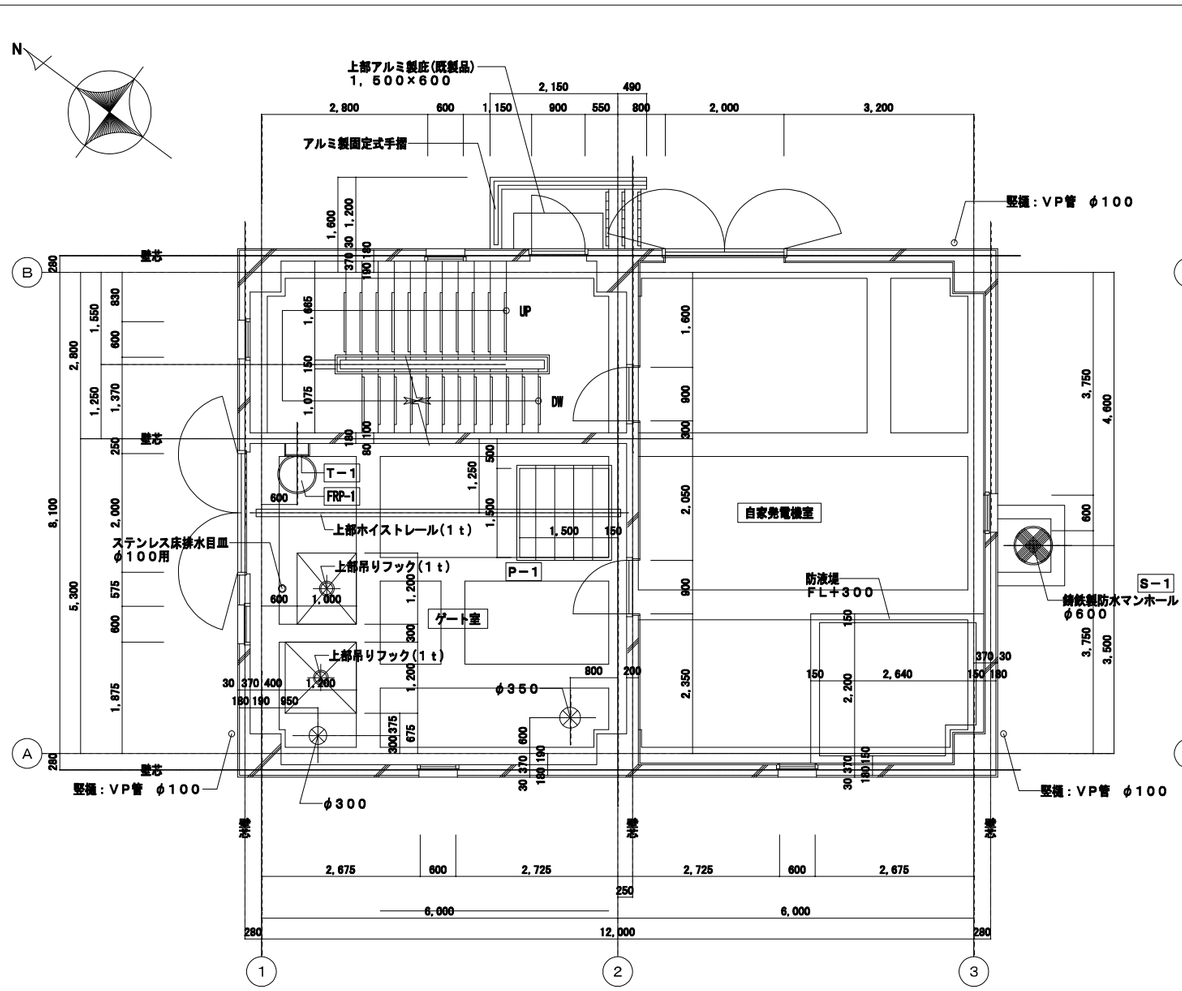
特記事項

1）蓋の型式選定は、上記表による。
2）簡易防水用、簡易防臭用の場合はパッキンおよびロック機構を内臓したものとする。
3）必要に応じ蓋のロック機構を設けるものとする。
4）滑り止めの形状については参考とする。

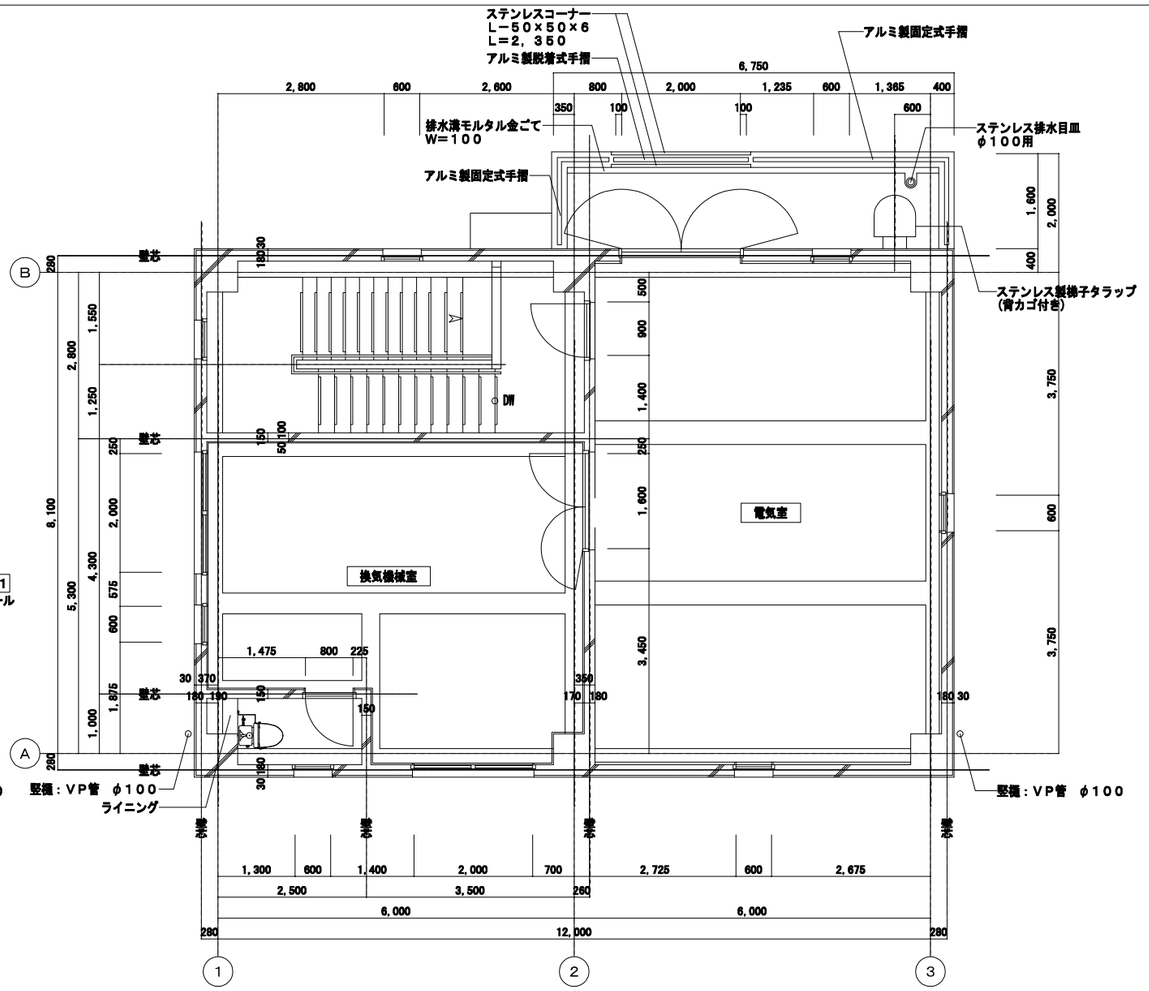
設計注意事項

1）安全荷重は破壊荷重の４分の１以下とする。
2）安全荷重時におけるたわみ量は、有効内径の２%以内、荷重除去後のたわみ量は、有効内径の０．２%以内とする。

事業名	令和３年度 公共下水道事業		
工事名	波木汚水中継ポンプ場上屋建築工事		
工事場所	四日市市　波木町 地内		
名　称	雑詳細図（２）（土木工事）		
縮　尺	図示	設計年月日	令和　年　月　日
工　種		設計者	
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	A－20

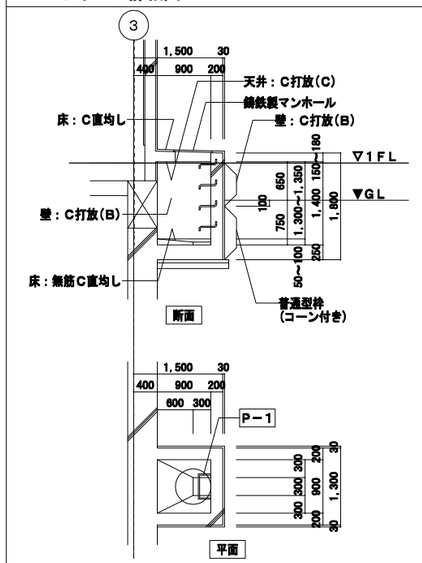


１階平面詳細図　S=1:100

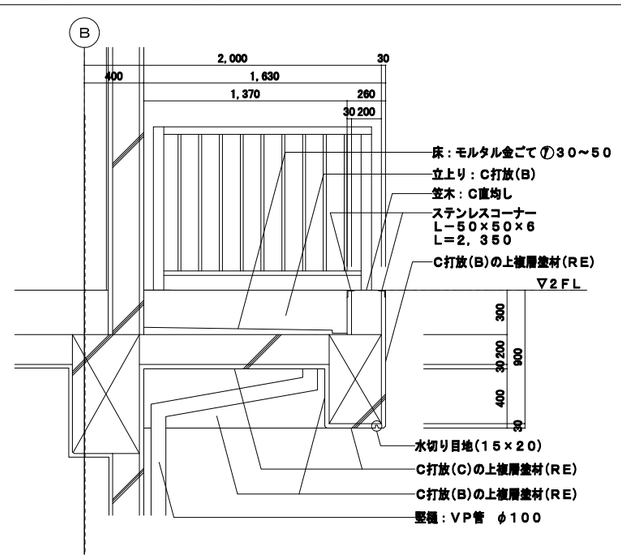


２階平面詳細図　S=1:100

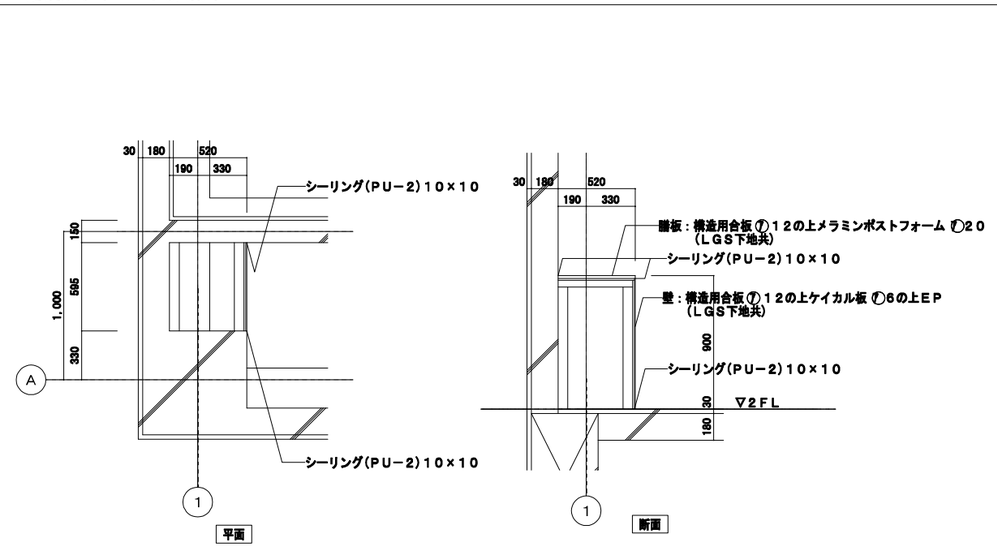
ハンドホール詳細図　S=1:100



２階搬入バルコニー詳細図　S=1:40

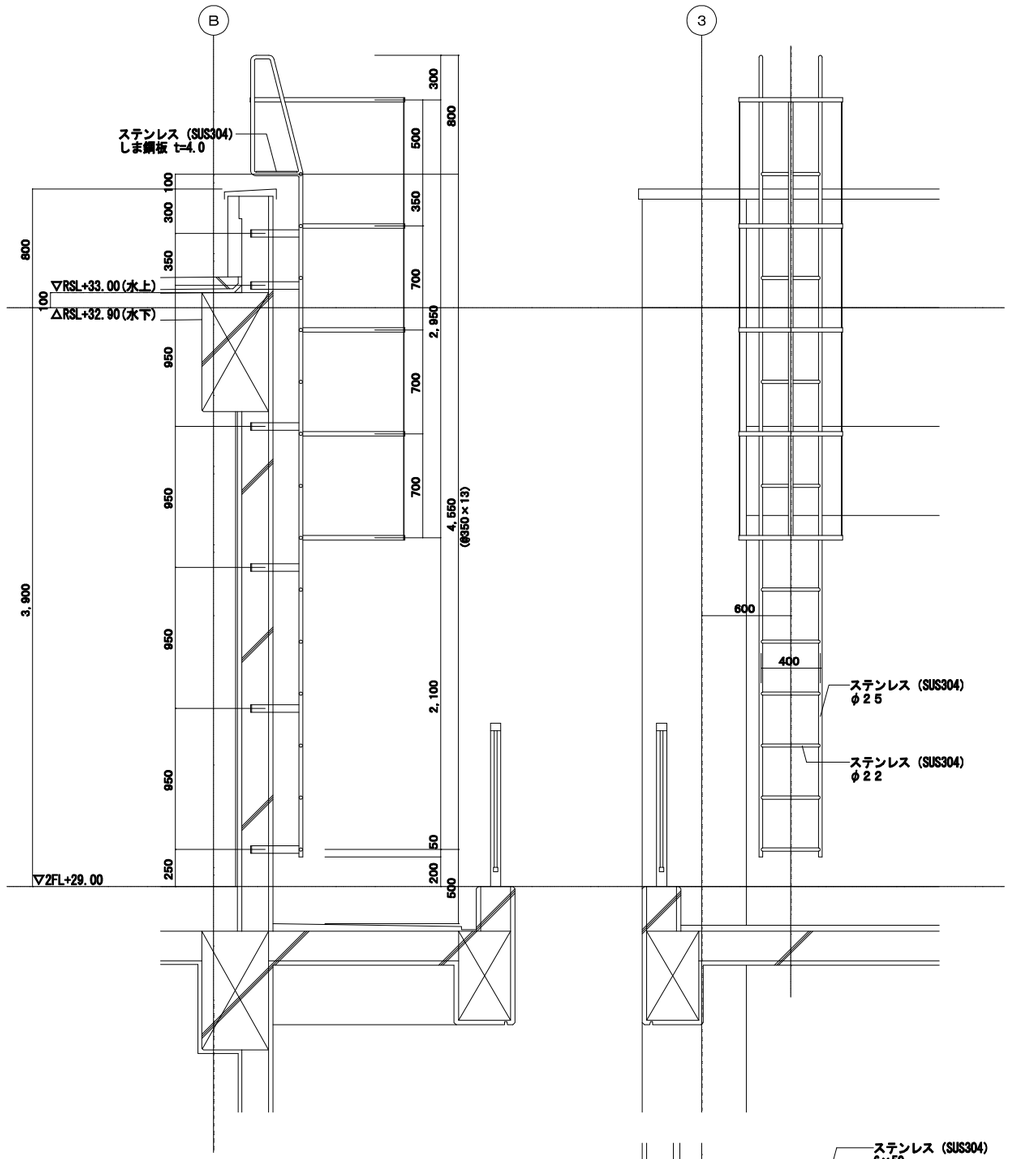


２階便所ライニング詳細図　S=1:40

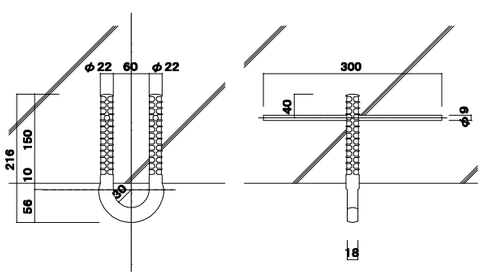


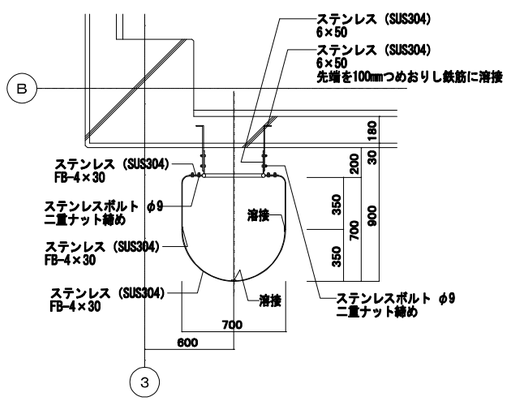
事業名	令和３年度 公共下水道事業		
工事名	波木汚水中継ポンプ場上屋建築工事		
工事場所	四日市市　波木町 地内		
名称	平面詳細図		
縮尺	1/40・100	設計年月日	令和　年　月　日
工種		設計者	
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	A－21

D－6　ステンレス梯子タラップ（背カゴ付き）詳細図　S=1:40



D－7　吊りフック詳細図　S=1:10





D－8　アルミ製手摺

材　料

（1）　材種は、ＪＩＳ　Ｈ４１００によるＡ６０６３Ｓ－Ｔ５またはＡ６０６３Ｓ－Ｔ６またはＡ６０６１Ｓ－Ｔ６とし押出し形材を使用する。

（1）　形状は次表による（㎜）

部材名	荷重方向		設計条件
笠木	水平方向	設計耐力	1．5kN／m
		たわみ量	500N／mで1／500以下かつ5mm以下 局部荷重500Nで1／100以下
	垂直方向	設計耐力	1．0kN／m
		たわみ量	500N／mで1／500以下かつ5mm以下 局部荷重500Nで1／100以下
支柱	水平方向	設計耐力	2．7kNまたは3．0kN
		たわみ量	局部荷重500Nで1／100以下

（3）　表面処理は、公共建築工事標準仕様書（建築工事編）１４．２．１表のＢ－１種とする。

（4）　支柱、笠木、控柱には補強材は使用しない。
その他の部位に使用する補強材はＪＩＳ Ｇ ３１０１による
ＳＳ４００とし亜鉛メッキはＪＩＳ Ｈ ８６１０の5級
（クロメート被膜はＪＩＳ Ｈ ８６２５NOCM2C）以上とする。

（5）　小ネジの頭はステンレス製（ＳＵＳ３０４，ＳＵＳ３０５ＪＩまたわＳＵＳＸＭ７）とする。

取付・その他

（1）　形状は次表による（㎜）　（単位　㎜）

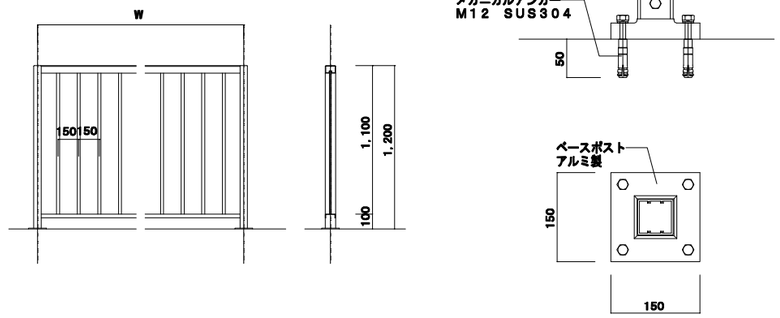
	支柱間隔	笠木	バラスター中心間隔	高さ	下部のすき間	控柱
廊下・バルコニー	1，800 又は2，000	―――	@150	1，200	100	―――
屋上	1，800 又は2，000	―――	@150	1，200	100	@3，600 又は ――
階段	1，500内外	―――	@125以内	900	50	―――
部材厚	3mm以上	3mm以上	―――	―――	―――	3mm以上

（2）　現場取付作業以外の組立などは工場制作とする。伸縮目地は必要に応じて設ける。

（3）　切断面の処理はバリ等を適切な方法で除去する。端部の小口は同材にてふたをして仕上げる。

（4）　設計耐力及びたわみ量は、工場にて試験を行い監督職員に報告する。
なお、公的試験場の試験成績書をもって、これにかえる事が出来る。

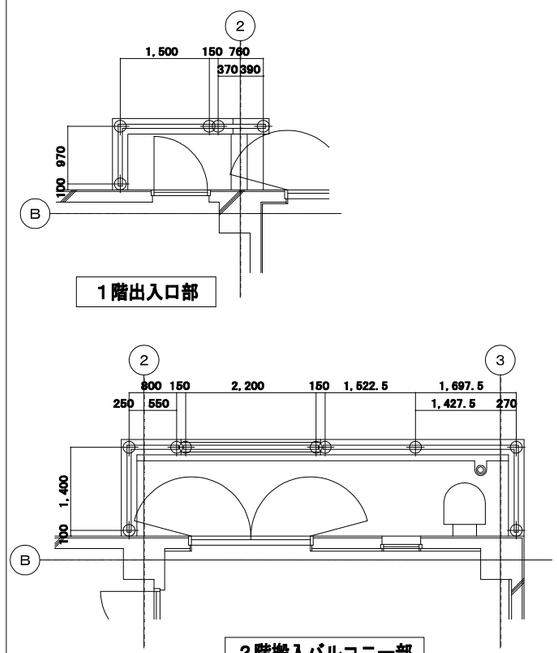
アルミ製手摺詳細図



柱脚、直付タイプ　１：１０

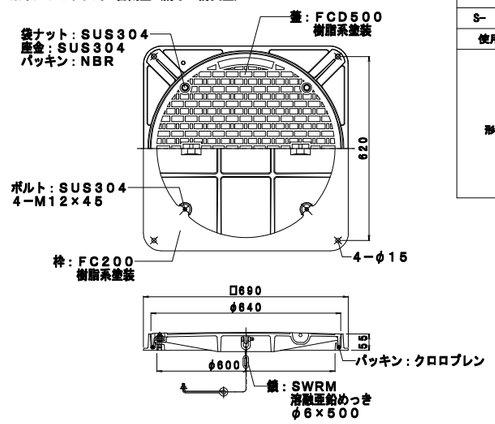
仕様
1）ベースポストはメーカー仕様とする。但し、設計耐力を満足するものとする。
特記事項
設計注意事項
1）支柱足元部のゆるみに注意する。

アルミ製手摺割付図　S=1:100



D－9　鋳鉄製マンホール詳細図（既製品）　S=1:20

※ボルトロック式・密閉型（防水・防臭型）

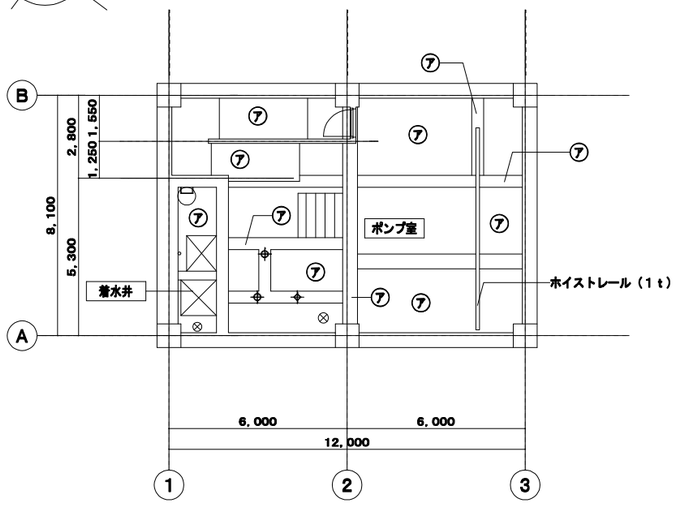


鋳鉄製蓋割付図　S=1:100

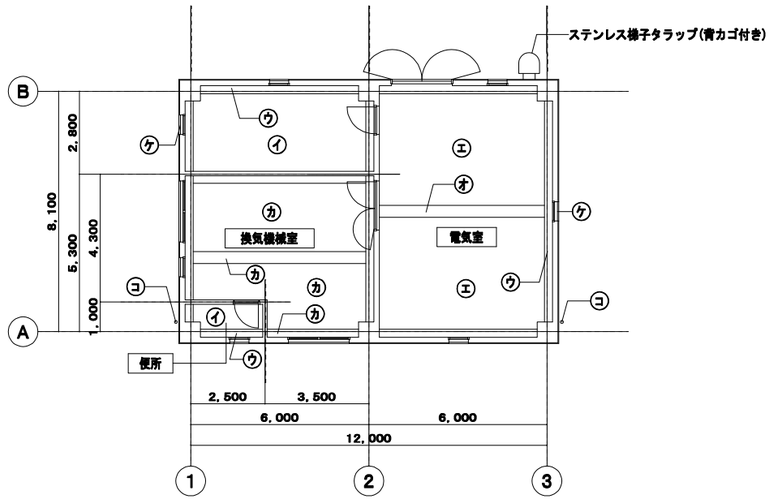
S-	箇所数	S-1	1
使用箇所		外部：ハンドホール	
形状			

1枚

事業名	令和３年度 公共下水道事業		
工事名	波木汚水中継ポンプ場上屋建築工事		
工事場所	四日市市　波木町 地内		
名称	雑詳細図（建築工事）		
縮尺	図示	設計年月日	令和　年　月　日
工種		設計者	
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	A－22

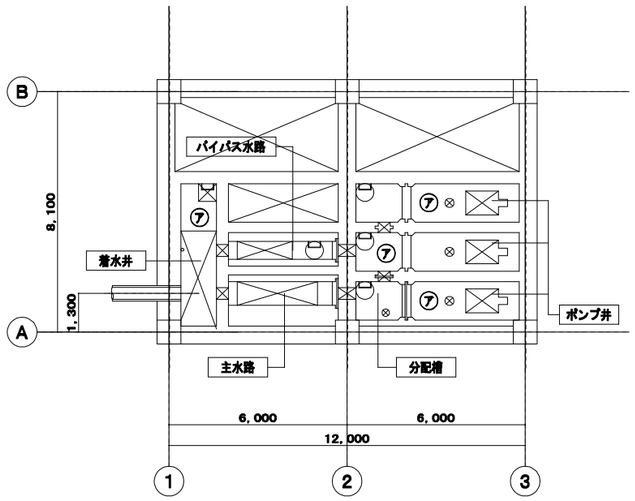


地下１階天井伏図　S=1:200

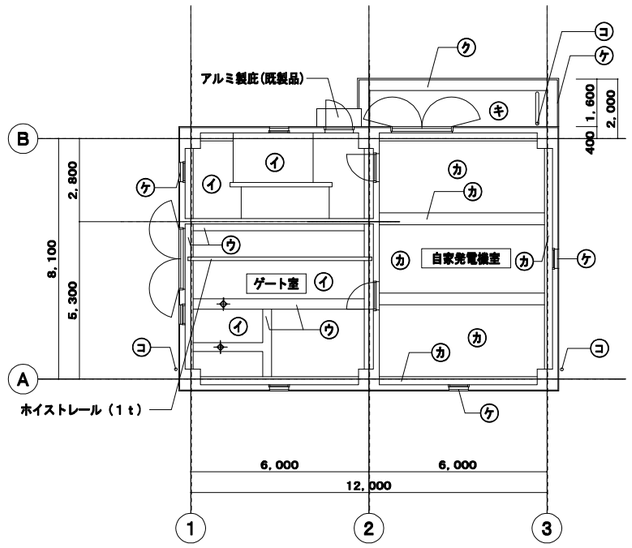


２階天井伏図　S=1:200

凡　例　（C）は土木工事を示す。	
㋐	＜C打放＞（C）
㋑	C打放（C）
㋒	C打放（B）
㋓	C打放（C）の上ＥＰ－Ｇ
㋔	C打放（B）の上ＥＰ－Ｇ
㋕	GW⑦２５
㋖	C打放（C）の上複層塗材（RE）
㋗	C打放（B）の上複層塗材（RE）
㋘	水切（１５×２０）
㋙	竪樋：ＶＰ管　φ１００
⊕	U型吊りフック（0．５ｔ用）
✛	U型吊りフック（１ｔ用）

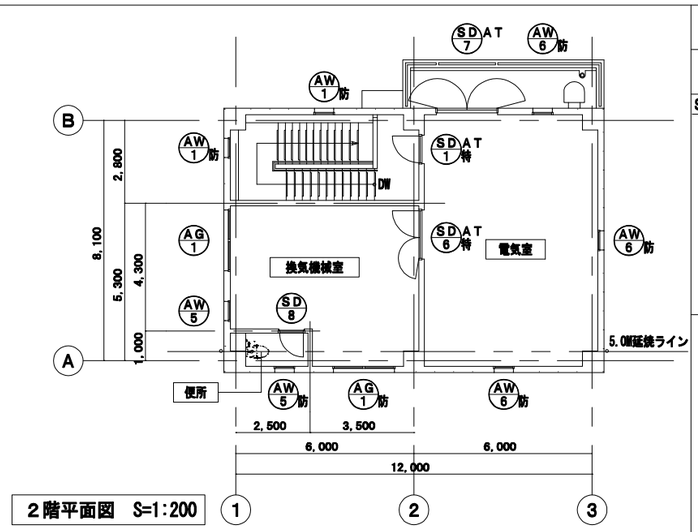


水路階天井伏図　S=1:200

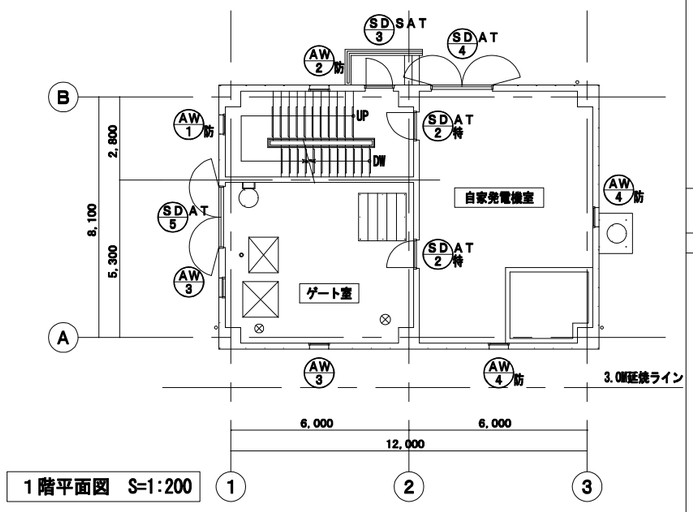


１階天井伏図　S=1:200

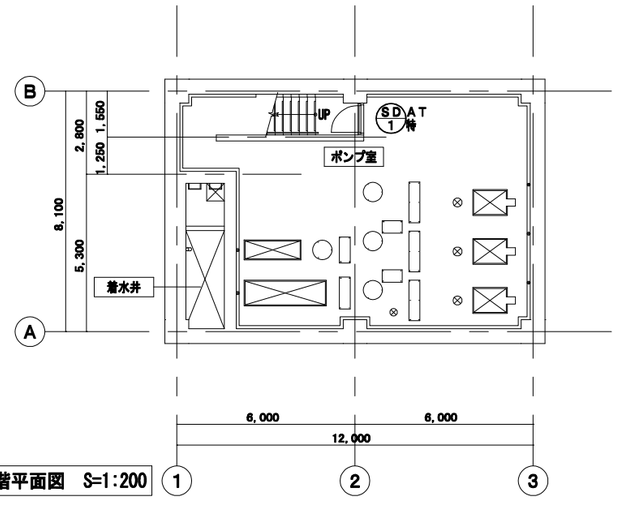
事業名	令和３年度 公共下水道事業		
工事名	波木汚水中継ポンプ場上屋建築工事		
工事場所	四日市市　波木町 地内		
名称	天井伏図		
縮尺	1/200	設計年月日	令和　年　月　日
工種		設計者	
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	A－２３



２階平面図　S=1:200



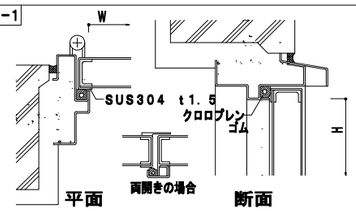
１階平面図　S=1:200



地下１階平面図　S=1:200

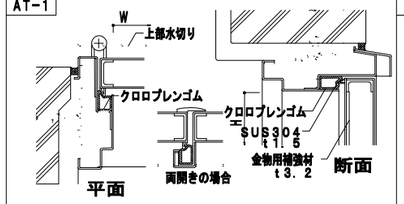
鋼製建具（簡易気密）

SAT-1

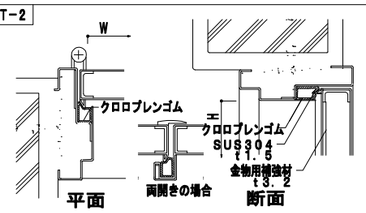


鋼製建具（気密）

AT-1

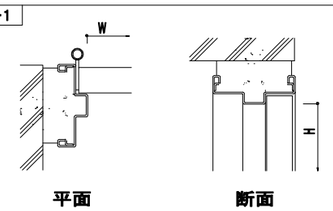


AT-2



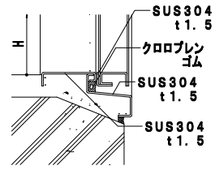
鋼製建具

S-1

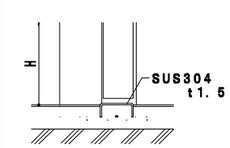


くつずり

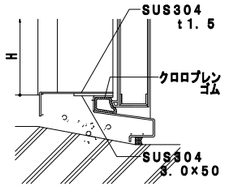
a



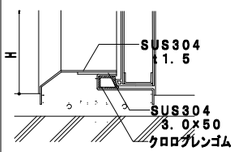
d



b

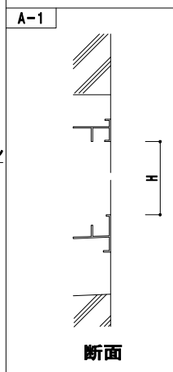


c

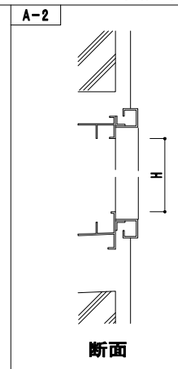


アルミ製建具

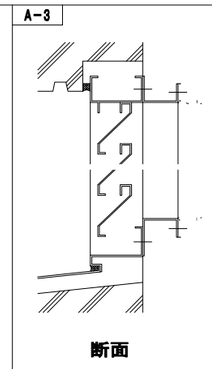
A-1



A-2

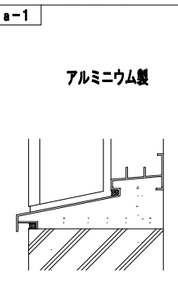


A-3

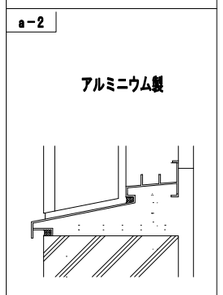


水切り

a-1



a-2



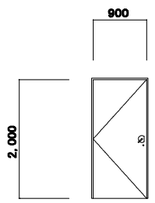
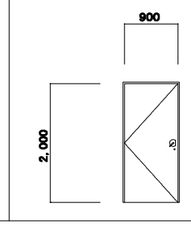
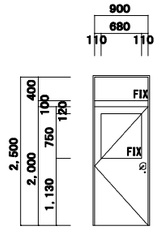
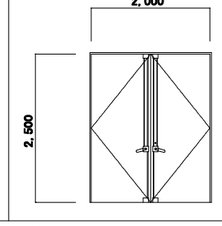
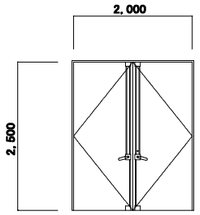
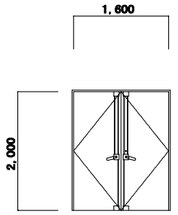
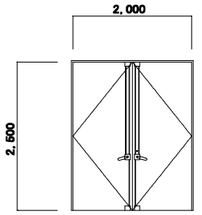
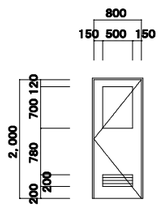
ガラリ形状

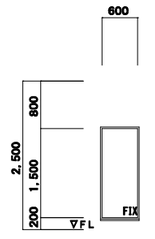
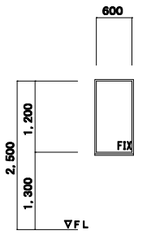
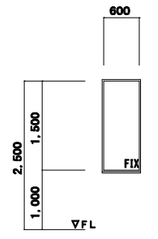
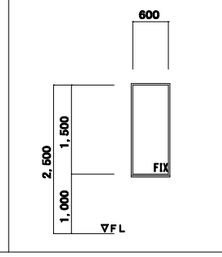
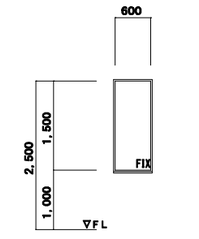
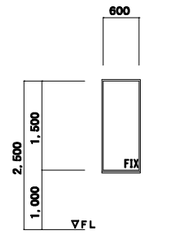
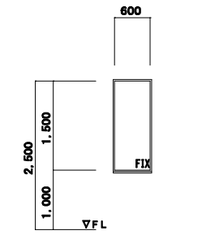
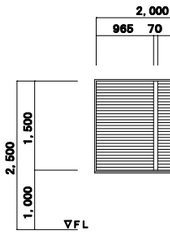
ハ-1

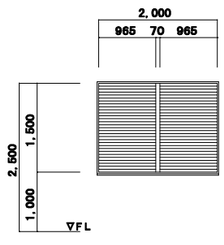
ハ-1　AG　開口率　30%

事業名	令和３年度 公共下水道事業		
工事名	波木汚水中継ポンプ場上屋建築工事		
工事場所	四日市市　波木町 地内		
名称	建具キープラン・建具廻り詳細図		
縮尺	1/200	設計年月日	令和　年　月　日
工種		設計者	
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	A－２４

建具表

記号・名称・個数	SD 1 ステール製片開き戸（特防火設備戸・AT） 2	SD 2 ステール製片開き戸（特防火設備戸・AT） 2	SD 3 ステール製片開き戸（SAT） 1	SD 4 ステール製両開き戸（AT） 1	SD 5 ステール製両開き戸（AT） 1	SD 6 ステール製両開き戸（特定防火設備戸・AT） 1	SD 7 ステール製両開き戸（AT） 1	SD 8 ステール製片開き戸 1
場　所	地下１階：階段室・２階：階段室	１階：階段室、ゲート室	１階：階段室	１階：自家発電機室	１階：ゲート室	２階：換気機械室	２階：電気室	２階：便所
仕上（枠共）	表面処理　亜鉛メッキ鋼板ＳＯＰ	表面処理　亜鉛メッキ鋼板ＳＯＰ	表面処理　亜鉛メッキ鋼板ＤＰ	表面処理　亜鉛メッキ鋼板ＤＰ	表面処理　亜鉛メッキ鋼板ＤＰ	表面処理　亜鉛メッキ鋼板ＳＯＰ	表面処理　亜鉛メッキ鋼板ＤＰ	表面処理　亜鉛メッキ鋼板ＳＯＰ
建具　見込（ランマ）								
建具　硝子（ランマ）			Ｎ⑦６．８					Ｆ⑦３．０
建具　ガラリ								開口率５０％
建具枠　見込取合　沓摺	２２０	２３０	２３０	２６０	２３０	２３０	２３０	１７０
枠記号　沓摺（水切）記号	Ａ－２・ｏ	Ａ－２・ｏ	ＳＡＴ－１・ａ	Ａ－１・ｂ	Ａ－１・ｂ	Ａ－２・ｏ	Ａ－１・ｂ	Ｓ－１・ｄ
建具金物	戸当り・丁番・ＤＣ・シリンダー本締錠・両面締りハンドル	戸当り・丁番・ＤＣ・シリンダー本締錠・両面締りハンドル	戸当り・丁番・ＤＣ・シリンダー本締錠・両面締りハンドル	大型戸当り・あおり止め・３点連動両面締りハンドル シリンダー本締り錠・ＤＣ	大型戸当り・あおり止め・３点連動両面締りハンドル シリンダー本締り錠・ＤＣ	大型戸当り・あおり止め・３点連動両面締りハンドル シリンダー本締り錠・ＤＣ	大型戸当り・あおり止め・３点連動両面締りハンドル シリンダー本締り錠・ＤＣ	戸当り・丁番・ＤＣ・レバーハンドル
その他								
形状・寸法								

記号・名称・個数	AW 1 アルミ製ＦＩＸ窓（防火設備窓） 3	AW 2 アルミ製ＦＩＸ窓（防火設備窓） 1	AW 3 アルミ製ＦＩＸ窓 2	AW 4 アルミ製ＦＩＸ窓（防火設備窓） 2	AW 5 アルミ製ＦＩＸ窓 1	AW 6 アルミ製ＦＩＸ窓（防火設備窓） 1	AW 7 アルミ製ＦＩＸ窓（防火設備窓） 3	AG 1 アルミ製ガラリ 1
場　所	１階：階段室・２階：階段室	１階：階段室	１階：ゲート室	１階：自家発電機室	２階：換気機械室、便所	２階：換気機械室、便所	２階：電気室	２階：換気機械室
仕上（枠共）	アルミ表面処理　Ｂ－１種	アルミ表面処理　Ｂ－１種	アルミ表面処理　Ｂ－１種	アルミ表面処理　Ｂ－１種	アルミ表面処理　Ｂ－１種	アルミ表面処理　Ｂ－１種	アルミ表面処理　Ｂ－１種	アルミ表面処理　Ｂ－１種
建具　見込（ランマ）								
建具　硝子（ランマ）	Ｎ⑦６．８	Ｎ⑦６．８	Ｎ⑦６．８	Ｎ⑦６．８	Ｎ⑦６．８	Ｎ⑦６．８	Ｎ⑦６．８	
建具　ガラリ								ハー１（開口率３０％）
建具枠　見込取合　沓摺	７０	７０	７０	７０	７０	７０	７０	７０
枠記号　沓摺（水切）記号	Ａ－１・ａ－１	Ａ－１・ａ－１	Ａ－１・ａ－１	Ａ－２・ａ－２	Ａ－２・ａ－２	Ａ－２・ａ－２	Ａ－２・ａ－２	Ａ－３・ａ－２
建具金物								
その他								
形状・寸法								

記号・名称・個数	AG 1 アルミ製ガラリ（ＦＤ付） 1
場　所	２階：換気機械室
仕上（枠共）	アルミ表面処理　Ｂ－１種
建具　見込（ランマ）	
建具　硝子（ランマ）	
建具　ガラリ	ハー１（開口率３０％）
建具枠　見込取合　沓摺	７０
枠記号　沓摺（水切）記号	Ａ－３・ａ－２
建具金物	
その他	
形状・寸法	

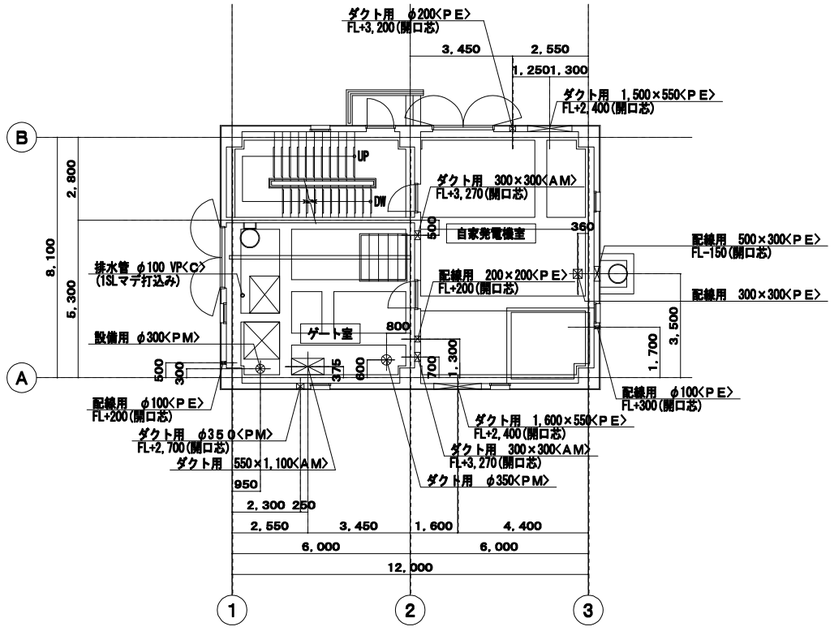
共通事項

1. 特記なき限り外部はシリンダ箱錠（内部サムターン）とし内部は本締り付きモノロックとする。但し、押板、押棒の場合は、シリンダ本締り錠とする。
2. パイプスペース、ダクトスペースの点検扉の錠はシリンダ本締り錠（特記なき限り同一キー）とする。
3. 便所等の施錠を必要としない箇所は空錠とし、押板、押棒の場合は錠不要とする。
4. ＡＨ、ＦＨを除きＤＣの有無にかかわらず出入口には戸当り、あおり止めをつける。壁仕上ボード類等の場合は床付きとする。（但し、通行に支障のあるものは除く）
5. 特記なき限り外部に面するガラリ戸は防鳥網付とする。
6. アルミニウム製窓の締り金物、排煙口操作レバーの位置は床から１，５００以内とす
7. 大型、気密鋼製建具はシリンダ本締り錠付きとする。
8. 特記なき限り内部建具のガラリはイ型とする。
9. 特記なき限り鋼製戸の見込みは４０㎜とする。
10. 防火戸の位置は建具位置図による。
11. 特記なき限り気密扉・簡易気密扉の吸音材の充填は行わないものとする。

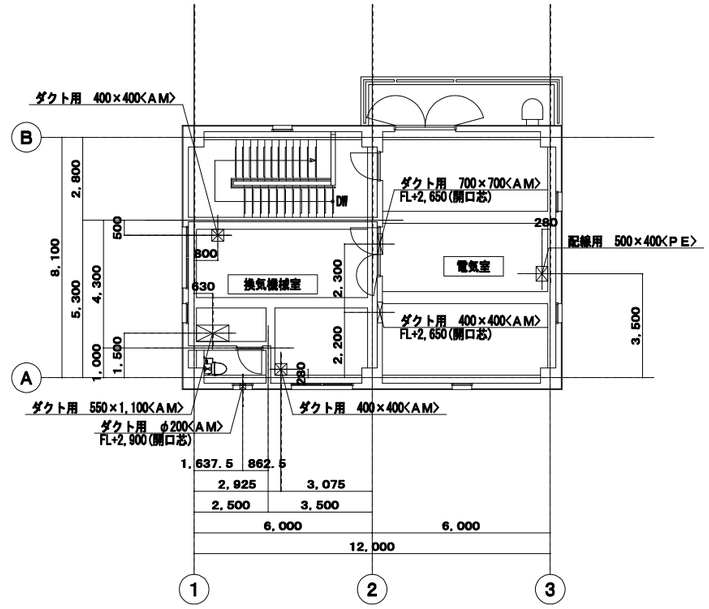
建具略号	種　別	戸	窓	ガラリ	オーバーヘッドドア	紙障子	ふすま	シャッター	網戸
	アルミニウム製	ＡＤ	ＡＷ	ＡＧ	ＡＯＤ			ＡＳ	ａＷ
	鋼　製	ＳＤ	ＳＷ	ＳＧ	ＳＯＤ			ＳＳ	
	鋼製軽量	ＬＤ						ＬＳ	
	ステンレス製	ＳＳＤ	ＳＳＷ	ＳＳＧ				ＳＳＳ	
	木　製	ＷＤ	ＷＷ	ＷＧ		Ｐ	Ｈ		

ガラス略号		金物略号	
Ｆ	型板ガラス	ＤＣ	ドアクローザー
Ｐ	フロート板ガラス	ＡＨ	オートヒンジ
Ｎ	網入型板ガラス	ＦＨ	フロアヒンジ
ＮＰ	網入みがき板ガラス	ＯＨ	ピボットヒンジ

事業名	令和３年度 公共下水道事業		
工事名	波木汚水中継ポンプ場上屋建築工事		
工事場所	四日市市　波木町 地内		
名　称	建具表		
縮　尺	1/100	設計年月日	令和　年　月　日
工　種		設計者	
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	Ａ－２５

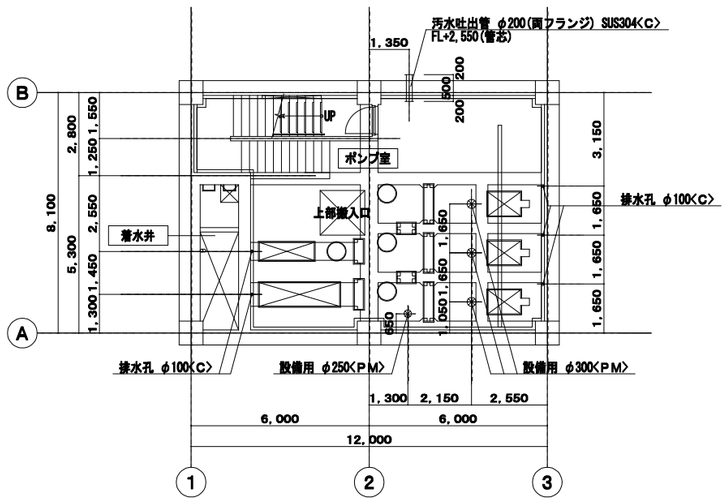


１階平面図　S=1:200



２階平面図　S=1:200

凡　例	
<C>	土木工事
<AM>	建築機械設備工事
<PE>	プラント電気設備工事
<PM>	プラント機械設備工事



地下１階平面図　S=1:200

事業名	令和３年度 公共下水道事業		
工事名	波木汚水中継ポンプ場上屋建築工事		
工事場所	四日市市　波木町 地内		
名　称	穴明け図		
縮　尺	1/200	設計年月日	令和　年　月　日
工　種		設計者	
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	A－２６

仮 囲 い 工 平 面 図

S=1/200

※パネルは全て3.0mを使います。

普通パネル 134.06m
(261枚+調整分3.56m)

普通パネル 55.07m
(108枚+調整分1.07m)

普通パネル 51.76m
(103枚+調整0.26m)

事業名	令和　3年度公共下水道事業		
工事名	波木汚水中継ポンプ場上屋建築工事		
工事場所	四日市市　波木町 地内		
名称	（参考）仮設道路工平面図		
縮尺	1/400	設計年月日	令和　年　月　日
工種		設計者	
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	A－27

敷鉄板敷設平面図

S=1/200

現設計敷鉄板面積　381.9m2（緑破線）
提案敷鉄板面積　385.5m2（赤線部　1524*3048*83枚）
連結金具（200*65*9）192枚

連結金具
200×65×9

仮設道路敷鉄板
PL-22

事業名	令和　3年度公共下水道事業		
工事名	波木汚水中継ポンプ場上屋建築工事		
工事場所	四日市市　波木町　地内		
名称	（参考）敷鉄板敷設図		
縮尺	1/400	設計年月日	令和　年　月　日
工種		設計者	
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	A－２８

構 造 細 目 共 通 図（複合構造物）

＜ 平成３０年版 ＞

※ 本図面は(一社)全国上下水道コンサルタント協会が著作権を有するものである。
使用にあたっては、上記協会への使用願いの提出と、配布番号の記載が必要である。
枠外右下の【協会員番号】と【配布番号】の記載が無い図面は無効とする。

1 特記事項

1．1 適用範囲

（1）本構造細目共通図は、下水道施設における処理場、ポンプ場の複合構造物に適用する。
（2）土木工事と建築工事の区分は図面による。
（3）図面及び構造細目共通図に記載されていない事項は、下記に基づくものとし、これらに相違がある場合は監督職員に確認し指示を受ける。

土木工事	1）三重県公共工事共通仕様書		（平成30年4月版）
	2）下水道施設標準図（詳細）土木・建築・建築設備編[JS]		
	3）コンクリート標準示方書・施工編	土木学会	（ 2017年版 ）
	4）コンクリート標準示方書・設計編	土木学会	（ 2017年版 ）
建築工事	1）建築工事特記仕様書		（別紙による。）
	2）建築工事一般仕様書		（平成 27 年版）
	3）公共建築工事標準仕様書（建築工事編）	国土交通省大臣官房官庁営繕部	（平成 31 年版）

（4）項目は、⊙印のついたものを適用する。○印のない場合は、※ 印のあるものを適用する。⊙印と ※印のある場合は、共に適用する。

1．2 鉄筋の仕様

鉄筋の種類及び継手は１．２．１表による。

１．２．１表 鉄筋の種類及び継手

	種 別	径	
		土 木	建 築
鉄筋の種類	ＳＤ２９５Ａ	―――	※ Ｄ１６以下 ・
	※ ＳＤ３４５ ・ ＳＤ３９０ ・ ＳＤ４９０	※ Ｄ１３以上 ・	―――
	ＳＤ３４５	―――	※ Ｄ１９以上
鉄筋の継手	重ね継手	下記以外	
	ガス圧接	※ Ｄ１９以上の柱、梁主筋 ※ Ｄ１６以上の増設端の床、壁鉄筋 ・	※ Ｄ１９以上、Ｄ２９以下の柱、梁主筋 ・
	機械式継手	・図面による。	

1．3 コンクリートの仕様

コンクリートは１．３．１表による。

１．３．１表 コンクリートの仕様

分 類			コンクリート種別	設計基準強度（N/mm²）	スランプ（cm）	セメントの種類
土木	鉄筋コンクリート		※ 普通コンクリート ・	※ ２４ ・ ３０ ・	※ １２ ・	※ 高炉セメントB ・ 普通ポルトランドセメント ・ 低熱ポルトランドセメント
建築	鉄筋コンクリート	地上	※ 普通コンクリート ・	※ ２４ ・ ・	※ １８ ・	※ 普通ポルトランドセメント ・ 高炉セメントB
		地下基礎、基礎梁	※ 普通コンクリート ・	※ ２４ ・ ・	※ １５ ・	※ 普通ポルトランドセメント ・ 高炉セメントB
土木	無筋コンクリート		※ 普通コンクリート ・	※ １８ ・	※ １２ ・	※ 高炉セメントB ・ 普通ポルトランドセメント ・
建築	無筋コンクリート		※ 普通コンクリート ・	※ １８ ・	※ １５ ・	・ 普通ポルトランドセメント ・ 高炉セメントB ・

注１：無筋コンクリートには均しコンクリート、捨てコンクリートを含む。

1．4 砕石及び均しコンクリート、捨てコンクリート

砕石及び均しコンクリート、捨てコンクリートの厚さは１．４．１表による。

１．４．１表 砕石及び均しコンクリート、捨てコンクリートの仕様

部 位	種 別	厚さ（mm）
土木工事	砂利または砕石	※ ２００ ⊙ １００
	均しコンクリート	※ １００ ⊙ ５０
建築工事	砂利または砕石	※ ６０
	捨てコンクリート	※ ５０

2 共通事項

2．1 記号及び符号

設計図中で使用する記号及び符号は、２．１．１表及び２．１．２表を標準とする。

２．１．１表 鉄筋の断面表示

区分＼径	Ｄ１０	Ｄ１３	Ｄ１６	Ｄ１９	Ｄ２２	Ｄ２５	Ｄ２９	Ｄ３２
建 築	●	×	⌀	●	○	⊙	⊠	◎
土 木	／	● 又は建築による。						

２．１．２表 一般凡例

記・号符・号	内 容	※印の説明及び注意事項
Ｆ※	フーチング断面種別	※ 番号
※１Ｃ※２	柱断面種別	※１ 階数 ※２ その階の番号
※１Ｇ※２	大梁断面種別	※１ 階数、地中大梁はＦとする ※２ その階の番号 Ｘ方向１，２，３・・・・ Ｙ方向Ａ，Ｂ，Ｃ・・・・
ＣＧ※	片持大梁断面種別	※ 番号、階別区分はしない
※１Ｂ※２	小梁断面種別	※１ 地中小梁のみＦとする ※２ 階別区部はしない 地中小梁を除く
ＣＢ※	片持小梁断面種別	※ 番号、階別区分はしない
※１Ｗ※２	壁配筋種別	※１ Ｅ：耐震壁、Ｋ：階段壁 Ｄ：土圧、水圧を受ける壁 階別区分はしない ※２ 壁厚（cm）
※１Ｓ※２※３	床版配筋種別	※１ 片持床版のみＣとする ※２ 床版厚（cm） ※３ 配筋種別（英大文字） 階別区分はしない
※１Ｋ※２	階段の配筋種別	※１ Ａ：片持床版形 Ｂ：二辺固定床版形 ※２ 配筋種別（数字） 階別区分はしない
ＣＢ※	コンクリートブロック壁	※ 壁厚（cm）
▨	打ち増し範囲	
▧	梁・床版の上がり下がり	一般には基準ＦＬよりの＋、－に応じた凡例により表示
（※）	床用積載荷重	積載荷重の値（ｋＮ／㎡）
ＳＴＰ	あばら筋、スターラップ	梁、基礎梁、小梁
ＨＯＯＰ	帯筋、帯鉄筋、フープ	柱
Ｓ．ＨＯＯＰ	スパイラル筋、らせん筋	柱
幅止筋	幅止め筋	柱、梁、壁
組立筋	組立て筋	床版、底版

（用語の定義）

・床版とは、常時荷重及び地震時荷重を負担する主部材をいう。壁式構造のボックスカルバートやラーメン構造の頂版や底版がある。

・スラブとは、常時荷重のみを負担する梁に支持される副部材をいう。

2．2 一般注意事項

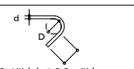
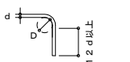
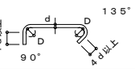
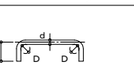
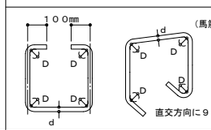
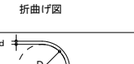
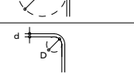
（1）設計図は監督職員の承諾を得なければ変更してはならない。
変更の必要を生じた場合は、監督職員と協議すること。

3 土木工事

3．1 鉄筋の折曲げ加工

鉄筋の折曲げ加工は、３．１．１表及び３．１．２表を標準とする。
（1）Ｄは、折曲げ内法直径を示す。
（2）ｄは、鉄筋直径（呼び名）を示す。

３．１．１表 鉄筋曲げ加工（1）

位 置	曲げ角度	折曲げ図及び折曲げ後の余長	曲げ内法直径	使 用 箇 所	
末端部	１８０°		５ｄ以上	定着末端部	
	１３５°		５ｄ以上	スターラップ、帯鉄筋、フープ筋 等	
	９０°		５ｄ以上		
	９０° １３５°		５ｄ以上	梁	幅止め鉄筋
	９０°			壁	
				床版底版	
中間部	９０°		５ｄ以上	あばら筋、帯筋スパイラル筋	
	θ＜９０°		１０ｄ以上	折曲げ鉄筋	

３．１．２表 鉄筋曲げ加工（2）

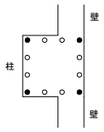
位 置	曲げ角度	折曲げ図	曲げ内法直径	使 用 箇 所
最上階	９０°		２０ｄ以上	ラーメン隅角部
一般階	９０°		５ｄ以上	

3．2 異形鉄筋の末端部

異形鉄筋の末端部には、３．２．１表によりフックを設ける。

３．２．１表 フックを設ける位置

部 位		継手方式		備 考
		重ね継手	圧接継手	
柱	四隅の主筋	―	1）最上階の柱頭	3.2.1 図の●印 3.8.1 図参照
	上下階の柱断面が異なる場合	―	1）下階の柱主筋を引き通す事が出来ない柱頭部	3.2.1 図の●印 3.8.2 図参照
	帯筋（HOOP）	1）末端部 2）継手部	1）末端部	3.9.1 図参照
梁	あばら筋（STP）	1）末端部 2）継手部	1）末端部	3.12.1 図参照
杭基礎	独立フーチング基礎の底版筋	1）末端部 2）継手部	1）末端部	3.25.1 図参照
煙突の鉄筋		1）末端部 2）継手部	1）末端部	壁の一部となる場合を含む
幅止め筋		―	―	3.1.1 表参照



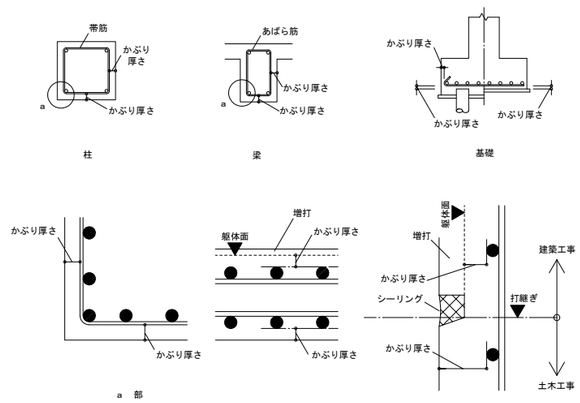
３．２．１図 異形鉄筋の末端部

3．3 鉄筋のかぶり及び間隔

３．３．１ かぶり厚さ

かぶり厚さとは、一番外側の鉄筋（幅止め筋を除く）の外面から躯体面までの距離（３．３．１図）をいう。

鉄筋組立後のかぶり厚さは、最小かぶり厚さ以上を確保し、最小かぶり厚に許容誤差１０mmを加えた厚さ以内に納めるものとする。



３．３．１図 鉄筋のかぶり厚さ

３．３．２ 最小かぶり厚さ

最小かぶり厚さは、３．３．１表による。
床版、梁、基礎及び擁壁で、直接土に接する部分のかぶり厚さには、均しコンクリートの厚さを含まない。

３．３．１表 鉄筋の最小かぶり厚さ(mm)

※ 通常の施工の場合

環境＼部位	床版・スラブ・梁	柱・壁	底版・フーチング
大気中	５０	５０	－
水中・土中等	５０	７０	７０

・ 塩害対策地域の施工の場合

対策区分	環境＼部位	床版・スラブ・梁	柱・壁	底版・フーチング
・ Ⅰ	大気中	７０	７０	－
	水中・土中等			７０
・ Ⅱ，Ⅲ	大気中	５０	７０	－
	水中・土中等			７０

１：部位により最小かぶり厚さの判断が困難な場合は、監督職員の指示を得る。
２：抗基礎の底版・フーチング下端筋のかぶり厚さは、７．杭基礎の補強を参照する。

〔注〕梁：大梁、小梁、基礎梁、片持梁をいう。

事業名	令和3年度 公共下水道事業		
工事名	波木汚水中継ポンプ場上屋建築工事		
工事場所	四日市市 波木町 地内		
名 称	構造細目共通図（複合構造物）（1）		
縮 尺	－	設計年月日	令和 年 月 日
工 種		設 計 者	
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	S-01

3　土木工事

3．4　鉄筋相互のあき

3．4．1　梁・壁・床版

鉄筋相互のあきは、下記（1）、（2）、（3）の最大値以上とする。

（1）粗骨材の最大寸法の４／３倍

（2）最小のあき２５㎜

（3）隣り合う鉄筋の平均径（呼び名の数値）の１．５倍

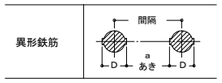
3．4．2　柱

鉄筋相互のあきは、下記（1）、（2）、（3）の最大値以上とする。

（1）粗骨材の最大寸法の４／３倍

（2）最小のあき４０㎜

（3）隣り合う鉄筋の平均径（呼び名の数値）の１．５倍



3．4．1図　鉄筋のあき

（注）D：鉄筋の最外径
d：鉄筋径（呼び名）

3．4．1表　鉄筋径と鉄筋間隔の関係一覧

鉄筋径(㎜)		鉄筋相互のあき：a			最小鉄筋芯間隔	
鉄筋径 d	最外径 D	（1）粗骨材径×４／３倍	（2）最小あき	（3）鉄筋径×１．５	（梁）a＋D	（柱）a＋D
Ｄ１３	１４	３３㎜［粗骨材最大径２５㎜の場合］	梁：２５㎜ 柱：４０㎜	２０㎜	４７㎜	５４㎜
Ｄ１６	１８			２４㎜	５１㎜	５８㎜
Ｄ１９	２１			２９㎜	５４㎜	６１㎜
Ｄ２２	２５			３３㎜	５８㎜	６５㎜
Ｄ２５	２８			３８㎜	６６㎜	６８㎜
Ｄ２９	３３			４４㎜	７７㎜	７７㎜

3．5　鉄筋の継手及び定着

3．5．1　継手長及び定着長の基本

（1）鉄筋の重ね継手長さは3．5．1表、定着の長さは3．5．2表による。

①　本表の適用は、鉄筋種類ＳＤ３４５、鉄筋径Ｄ１３～Ｄ３２とする。

②　定着長は折曲げ加工後の直線部分で確保する。

③　壁、床版、底版の主鉄筋の中心間隔が１００㎜未満の場合は、別途図示による。

3．5．1表　鉄筋の重ね継手長さ

鉄筋の種類	鉄筋径	設計基準強度	S_1：重ね継手長			
			鉄筋中心間隔２００㎜以上		１００㎜以上２００㎜未満	
			フックなし	フックあり	フックなし	フックあり
ＳＤ３４５	Ｄ１６以下	２４以上２７未満（N／㎟）	４０・ｄ	３０・ｄ	５０・ｄ	４０・ｄ
	Ｄ１９～Ｄ２２		４５・ｄ	３５・ｄ	６０・ｄ	５０・ｄ
	Ｄ２５～Ｄ３２		５０・ｄ	４０・ｄ	６５・ｄ	５５・ｄ

3．5．2表　鉄筋の定着長さ

鉄筋の種類	鉄筋径	設計基準強度	S_2：定着長		S_3：定着長		S_4：定着長	
			フックなし	フックあり	フックなし	フックあり	フックなし	フックあり
ＳＤ３４５	Ｄ１６以下	２４以上２７未満（N／㎟）	４０・ｄ	３０・ｄ	３５・ｄ	２５・ｄ	３５・ｄ	２５・ｄ
	Ｄ１９～Ｄ２２		５０・ｄ	４０・ｄ	４０・ｄ	３０・ｄ	３５・ｄ	２５・ｄ
	Ｄ２５～Ｄ３２		６０・ｄ	５０・ｄ	４５・ｄ	３５・ｄ	３５・ｄ	２５・ｄ

（2）S_2, S_3, S_4の適用区分を以下に記す。

S_2：（最上層）大梁上端、基礎梁上端、床版（壁構造）、床版上端（ラーメン構造）、底版。

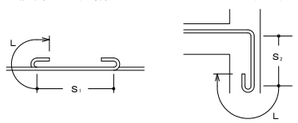
S_3：柱、壁、（中間層）大梁上端、大梁下端、床版下端（ラーメン構造）、基礎梁下端。

S_4：小梁、スラブ（地震力を受けない部材）。

（3）径が異なる鉄筋の継手長さは、細い鉄筋の径による。

（4）継手は相互にずらすことを原則とする。

（5）フックのある場合の継手長及び定着長には、3．5．1図に示すようにフック部分Ｌを含まない。



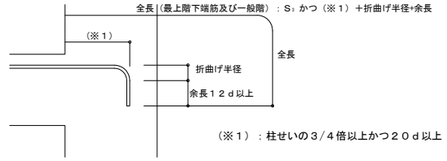
3．5．1図　フックのある場合の継手及び定着要領

3．5．2　継手の特記事項

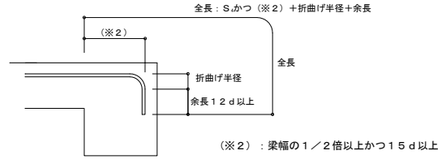
（1）　継手は極力応力の小さい位置に設ける。

（2）　異なる径の鉄筋をガス圧接する場合、鉄筋径の差が５㎜を超える圧接をしてはならない。

3．5．3　梁主筋の柱内定着



3．5．2図　梁主筋の柱内定着要領



3．5．3図　小梁及びスラブ上端筋の梁内折曲げ定着要領

3．6　隣り合う継手の位置

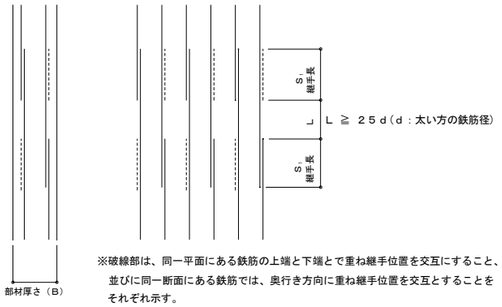
3．6．1　鉄筋の重ね継手

（1）　同一断面での継手は軸方向に相互にずらす。

（2）　ずらす距離（L）は、太いほうの鉄筋径の２５倍以上とする。

（3）　前記（2）を確保できない場合等は、監督職員の承諾を得て、ガス圧接継手又は機械式継手工法を採用することができる。

（4）　継手部の鉄筋のあきは、粗骨材の最大寸法以上とする。



※破線部は、同一平面にある鉄筋の上端と下端とで重ね継手位置を交互にすること、並びに同一断面にある鉄筋では、奥行き方向に重ね継手位置を交互とすることをそれぞれ示す。

3．6．1図　重ね継手工法

3．6．2　鉄筋のガス圧接および機械式継手

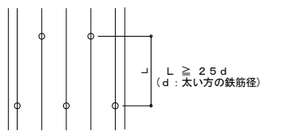
鉄筋のガス圧接継手及び機械式継手は「鉄筋定着・継手指針[2007年版]」（土木学会）による。機械式継手は、ねじふし鉄筋継手工法とする。また、ねじふし鉄筋工法以外の機械式継手を採用する場合は、監督職員の承諾を得ること。

（1）　同一断面での継手は軸方向に相互にずらす。

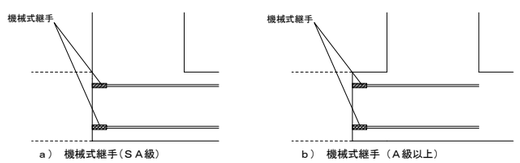
（2）　ガス圧接の場合のずらす距離（L）は、太い方の鉄筋径の２５倍以上とする。

（3）　機械式継手の場合のずらす距離（L）は、太いほうの鉄筋径の２５倍以上とする。

（4）　機械式継手をイモ継ぎ部に使用する場合は、継手性能はＳＡ級かつ継手信頼度をⅠ種とする。なお、3.6.3図　b）に示すように、隅角端部から継手位置まで必要な離間を確保した場合はＡ級を選定することができる。詳細は「鉄筋定着・継手指針[2007年版]」（土木学会）による。



3．6．2図　ガス圧接継手工法及び機械式継手工法



3．6．3図　機械式継手におけるイモ継手位置

3．7　継手及び圧接中心位置（柱、大梁）

継手及び圧接中心位置は図面にない場合は、３．７．１図による。

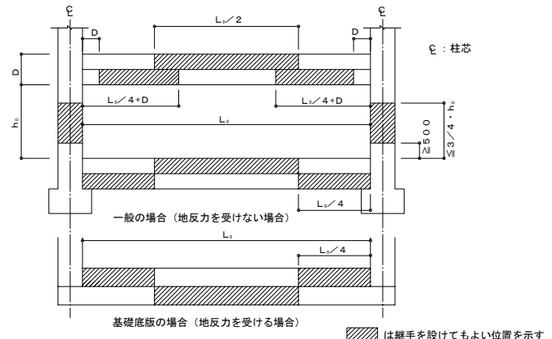
（1）柱の継手及び圧接中心位置は、梁上端から５０㎝以上、１５０㎝以下かつ３／４ｈｅ（ｈｅは柱の内法高さ）以下とする。

（2）梁の継手及び圧接中心位置は下記による。

上端筋　中央：L_0／２以内

下端筋　両端：柱面より梁せい（Ｄ）以上離し、L_0／４を加えた範囲以内

（3）通常の応力と異なる場合の継手位置は、３．７．１図によらず図面による。



3．7．1図　継手及び圧接中心位置

3．8　柱筋の継手及び定着

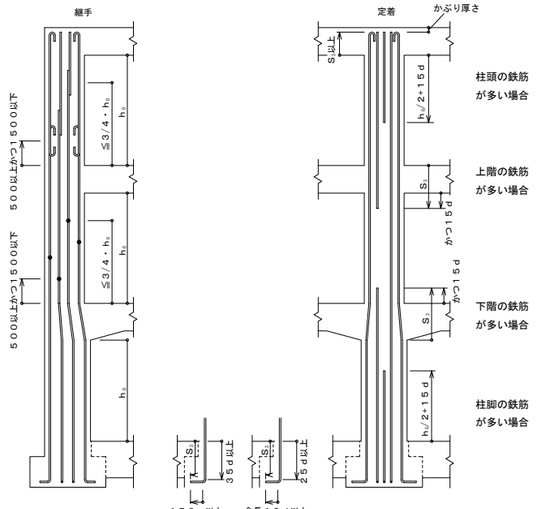
3．8．1　一般事項

（1）継手長さはS_1とし、定着及び余長は、３．８．１図による。

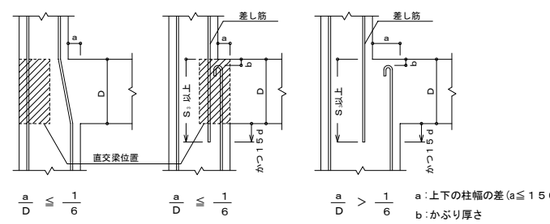
（2）柱頭定着長さS_2が確保出来ない場合は、図面による。

（3）上下の柱断面が異なる場合の柱主筋の折曲げ及び定着は、３．８．２図による。

（4）柱脚定着長さ２５ｄ（余長１２ｄ以上）または３５ｄが確保出来ない場合は、図面による。



3．8．1図　柱主筋の継手、定着及び余長



a：上下の柱幅の差（a≦１５０）

b：かぶり厚さ

D：梁のせい

3．8．2図　上下の柱断面が異なる柱主筋の折曲げ及び定着

3．9　帯筋の形状

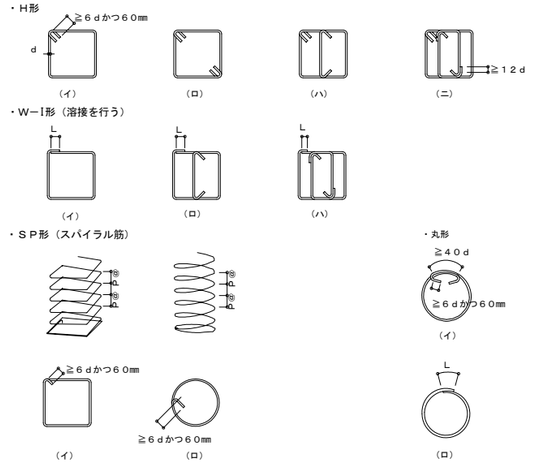
（1）帯筋の形状は、３．９．１図とし、種別は図面による。図面になければ下記による。

（a）Ｈ形とする。

（b）Ｈ形の１３５°曲げのフックが困難な場合は、Ｗ－Ⅰ形とする。

（c）溶接する場合の溶接長さＬは、両面フレア溶接の場合は５ｄ以上、片面フレア溶接の場合は１０ｄ以上とし、組立前に行う。

（d）ＳＰ形において、柱頭及び柱脚の端部は、１．５巻以上の添巻きを行う。



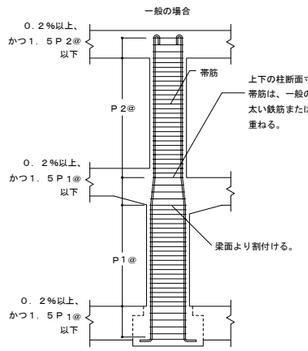
3．9．1図　帯筋組立の形

3．10　帯筋の割付け

（1）フック及び継手の位置は交互とする。

（2）帯筋の割付けは、３．１０．１図による。ただし、図面にある場合は図面による。

（3）柱、梁の交差部（パネルゾーン）の帯筋のせん断補強比は、０．２%以上を確保し、補強筋間隔は１．５Ｐ以下とする。



3．10．1図　帯筋の割付け

柱、梁の交差部の配筋例（０．２%確保）

柱幅(㎜)	パネルゾーン
≦５００	Ｄ１３ @１５０
≦６００	Ｄ１３ @１５０
≦７００	Ｄ１３ @１５０
≦８００	Ｄ１３ @１５０
≦９００	Ｄ１３ @１２５
≦１０００	Ｄ１３ @１２５
≦１１００	Ｄ１３ @１００
≦１２００	Ｄ１３ @１００

※１．５P_1、１．５P_2のピッチは１５０㎜以下とする。

事業名	令和３年度 公共下水道事業		
工事名	波木汚水中継ポンプ場上屋建築工事		
工事場所	四日市市　波木町 地内		
名称	構造細目共通図（複合構造物）（2）		
縮尺	－	設計年月日	令和　年　月　日
工種		設計者	
事業主体	四日市市上下水道局	図面番号	S-02

3　土木工事

3．11　大梁筋の継手及び定着

3．11．1　一般事項

（1）継ぎ手長さ、定着長さ及び余長は、3．11．1図から3．11．10図による。

（2）梁主筋は、連続端で柱に接する梁の主筋が同数のときは柱をまたいで引き通すものとし、鉄筋の本数が異なる場合には、3．5．2図のように柱内に定着する。ただし、やむを得ず梁内に定着する場合は、3．11．1図による。

（3）梁主筋を柱内に折り曲げて定着する場合は次による。

下端筋：原則として曲げ上げる。

上端筋：曲げ下ろす

梁主筋ののみ込み長さは、柱せいの3／4倍以上かつ20d以上を確保する。（※1）

梁主筋の柱内定着は、3．5．2図による。

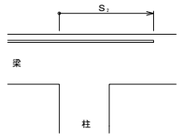
（4）梁にハンチをつける場合、その傾斜は図面による。図面になければ1：4とする。

（5）＝＝＝＝ 印は、継ぎ手及び余長を示す。

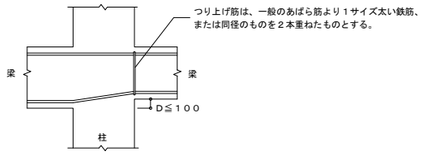
（6）破線は柱内定着の場合を示す。

（7）3．2異形鉄筋の末端部で定めた鉄筋にはフックをつける。

（8）段違い梁は3．11．2図による。



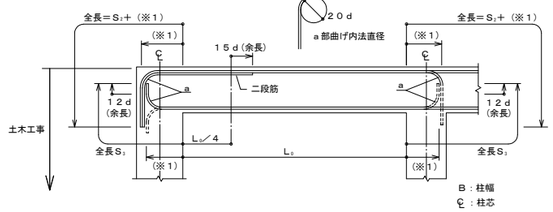
3．11．1図　梁主筋を梁内定着



3．11．2図　段違い梁

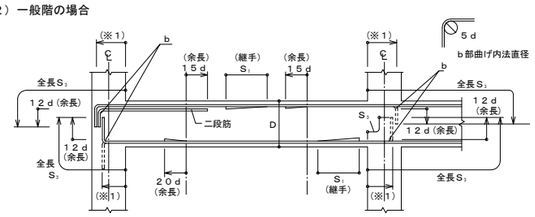
3．11．2　ハンチのない場合

（1）最上階の場合

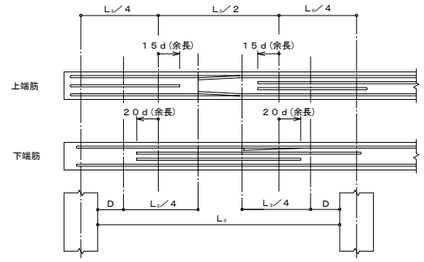


3．11．3図　大梁の重ね継手、定着及び余長（最上階）

（2）一般階の場合



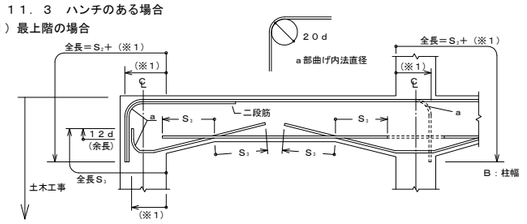
3．11．4図　大梁の重ね継手、定着及び余長（一般階その1）



3．11．5図　大梁の重ね継手、定着及び余長（一般階その2）

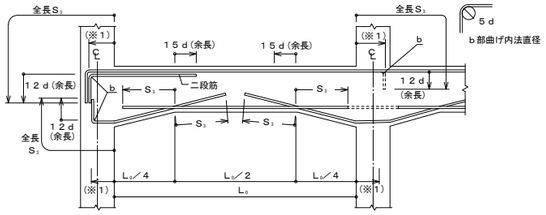
3．11．3　ハンチのある場合

（1）最上階の場合



3．11．6図　ハンチのある大梁の定着及び余長（最上階）

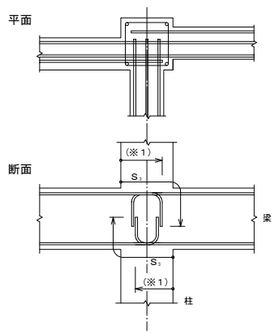
（2）一般階の場合



3．11．7図　ハンチのある大梁の定着及び余長（一般階）

3．11．4　水平段差のある場合

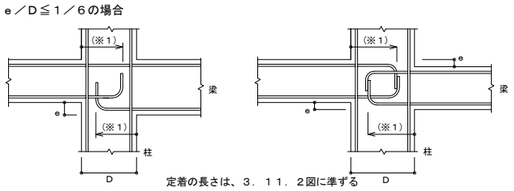
（1）水平段差のある場合



3．11．8図　大梁の定着及び余長（水平段差のある場合）

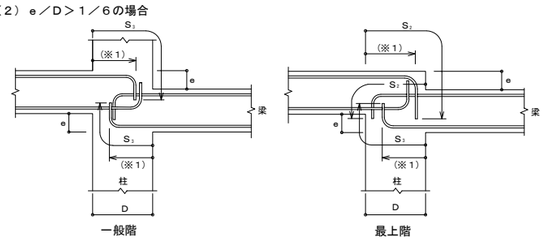
3．11．5　鉛直段差（e）のある場合

（1）e／D≦1／6の場合



3．11．9図　鉛直段差梁（その1）

（2）e／D＞1／6の場合



3．11．10図　鉛直段差梁（その2）

3．12　梁のあばら筋、腹筋及び幅止め筋

3．12．1　一般事項

（1）腹筋に継手を設ける場合の継手長さは、150㎜程度とする。

（2）壁梁の場合、腹筋の継手長さはS_1、定着長さをS_3とする。

（3）土圧、水圧を受ける梁は、図面による。

（4）幅止め筋及び受け用幅止め筋は、D13－1000㎜ピッチ程度とする。

（5）破線は柱内定着の場合を示す。

3．12．2　あばら筋組立の形及びフックの位置

（1）形は、3．12．1図（イ）を標準とする。

ただし、（イ）によることが出来ない場合は、下記の方法によることが出来る。

a．床版が片側に付く場合は、（ロ）又は（ハ）

b．床版が両側に付く場合は、（ロ）～（ニ）

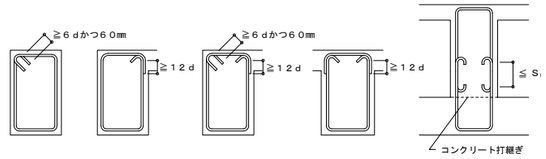
（2）フックの位置

a．（イ）の場合は交互とする。

b．（ロ）の場合　床版が片側に付く場合は床版の付く側、床版が両側に付く場合は交互

c．（ハ）の場合は床版の付く側を90°折曲げる。

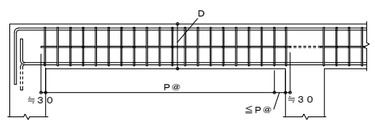
d．（ホ）は梁の上下にスラブが付く場合で、かつ梁せいが1．5m以上の場合に適用することが出来る。（基礎梁）



3．12．1図　あばら筋組立の形及びフックの位置

3．12．3　あばら筋の割付け

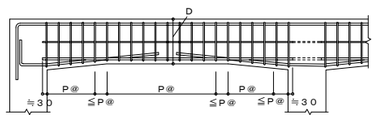
（1）間隔が一様でハンチのない場合



※あばら筋は、柱面の位置から割付ける。

3．12．2図　あばら筋の割付け（その1）

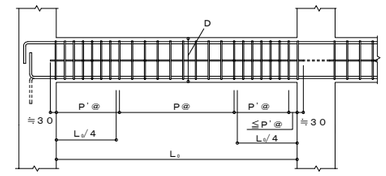
（2）間隔が一様でハンチのある場合



※あばら筋は、柱面の位置から割付ける。

3．12．3図　あばら筋の割付け（その2）

（3）梁の端部で間隔の異なる場合



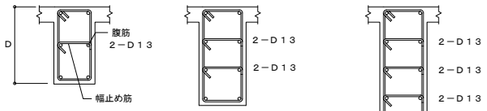
※あばら筋は、柱面の位置から割付ける。

3．12．4図　あばら筋の割付け（その3）

3．12．4　腹筋及び幅止め筋

（1）一般の梁

a）　腹筋及び幅止め筋



600≦D＜900　　900≦D＜1，200　　1，200≦D≦1，500

3．12．5図　腹筋及び幅止め筋

（2）特殊な梁

腹筋及び幅止め筋は、図面による。

事業名	令和3年度 公共下水道事業		
工事名	波木汚水中継ポンプ場上屋建築工事		
工事場所	四日市市　波木町 地内		
名称	構造細目共通図（複合構造物）（3）		
縮尺	－	設計年月日	令和　年　月　日
工種		設計者	
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	S-03

3　土木工事

3．13　基礎梁及び底版の継手及び定着

3．13．1　一般事項

（1）梁筋は、連続端で柱に接する梁筋が同数の時は柱をまたいで引き通すものとし、鉄筋の本数が異なる場合は柱内に定着する。やむを得ず梁内に定着する場合は、3．11．1図に準ずる。

（2）梁筋を柱内に定着する場合は、3．11．1（3）による。

（3）柱幅＜梁幅の場合の定着は、3．13．3図による。

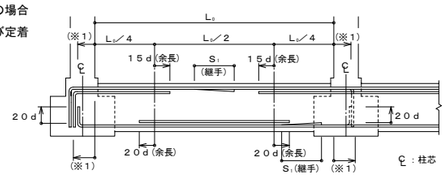
（4）　　印は、継ぎ手及び余長を示す。

（5）破線は柱内定着の場合を示す。

（6）図内（※1）は、3．11．1による。

3．13．2　基礎梁の場合

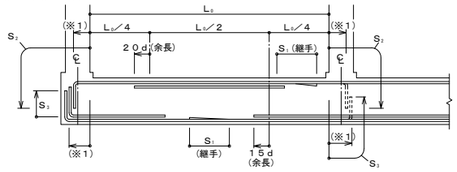
（1）基礎梁の継手及び定着



3．13．1図　主筋の継手、定着及び余長（その1）

3．13．3　連続基礎及びべた基礎の場合

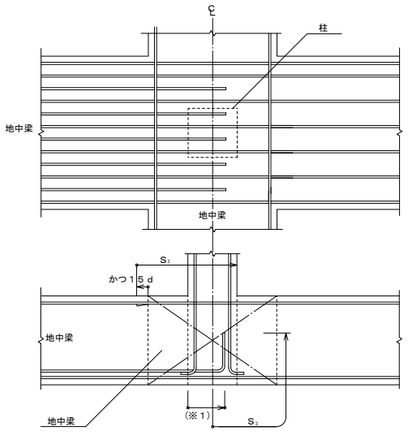
（1）柱幅≧梁幅の場合



3．13．2図　主筋の継手、定着及び余長（その2）

（2）柱幅＜梁幅の場合

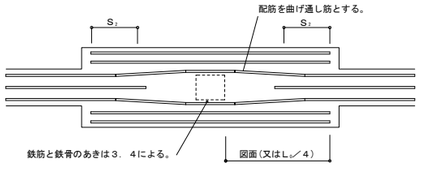
（a）交差部のスターラップを設ける場合は、図面による。



3．13．3図　主筋の継手、定着及び余長（その3）

3．13．4　梁形を設けない場合の基礎底版

（1）鉄骨造のＢＯＸ柱等が埋め込まれる場合の端部と中央部の断面の異なる場合



3．13．4図　主筋の継手、定着及び余長（その4）

3．14　小梁及び片持梁の配筋要領

3．14．1　一般事項

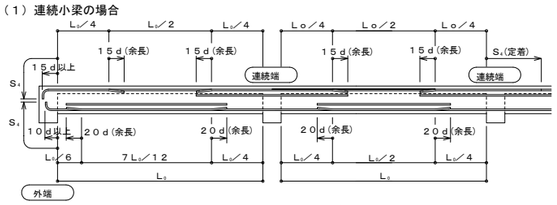
（1）図面にない事項は大梁、梁のあばら筋、及び基礎梁の項に準ずる。

（2）　　印は、余長位置を示す。

3．14．2　小　梁

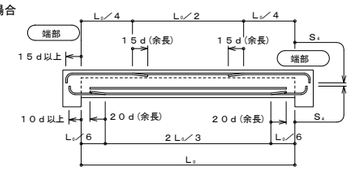
梁内の定着筋において梁せいが小さく垂直で余長が取れない場合、斜めにしてもよい。

（1）連続小梁の場合



3．14．1図　小梁主筋の継手、定着及び余長（その1）

（2）単独小梁の場合



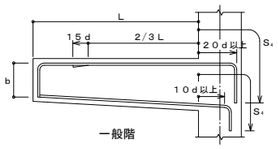
3．14．2図　小梁主筋の継手、定着及び余長（その2）

3．14．3　片持梁筋の定着

（1）先端に小梁のない場合

a．先端の折曲げの長さｂは、梁せいよりかぶり厚さを除いた長さとする。

b．梁筋を引き通さない場合は、取り合い部材に定着する。ただし、柱に取り合う場合は、全数を引き通すことができる場合でも、上端筋は、２本以上を柱に定着する。



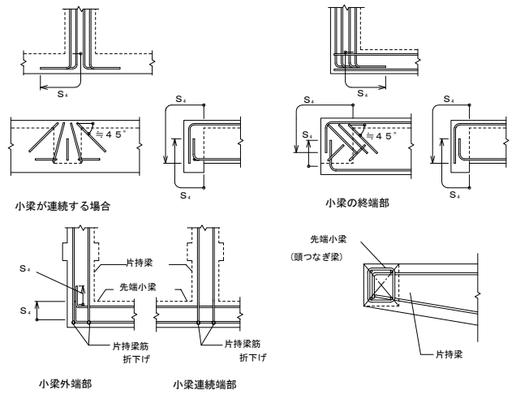
3．14．3図　片持梁主筋の定着及び余長（先端に小梁がない場合）

（2）先端に小梁がある場合

a．上端筋は、先端小梁内に斜めに定着する。

b．先端小梁終端部の主筋は、片持梁内に水平定着する。

c．先端小梁の連続端は、片持梁の先端を貫通する通し筋としてよい。



3．14．4図　片持梁主筋の定着

3．15　壁の配筋要領

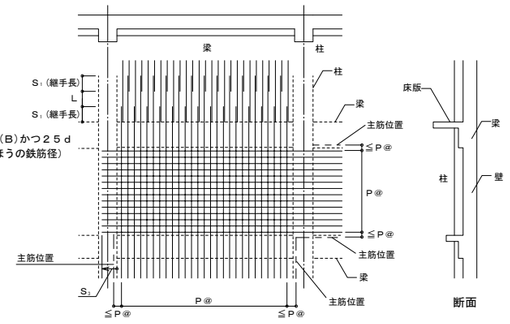
3．15．1　一般事項

（1）壁配筋の継手長さをＳ₁、定着の長さは、Ｓ₂とする。

（2）土圧及び水圧などを受ける壁及び耐震壁として、図面に示されたものは、継手長さをＳ₁、定着長さをＳ₂とする。

（3）幅止め筋は、縦、横ともＤ１３－@１０００㎜を標準とする。

（4）一般部壁筋は、3．15．1図によることとし、隣接する壁の鉄筋と重ね継手を設ける場合は、3．6項に従うものとする。



3．15．1図　壁の配筋

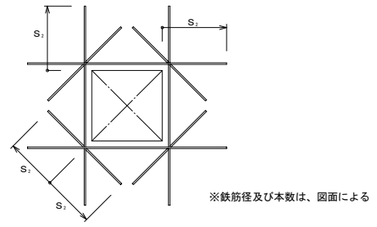
3．15．2　耐震壁の開口

（1）耐震壁等の開口は、図面以外は設けてはならない。

（2）やむを得ず開口をあける場合は、構造上安全であることを構造計算によって確認すること。

3．15．3　壁開口部の補強

（1）壁開口部の補強は、図面による。補強筋の長さ及び位置は、3．15．2図を標準とする。



※鉄筋径及び本数は、図面による

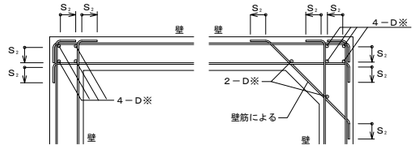
3．15．2図　壁開口部の補強要領

（2）開口寸法が配筋間隔以下で、鉄筋を緩やかに曲げることにより、開口部を避けて配筋出来る場合は、補強筋を省略することができる。

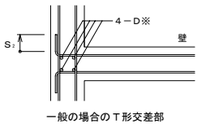
3．15．4　壁の交差部及び端部

（1）壁と壁の交差部は3．15．3図による。

a．交差部補強筋径Ｄ※はＤ１６以上、かつ壁配力筋と同径とする。



一般の場合のＬ形交差部　　ハンチを設け定着した場合のＬ形交差部



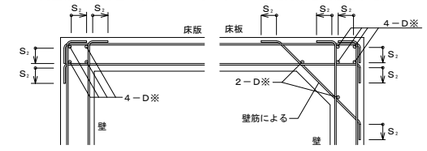
一般の場合のＴ形交差部

※ハンチ筋を設ける場合の配筋は、図面に指示がない場合はS₂を省略し、ハンチ筋は直筋とすることができる。図面に指示がある場合は、曲げ加工後に定着長S₂を確保する。定着長S₂は、いずれの場合も曲げ加工後の直線部にて確保する。

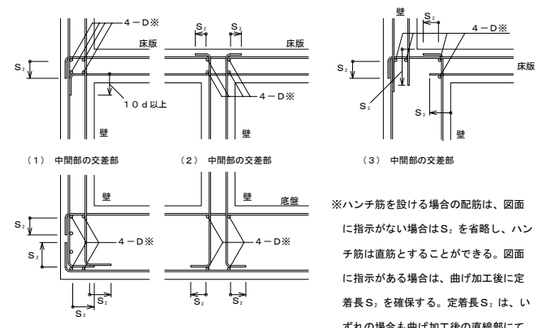
3．15．3図　壁と壁の交差部及び端部の配筋

（2）壁と床版の交差部は3．15．4図による。

a．交差部補強筋径Ｄ※はＤ１６以上、かつ壁配力筋と同径とする。



一般で最上階の交差部　　ハンチを設け定着した場合の最上階の交差部



※ハンチ筋を設ける場合の配筋は、図面に指示がない場合はS₂を省略し、ハンチ筋は直筋とすることができる。図面に指示がある場合は、曲げ加工後に定着長S₂を確保する。定着長S₂は、いずれの場合も曲げ加工後の直線部にて確保する。

3．15．4図　壁と床の交差部及び端部の配筋

※3．15．4図は、柱梁構造の場合である。地下階が壁式構造の場合は、構造細目共通図（土木構造物）（2）の「6．1．4　壁と床版・底板の交差部」を参照のこと。

事業名	令和３年度 公共下水道事業		
工事名	波木汚水中継ポンプ場上屋建築工事		
工事場所	四日市市　波木町 地内		
名称	構造細目共通図（複合構造物）（4）		
縮尺	－	設計年月日	令和　年　月　日
工種		設計者	
事業主体	四日市市上下水道局	図面番号	S-04

3　土木工事

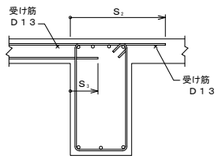
3．18　床の配筋要領

3．18．1　一般事項

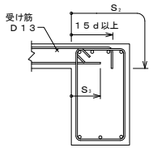
（1）鉄筋の継手長さは、S_1とする。

（2）ラーメン構造の床版の定着長さ及び受け筋は、3．18．1図による。ただし、引き通すことができない場合は、3．18．2図、3．18．3図により梁内に定着する。
なお、スラブ筋の場合は、3．18．1図～3．18．3図の定着長さS_1、S_2を、S_4と読み替える。

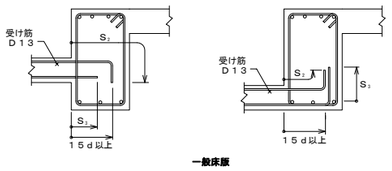
（3）基礎梁と床版を一体打ちとしないで、打ち継ぎを設ける場合の補強は図面による。
図面になければ3．20．5図による。



3．18．1図　床版筋の定着長さ及び受け筋（その1）



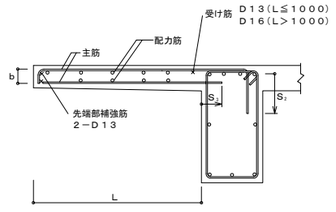
3．18．2図　床版筋の定着長さ及び受け筋（その2）



3．18．3図　床版筋の定着長さ及び受け筋（その3）

3．18．2　片持床版

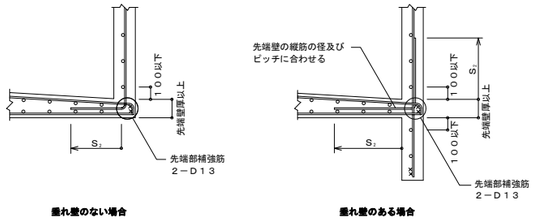
（1）片持床版の配筋



※片持スラブの場合は、3．18．4図及び図3．18．5図の定着長さS_2、S_3を、S_4と読み替える。
※先端の折り曲げ長さbは、片持部材の厚さよりかぶり厚さを除いた長さとする。
※床版に段差のない場合は、主筋を引き通して床版またはスラブに定着してもよい。

3．18．4図　片持床版の配筋

（2）先端に小梁がなく壁が取り付く場合



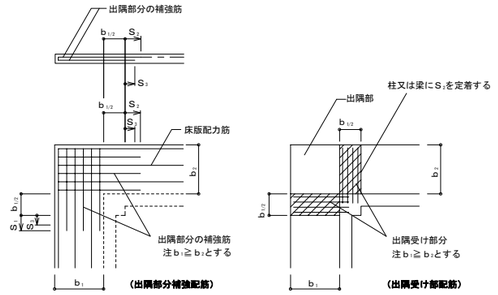
3．18．5図　先端に壁が付く場合の配筋

3．18．3　出隅部の配筋方法

（1）補強の配筋は図面による。配筋方法は、3．18．6図による。特記にない場合は、
D13@100ダブル程度とする。

（2）出隅受け部分（図のハッチ部分）の配筋は、図面（幅はb_1／2とする）による。

（3）片持スラブの場合は、3．18．6図の定着長さS_2、S_3を、S_4と読み替える。

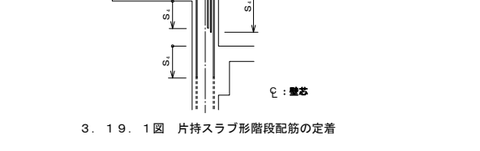


3．18．6図　片持床版出隅部の補強配筋

3．18．4　段差床版の補強

（1）同一床版に段差がある場合、3．18．7図の補強を行う。ただし、H＞150の場合は、小梁を設ける事を原則とする。

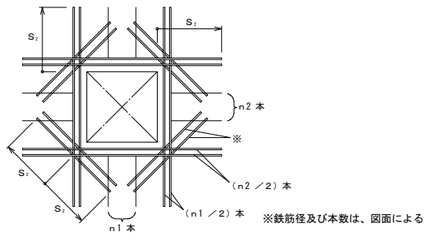
（2）段差スラブの場合は、3．18．7図の定着長さS_2、S_3を、S_4と読み替える。



3．18．7図　段差のある床版の補強配筋

3．18．5　床版及びスラブ開口部の補強

（1）開口の最大径≦700の場合は、開口によって切られる鉄筋と同量の鉄筋で周囲を補強し、隅角部には、斜め方向に主筋径以上の鉄筋2本を上下筋の内側に配筋する（3．18．8図）。
開口の最大径＞700の場合は図面による。



3．18．8図　床版及びスラブ開口部の補強配筋

（2）開口寸法が配筋間隔以下で、鉄筋を緩やかに曲げることにより、開口部を避けて配筋を出来る場合は、補強筋を省略することができる。

3．19　階段の配筋要領

（1）壁配筋は、図面による。

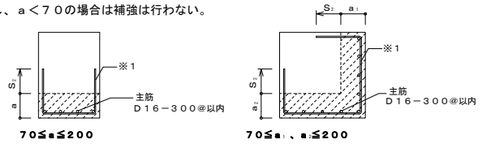
（2）階段主筋は、壁の中心線を越えてから縦に曲げ降ろす。

3．19．1図　片持スラブ形階段配筋の定着

3．20　柱及び梁の増し打ち要領

3．20．1　柱

（1）増し打ちコンクリートの補強は、3．20．1図による。
ただし、a＜70の場合は補強は行わない。



※1．帯筋と同径・同ピッチとする。

3．20．1図　柱の増し打ち補強配筋

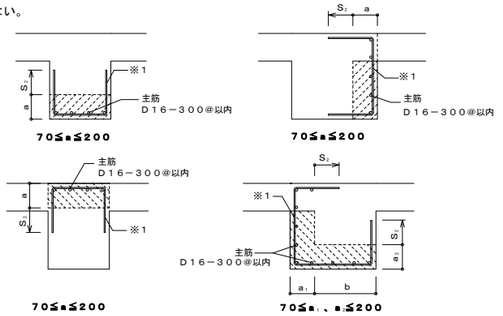
（2）増し打ち部分での鉄筋は、定着長さとして認めない。ただし、躯体と一体打ちの場合を除く。

（3）増し打ち部分の帯筋の定着長さは、S_1以上とする。

（4）増し打ち部分主筋の定着，重ね長さは、柱の主筋による。

3．20．2　梁

（1）増し打ちコンクリートの補強は、3．20．2図による。ただし、a＜70の場合、補強は行わない。



※1．あばら筋と同径・同ピッチとする。

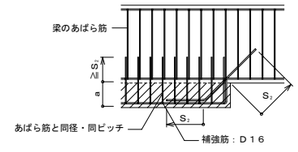
3．20．2図　梁の増し打ち補強配筋

（2）増し打ち部分での鉄筋は、定着長さとして認めない。ただし、躯体と一体打ちの場合を除く。

（3）増し打ち部分のあばら筋の定着長さは、S_2以上とする。

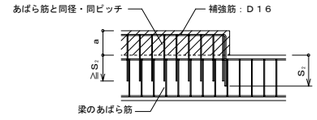
（4）増し打ち部分の主筋の定着、重ね長さは、梁の主筋による。

（5）梁の上下の増し打ちが途中で終わる場合。



3．20．3図　梁の上下の増し打ち補強配筋（途中で終わる場合）

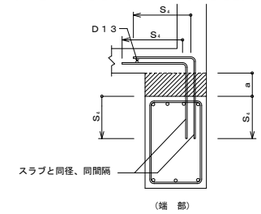
（6）梁の側面の増し打ちが途中で終わる場合。



3．20．4図　梁の側面の増し打ち補強配筋（途中で終わる場合）

3．20．3　土間スラブの打継ぎ補強

（1）基礎梁とスラブを一体打ちとしないで、打ち継ぎを設ける場合。



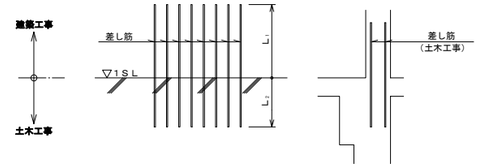
3．20．5図　土間スラブの打継ぎ補強配筋（ダブル）

3．21　土木部分と建築部分の取り合い

3．21．1　壁縦筋の取り合い

（1）差し筋の仕様は建築工事仕様とする。（径は図面による）

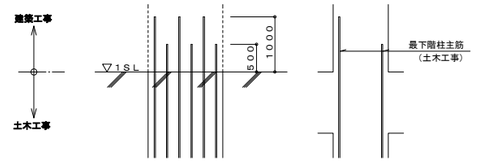
（2）L_1及びL_2は4．5．1表による。



3．21．1図　壁縦筋の取り合い差し筋

3．21．2　柱主筋の取り合い

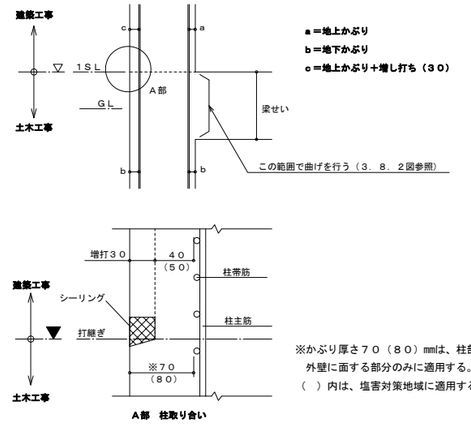
（1）最上部の柱主筋は、1階建築部分の柱断面に応じ、3．21．2図の圧接位置まで延ばすこと。



3．21．2図　柱主筋の取り合い差し筋

3．21．3　柱主筋かぶり厚の取り合い

（1）土木工事の外壁に面する柱主筋のかぶりは、3．3．1表によらず、
3．21．3図による。



※かぶり厚さ70（80）㎜は、柱部材の外壁に面する部分のみに適用する。
（ ）内は、塩害対策地域に適用する。

3．21．3図　柱主筋かぶり厚の取り合い

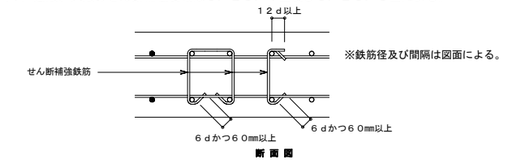
事業名	令和3年度 公共下水道事業		
工事名	波木汚水中継ポンプ場上屋建築工事		
工事場所	四日市市　波木町 地内		
名称	構造細目共通図（複合構造物）（5）		
縮尺	－	設計年月日	令和　年　月　日
工種		設計者	
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	S-05

3　土木工事

3．23　せん断補強鉄筋

3．23．1　底版、床版

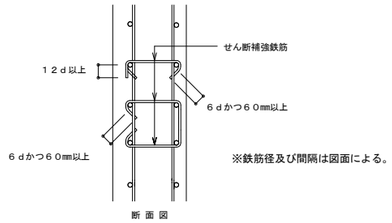
（1）底版、床版のせん断補強要領は3．23．1図及び3．23．3図による。



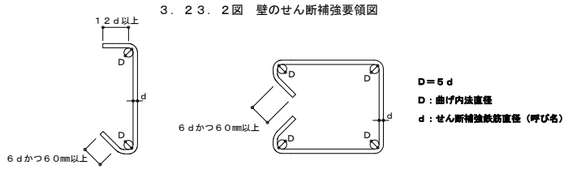
3．23．1図　底版、床版のせん断補強要領図

3．23．2　壁

（1）壁のせん断補強要領は3．23．2図及び3．23．3図による。



3．23．2図　壁のせん断補強要領図



3．23．3図　せん断補強筋加工要領図

3．24　杭基礎の補強

3．24．1　一般事項

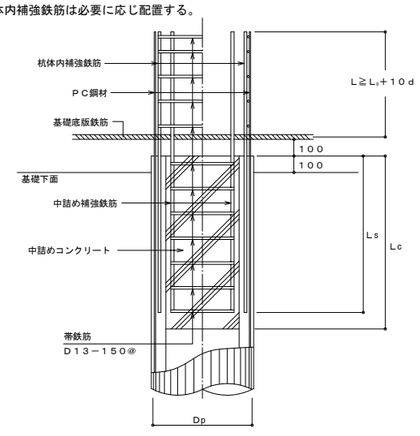
（1）補強鉄筋にSD390またはSD490を用いる場合、中詰めコンクリート及び補強鉄筋が定着する基礎底版コンクリートの設計基準強度を30N/㎟以上とする。

（2）鉄筋種別、径・本数は、図面による。

（3）杭基礎の補強鉄筋の定着長L_dは、主筋の材質がSD345およびSD390では35d以上、SD490では41d以上とする。

（4）杭頭補強鉄筋が底版厚より長くなる場合は、3．24．6図による。

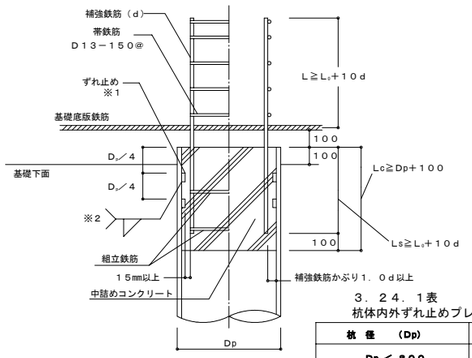
（5）杭体内補強鉄筋は必要に応じ配置する。



杭頭処理形態		Type B
カットオフする場合	鉄筋	Ls≧50φ＋Ld＋10d
	コンクリート	Lc≧2．5Dp＋100、かつ50φ＋Ld＋10d＋（かぶり100）
カットオフしない場合	鉄筋	Ls≧Ld＋10d
	コンクリート	Lc≧2．5Dp＋100、かつLd＋10d＋（かぶり100）

注1．φは、PC鋼材径とする。

3．24．1図　PHC杭の杭頭補強



※1：ずれ止めの大きさは、3．24．1表による。

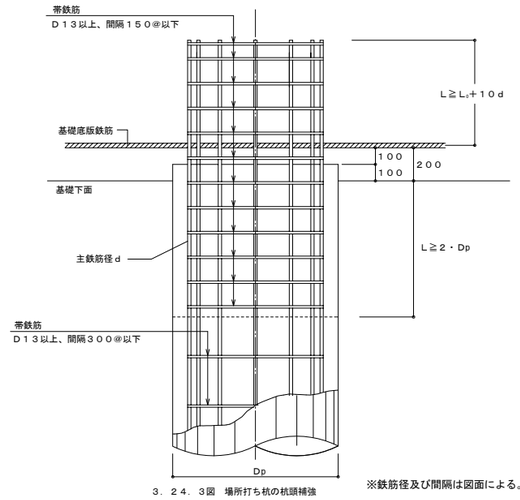
※2：全周現場すみ肉溶接

3．24．1表
杭体内外ずれ止めプレートの肉厚

杭　径　（Dp）	ずれ止め厚さ
Dp＜800	9
800≦Dp＜1200	12
1200≦Dp＜1500	16

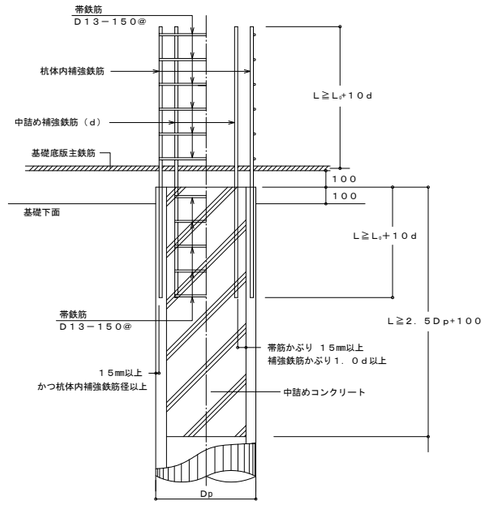
※材質はSS400

3．24．2図　鋼管杭の杭頭補強

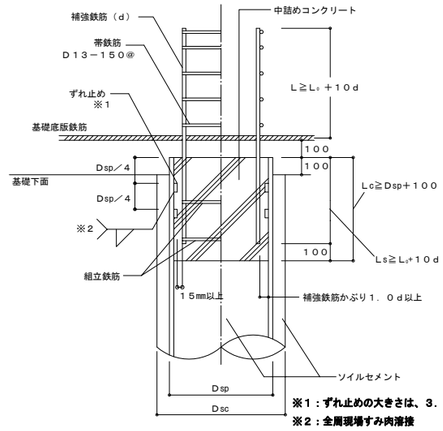


3．24．3図　場所打ち杭の杭頭補強

※鉄筋径及び間隔は図面による。



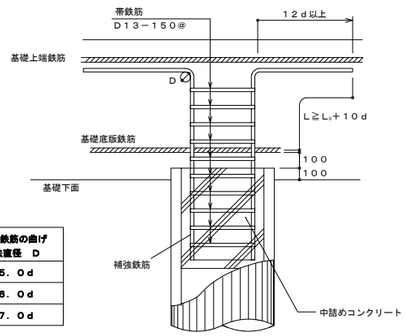
3．24．4図　SC杭の杭頭補強



※1：ずれ止めの大きさは、3．24．1表による。

※2：全周現場すみ肉溶接

3．24．5図　鋼管ソイルセメント杭の杭頭補強



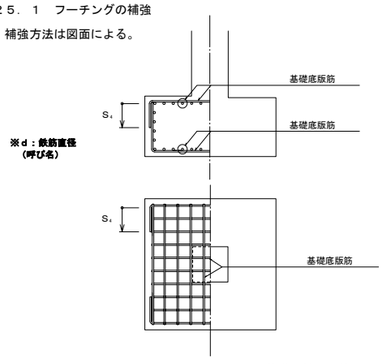
鉄筋種別	補強鉄筋の曲げ内法直径　D
SD345	5．0d
SD390	6．0d
SD490	7．0d

3．24．6図　杭頭補強筋が底版厚より長くなる場合の杭頭補強

3．25　独立基礎の補強

3．25．1　フーチングの補強

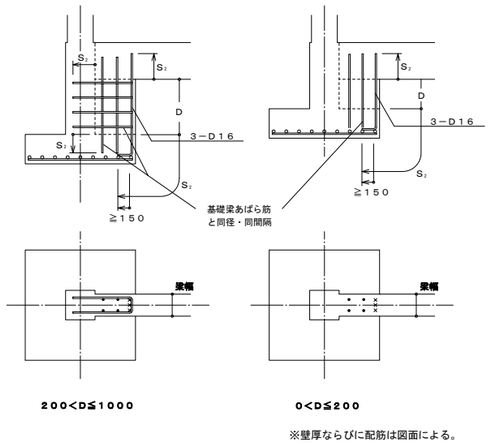
（1）補強方法は図面による。



3．25．1図　独立基礎の補強配筋

（2）基礎底版筋の配筋は、図面による。

3．25．2　基礎接合部の補強



※壁厚ならびに配筋は図面による。

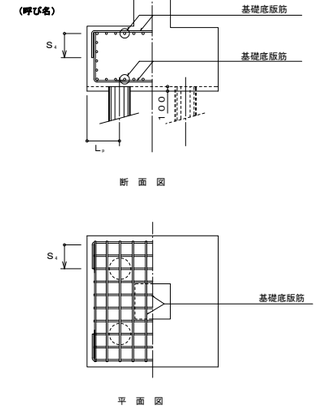
3．25．2図　基礎接合部の補強配筋

3．25．3　杭基礎の場合のフーチング配筋方法

（1）杭基礎の場合のフーチング配筋方法は、3．25．3図とする。

（2）杭頭処理の方法は、3．24項に基づくものとする。

（3）杭芯とフーチング外端面との距離（L_p）は、場所打杭、打込み杭、埋め込み杭は1．0D（Dは杭径）以上とする。



3．25．3図　杭基礎の場合のフーチング配筋方法

事業名	令和3年度 公共下水道事業		
工事名	波木汚水中継ポンプ場上屋建築工事		
工事場所	四日市市　波木町 地内		
名　称	構造細目共通図（複合構造物）（6）		
縮　尺	－	設計年月日	令和　年　月　日
工　種		設 計 者	
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	S-06

3　土木工事

3．26　耐震補強

3．26．1　　適用範囲

（1）本構造細目共通図は、下水道施設における処理場、ポンプ場の土木構造物の耐震補強に適用する。

（2）図面及び構造細目共通図に記載されていない事項は、下記に基づくものとし、これらに相違がある場合は監督職員に確認し指示を受ける。

1）土木工事特記仕様書	全国上下水道コンサルタント協会	（別紙による。）
2）土木工事共通仕様書	国土交通省＊＊地方整備局	（平成　　年版）
3）コンクリート標準示方書・施工編	土木学会	（　2012年版　）
4）コンクリート標準示方書・構造性能照査編	土木学会	（　2002年版　）
5）官庁施設の総合耐震診断・改修基準及び同解説	建築保全センター	（平成　8年版）
6）鉄筋定着・継手指針	土木学会	（　2007年版　）
7）2001年　既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震改修設計指針・同解説	日本建築防災協会	（　2001年版　）
8）あと施工アンカー連続繊維補強設計・施工指針	国土交通省	（　2008年版　）

3．26．2　鉄筋の仕様及び継手

鉄筋の種類及び継手は3．26．1表による。

3．26．1表　鉄筋の種類及び継手

	種　別	径
鉄筋の種類	※ SD 345	※ D13 以上
鉄筋の継手	重ね継手	下記以外
	※1）ガス圧接	・D19以上の柱、梁主鉄筋 ・D16以上の増設端の床・壁鉄筋
	フレアー溶接	・D13以上
	機械式継手	・図面による

※1）既存の鉄筋種別がSR235，295及びSD295Aの場合は、SD材との継手にガス圧接を使用してはならない。

3．26．3　鉄筋の継手長及び定着長

SD345以外の鉄筋との継手長・定着長については図面による。

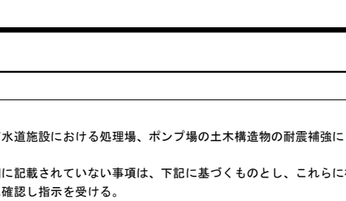
3．26．4　あと施工アンカー（接着系）

（1）アンカー径は、D13以上、D22以下とする。

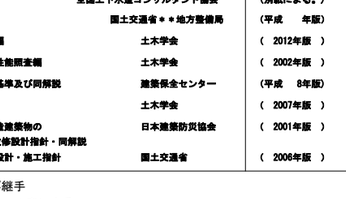
（2）アンカーの打設は、増設壁が接合する四周の柱、梁に行うことを原則とする。

（3）アンカーの埋め込み・定着長さを3．26．2表に示す。

（ナット付き）



（ナットなし）



L　：コンクリートの穿孔深さ、または接着系アンカーの埋め込み長さ

L_e：アンカ-の有効埋め込み長さ

L_d：アンカ-筋の全長

L_e：有効定着長さ

D_c：既存コンクリート躯体への穿孔径

d_a：アンカー軸部の直径、アンカー筋の呼び名

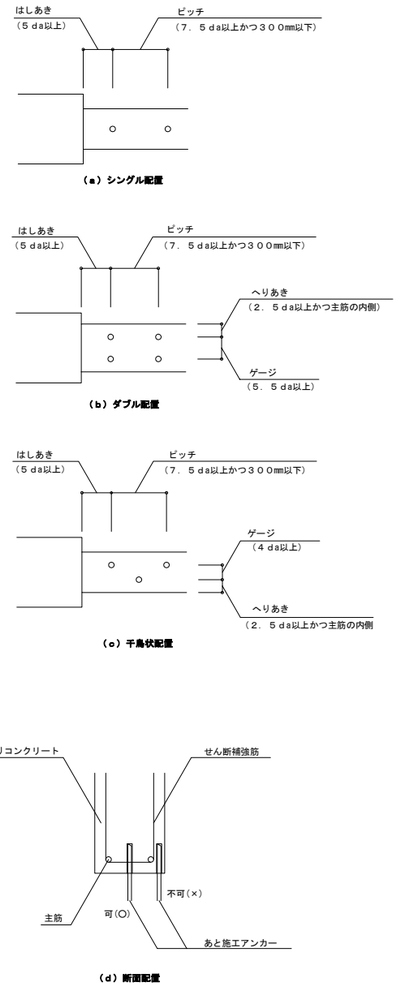
S_1：補強筋との継手長

3．26．1図　あと施工アンカー埋め込み・定着図

3．26．2表　あと施工アンカー埋め込み・定着長さ

区分	位置	用途	長さ	備考
有効埋め込み長（L_e）	一般部	曲げモーメント	12・d_a	先端形状45°カット
		せん断力	7・d_a	
	開口補強部	曲げモーメント	12・d_a	
		せん断力	10・d_a	
有効定着長（L_e）	一般部	－	20・d_a	ナットあり
	開口補強部	－	S_1＋5・d_a	ナットなし

（あと施工アンカーの位置と間隔）



3．26．2図　あと施工アンカー配置図

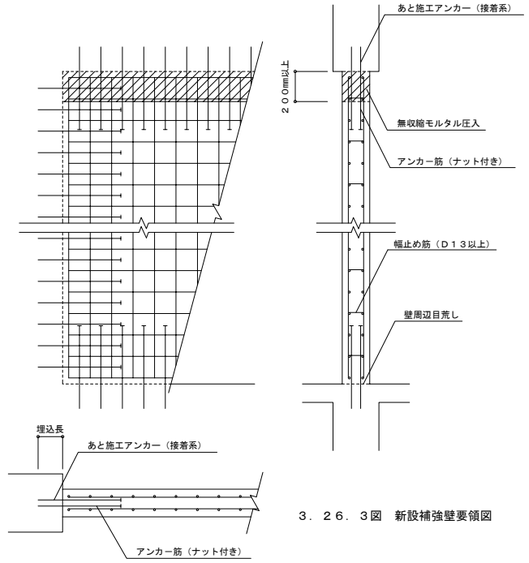
3．26．5　新設補強壁

（1）新設補強壁の配筋は3．26．3図を標準とする。

（2）新設部と接する既存の壁面には目荒しを施す。

（3）あと施工アンカーは接着系とし、開口補強部を除き、アンカー筋はナット付きとする。

（4）新設壁の頂部200㎜以上は、無収縮モルタル圧入とする。



3．26．3図　新設補強壁要領図

3．26．6　増打ち補強壁ほか

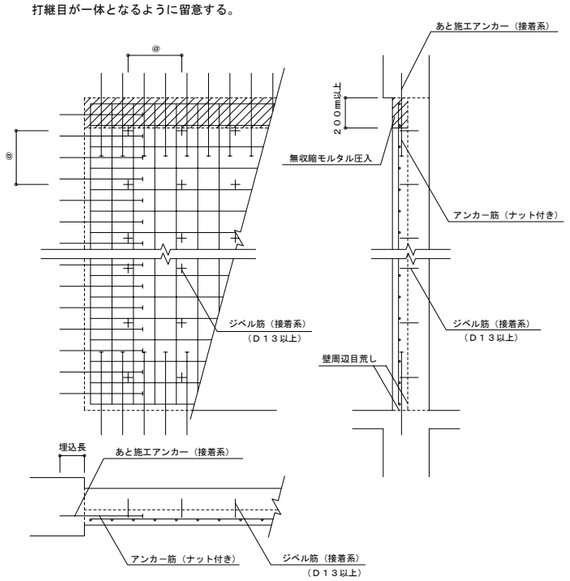
（1）増打ち補強壁の配筋は3．26．4図を標準とする。

（2）あと施工アンカーは接着系とし、開口補強部を除き、アンカー筋はナット付きとする。

（3）増打ち部と接する既存の壁面を目荒しするほか、新旧の壁面にジベル筋を設けるものとし、配置間隔は図面による。

（4）増打ち壁の頂部200㎜以上は、無収縮モルタル圧入とする。

（5）梁下端部や垂れ壁下端部の施工では、コンクリートのブリーディングや沈下を考慮して、打継目が一体となるように留意する。



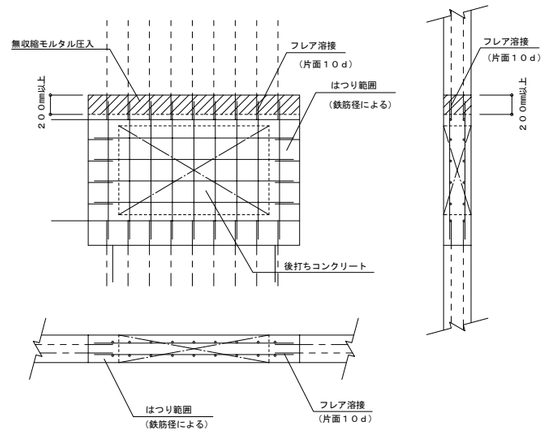
3．26．4図　増打ち補強壁要領図

3．26．7　開口閉塞

（1）既存壁と増設壁との接合は、開口周囲のコンクリートをはつり、鉄筋同士をフレア溶接で行う。

（2）閉塞部分が既存梁、柱と接する部位は全てあと施工アンカーで接合する。

（3）閉塞部分の頂部200㎜以上は、無収縮モルタル圧入とする。



はつり範囲例　㎜

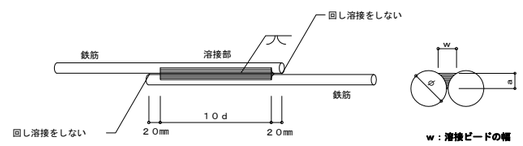
壁の鉄筋径	はつり幅
D13	200
D16	200
D19	300
D22	300
D25	300

3．26．5図　開口閉塞要領図

3．26．8　フレア溶接

（1）特記なき鉄筋のフレア溶接の継手形状を3．26．6図に示す。
（詳細は「鉄筋定着・継手指針[2007年版]」（土木学会）による。）

（2）継手長さは鉄筋径の10倍とし、回し溶接は行わない。



フレア溶接継手の形状

3．26．6図　フレア溶接継手形状

事業名	令和3年度 公共下水道事業		
工事名	波木汚水中継ポンプ場上屋建築工事		
工事場所	四日市市　波木町 地内		
名称	構造細目共通図（複合構造物）（7）		
縮尺	－	設計年月日	令和　年　月　日
工種		設計者	
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	S-07

4　建築工事

4．1　鉄筋の折曲げ加工

鉄筋の折曲げ加工は、4．1．1表及び4．1．2表を標準とする。

（1）Dは、折曲げ内法直径を示す。

（2）dは、鉄筋直径（呼び名）を示す。

4．1．1表　鉄筋の折曲げ形状及び寸法（末端部）

曲げ角度	折曲げ図	折曲げ内法直径（D） SD295A，SD345 D16以下	折曲げ内法直径（D） SD295A，SD345 D19～D38	使用箇所
180°	d D 4d以上	3d以上	4d以上	柱、梁の主筋 D16以上の鉄筋
135°	d D 6d以上	3d以上	4d以上	D13以下の鉄筋 あばら筋、帯筋、スパイラル筋
90°	d D 8d以上	3d以上	4d以上	T形及びL形の梁の あばら筋
135° 90°	d 4d以上 D d D 4d以上	3d以上	4d以上	90° 135° 幅止め筋

（注）1．片持ちスラブ先端、壁筋の自由端側の先端で90°フック又は135°フックを用いる場合には、余長は4d以上とする。

2．90°未満の折曲げの内法直径は図示による。

4．1．2表　鉄筋の折曲げ形状及び寸法（中間部）

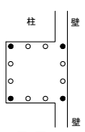
曲げ角度	折曲げ図	折曲げ内法直径（D） SD295A，SD345 D16以下	D19～D25	D29～D38	使用箇所
90°以下	d D	3d以上	4d以上	—	あばら筋、帯筋 スパイラル筋
	d D	4d以上	6d以上	8d以上	その他の鉄筋

4．2　異形鉄筋の末端部

異形鉄筋の末端部には、4．2．1表によりフックを設ける。

4．2．1表　フックを設ける位置

部位		継手方式 重ね継手	継手方式 圧接継手	備考
柱	四隅の主筋	―――	1）最上階の柱頭部	4.2.1 図の● 印 4.7.1 図参照
柱	上下階の柱断面が異なる場合	―――	1）下階の柱主筋を引き通すことができない柱頭部	4.2.1 図の● 印 4.7.2 図参照
柱	帯筋（HOOP）	1）末端部 2）継手部	1）末端部	4.8.1 図参照
梁	あばら筋（STP）	1）末端部 2）継手部	1）末端部	4.11.1
煙突の鉄筋		1）末端部 2）継手部	1）末端部	壁の一部となる場合を含む 図参照
幅止め筋		―――	―――	4.1.1 表参照



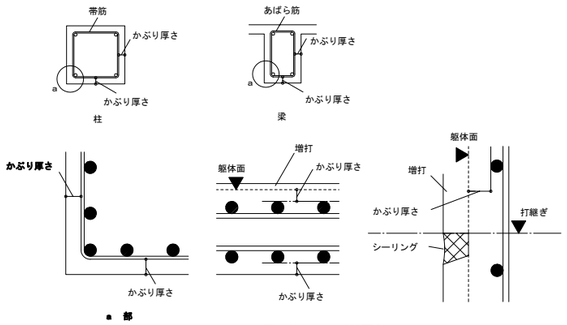
4．2．1図　異形鉄筋の末端部

4．3　鉄筋のかぶり及び間隔

4．3．1　かぶり厚さ

かぶり厚さとは、一番外側の鉄筋（幅止め筋、組立筋を除く）の外面から躯体面までの距離（4．3．1図）をいう。

鉄筋組立後のかぶり厚さは、最小かぶり厚さ以上を確保し、最小かぶり厚さに許容施工誤差10㎜を加えた厚さ以内に納めるものとする。



4．3．1図　鉄筋のかぶり厚さ

4．3．2　最小かぶり厚さ

最小かぶり厚さは、4．3．1表による。

（1）床版、梁、基礎及び擁壁で、直接土に接する部分のかぶり厚さには、捨てコンクリートの厚さを含まない。

（2）柱及び梁の主筋にD29以上を使用する場合は、主筋のかぶり厚さを径の1．5倍以上確保して最小かぶり厚さを定める。

（3）溶接金網にも適用する。

4．3．1表　鉄筋の最小かぶり厚さ(㎜)

構造部分の種別 ＼ 塩害区分		※ 通常の施工の場合	・塩害対策を必要とする場合
一般	床、耐力壁以外の壁	30	40
一般	柱、梁、耐力壁	40	50
一般	底版	40	60
土、水に接する部分	柱、梁、床、壁	40	50
土、水に接する部分	底版、基礎	60	70
煙突等高熱を受ける部分		60	70

1：打継目地部分は目地底より最小かぶり厚さを確保する。

2：仕上なしの場合を標準とする。

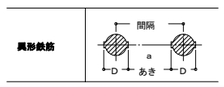
4．4　鉄筋相互のあき

鉄筋相互のあきは、下記の最大値のもの以上とする。ただし、機械式継手及び溶接継手のあきは、図面による。

（1）粗骨材の最大寸法の1．25倍

（2）最小のあき25㎜

（3）異形鉄筋の直径（呼び径）の1．5倍以上



（注）D：鉄筋の最外径　d：鉄筋直径（呼び径）

4．4．1図　鉄筋のあき

4．4．1表　鉄筋径と鉄筋間隔の関係一覧

鉄筋径（㎜） 鉄筋径 d	最外径 D	鉄筋相互のあき：a （1）粗骨材径×1．25	（2）最小あき	（3）鉄筋径×1．5	最小鉄筋芯間隔 a＋D
D10	11	31㎜ ［粗骨材最大径25㎜の場合］	25㎜	15㎜	42㎜
D13	14			20㎜	45㎜
D16	18			24㎜	49㎜
D19	21			29㎜	52㎜
D22	25			33㎜	58㎜
D25	28			38㎜	66㎜
D29	33			44㎜	77㎜

4．5　鉄筋の継手及び定着

4．5．1　鉄筋の重ね継手

（1）鉄筋の重ね継手及び定着の長さは、4．5．1表による。

（2）径が異なる鉄筋の重ね継手の長さは、細い鉄筋の径による。

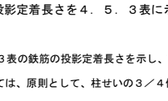
（3）主筋及び耐力壁の鉄筋の重ね継手の長さは、40dとする。ただし、SD390、SD490を使用する場合は特記による。

4．5．1表　鉄筋の重ね継手の長さ

鉄筋の種別	コンクリートの設計基準強度 Fc（N/㎟）	L_1（フックなし）	L_{1h}（フックあり）
SD295A	24　27	35d	25d
	30	35d	25d
SD345	24　27	40d	30d
	30	35d	25d

（注）1．L_1、L_{1h}：フックなし重ね継手の長さ及びフックあり重ね継手の長さ

2．フックありの場合のL_{1h}は、4．5．1図に示すようにフック部分Lを含まない。



4．5．1図

4．5．2　継手の特記事項

（1）　継手は、極力応力の小さい位置に設ける。

（2）　異種径の鉄筋をガス圧接する場合は、鉄筋径の直近の範囲内とする。

4．5．3　鉄筋の定着

（1）　鉄筋の定着の長さは、4．5．2表による。

4．5．2表　鉄筋の定着の長さ

鉄筋の種別	コンクリートの設計基準強度 Fc（N/㎟）	フックなし L_1	フックなし L_2	L_2 小梁	L_2 スラブ	フックあり L_{1h}	フックあり L_{2h}	L_{2h} 小梁	L_{2h} スラブ
SD295A	24，27	35d	30d	20d	10d かつ 150㎜ 以上	25d	20d	10d	—
	30	35d	30d			25d	20d		
SD345	24，27	40d	35d			30d	25d		
	30	35d	30d			25d	20d		

（注）1．L_1、L_{1h}：2．以外の直線定着の長さ及びフックありの長さ

2．L_2、L_{2h}：割裂破壊の恐れのない個所への直接定着の長さ及びフックありの定着の長さ

3．L_2：小梁及びスラブの下端筋の直筋の直線定着長さ（基礎耐圧スラブ及びこれを受ける小梁は除く。）

なお、片持小梁及び片持スラブの場合は20d及び10dを25d以上とする。

4．L_{2h}：小梁の下端筋のフックあり定着の長さ

5．フックありの定着の場合は、4．5．2図(イ)に示すようにフック部分bを含まない。

また中間部での折曲げは行わない。

4．5．4　定着の方法

定着の方法は4．5．2図による。

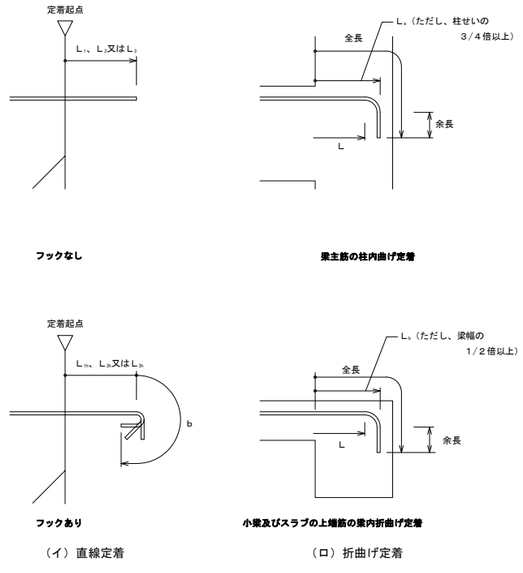
なお、（ロ）折曲げ定着の梁主筋の柱内折曲げ定着において、仕口内に縦に折曲げて定着する鉄筋の定着長さLが、4．5．2表のフックあり定着の長さを確保できない場合は、全長を4．5．2表に示すフックなし定着長さとし、かつ、余長を8d、仕口面から鉄筋外面までの投影定着長さを4．5．3表に示す長さをのみ込ませる。

（注）1、L_1、L_{1h}は、4．5．3表の鉄筋の投影定着長さを示し、下記の条件を満たすものとする。

・梁主筋の柱内定着においては、原則として、柱せいの3／4倍以上

・小梁主筋の大梁内定着においては、原則として大梁幅の1／2倍以上

・スラブの梁内定着においては、原則として梁幅の1／2倍以上



（イ）直線定着　　（ロ）折曲げ定着

4．5．2図　定着の方法

4．5．3表　鉄筋の投影定着長さ

鉄筋の種別	コンクリートの設計基準強度 Fc（N/㎟）	L_a	L_b
SD295A	24　27	15d	15d
	30	15d	15d
SD345	24　27	20d	15d
	30	15d	15d

（注）1．L_a：梁主筋の柱内折曲げ定着の投影定着長さ

（基礎梁、片持ちスラブを含む。）

2．L_b：小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の投影定着長さ

（片持ち小梁及び片持ちスラブを除く。）

事業名	令和3年度 公共下水道事業		
工事名	波木汚水中継ポンプ場上屋建築工事		
工事場所	四日市市　波木町 地内		
名称	構造細目共通図（複合構造物）（8）		
縮尺	－	設計年月日	令和　年　月　日
工種		設計者	
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	S-08

4　建築工事

4．5．5　隣り合う継手の位置及び定着

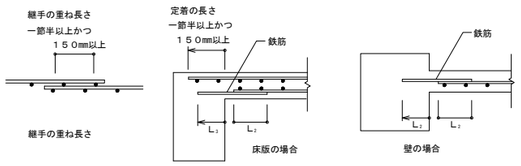
隣り合う継手の位置は、4．5．4表により、a寸法を守ること。

ただし、壁の場合及びスラブ筋でD16以下の場合を除く。

4．5．4表　隣り合う継手の位置

条　件		重ねる場合	離す場合
重ね継手	フック有りの場合	L_{1h}　L_{1h}　a　a=0．5L_{1h}	a≧0．5L_{1h}　L_{1h}　a　L_{1h}
	フックなしの場合	L_1　L_1　a　a=0．5L_1	a≧0．5L_{1h}　L_1　a　L_1
圧接継手			a≧400mm
		―	a

（1）溶接金網の継手及び定着



4．5．3図　溶接金網の継手及び定着要領

（2）スパイラル筋の継手及び定着

4．5．4図　スパイラル筋の継手及び定着要領

4．6　柱筋の継手位置

4．6．1　継手及び圧接中心位置

（1）柱の継手及び圧接中心位置は、梁上端から50cm以上、150cm以下かつ3／4h_0。（h_0は柱の内法高さ）以下とする。

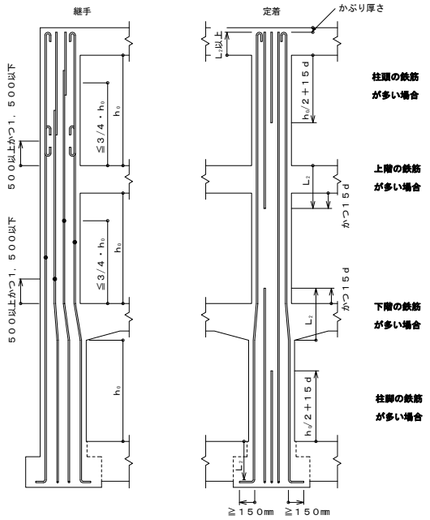
4．7　柱筋の継手及び定着

4．7．1　隣り合う継手の位置及び定着

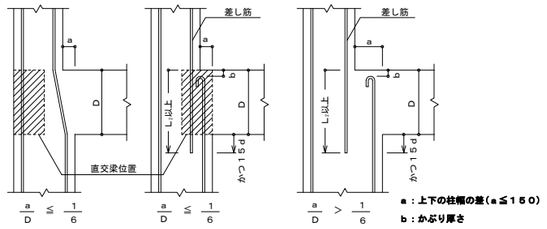
（1）継手長さはL_1とし、定着及び余長は、4．7．1図による。

（2）柱頭定着長さL_2が確保出来ない場合は、図面による。

（3）上下の柱断面が異なる場合の柱主筋の折曲げ及び定着は、4．7．2図による。



4．7．1図　柱主筋の継手、定着及び余長



4．7．2図　上下の柱断面が異なる柱主筋の折曲げ及び定着

4．8　帯筋

4．8．1　帯筋の形状

（1）帯筋の形状は、4．8．1図とし、種別は図面による。図面になければ下記による。

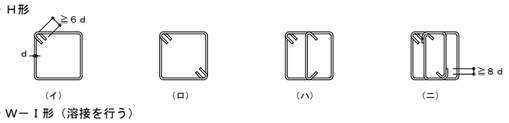
（a）H形を標準とする。

（b）H形の135°曲げのフックが困難な場合は、W－I形とする。

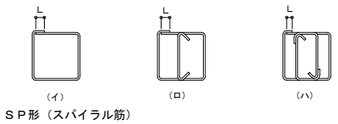
（c）溶接する場合の溶接長さLは、両面フレア溶接の場合は5d以上、片面フレア溶接の場合は10d以上とし、組立前に行う。

（d）SP形において、柱頭及び柱脚の端部は、1．5巻以上の添巻きを行う。

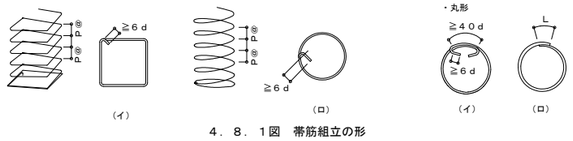
・H形



・W－I形（溶接を行う）



・SP形（スパイラル筋）



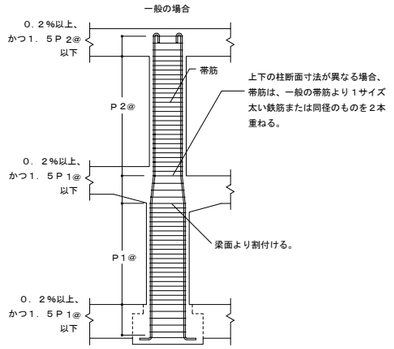
4．8．1図　帯筋組立の形

4．9　帯筋の割付け

（1）フック及び継手の位置は交互とする。

（2）帯筋の割付けは、4．9．1図による。ただし、図面にある場合は図面による。

（3）柱、梁の交差部（パネルゾーン）の帯筋のせん断補強比は、0．2%以上を確保し、補強筋間隔≦1．5Pとする。



4．9．1図　帯筋の割付け

柱、梁の交差部の配筋例（0．2%確保）

柱幅(cm)	パネルゾーン
≦500	D10 @125
≦600	D10 @100
≦700	D10 @100
≦800	D13 @150
≦900	D13 @125
≦1000	D13 @125
≦1100	D13 @100
≦1200	D13 @100

※1．5P_1、1．5P_2のピッチは150mm以下とする。

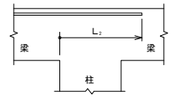
4．10　大梁筋の継手及び定着

4．10．1　大梁（基礎梁以外の大梁に限る）主筋の継手、定着及び余長

（1）大梁主筋の継手及び定着の一般事項

a．梁主筋は、原則として、柱をまたいで引き通すものとし、引き通すことが出来ない場合は、b．により柱内に定着することができる。

ただし、やむ得ず梁内に定着する場合は、4．10．1図による。



4．10．1図　梁主筋の梁内定着

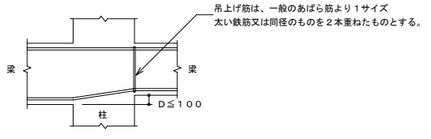
b．梁主筋を、柱内に折曲げて定着する場合は次による。

なお、定着の方法は、4．5．4による。

上端筋：曲げ下ろす。

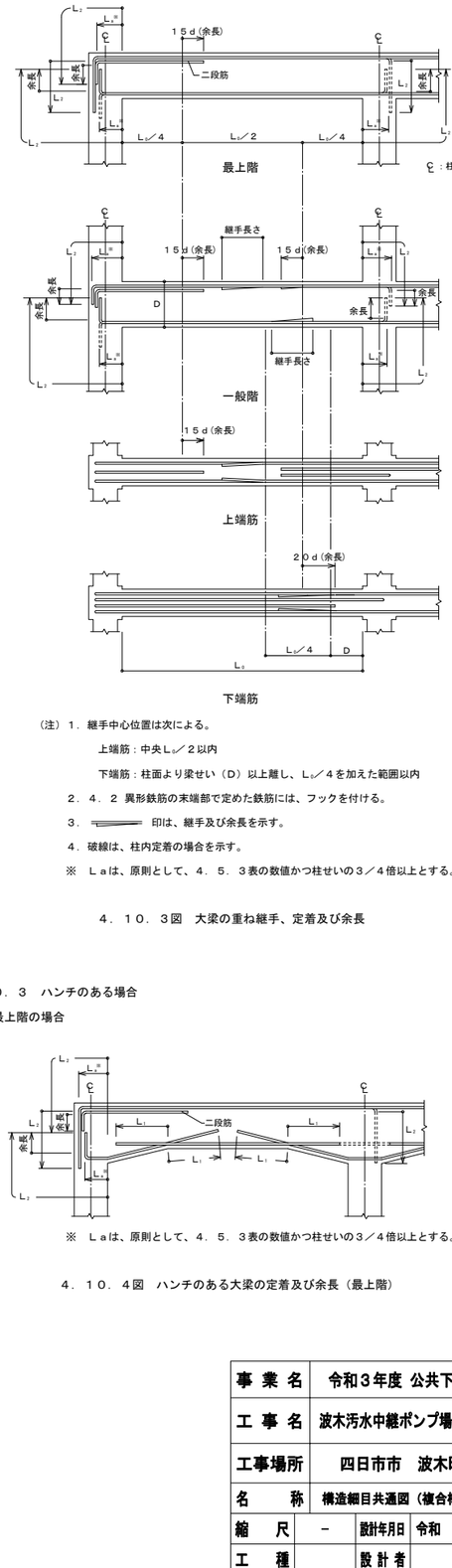
下端筋：原則として曲げ上げる。

c．段違い梁は4．10．2図による。



4．10．2図　段違い梁

4．10．2　ハンチのない場合



（注）1．継手中心位置は次による。

上端筋：中央L_2／2以内

下端筋：柱面より梁せい（D）以上離し、L_2／4を加えた範囲以内

2．4．2 異形鉄筋の末端部で定めた鉄筋には、フックを付ける。

3．＝＝＝ 印は、継手及び余長を示す。

4．破線は、柱内定着の場合を示す。

※　Laは、原則として、4．5．3表の数値かつ柱せいの3／4倍以上とする。

4．10．3図　大梁の重ね継手、定着及び余長

4．10．3　ハンチのある場合

（1）最上階の場合

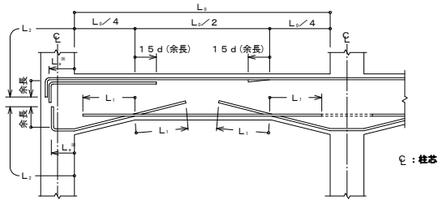
※　Laは、原則として、4．5．3表の数値かつ柱せいの3／4倍以上とする。

4．10．4図　ハンチのある大梁の定着及び余長（最上階）

事業名	令和3年度 公共下水道事業		
工事名	波木汚水中継ポンプ場上屋建築工事		
工事場所	四日市市　波木町 地内		
名　称	構造細目共通図（複合構造物）（9）		
縮　尺	－	設計年月日	令和　年　月　日
工　種		設計者	
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	S-09

4　建築工事

（2）一般階の場合



4．10．5図　ハンチのある大梁の定着及び余長（一般階）

(注) 1．4．2 異形鉄筋の末端部で定めた鉄筋には、フックを付ける。

2．═══ 印は、継手及び余長を示す。

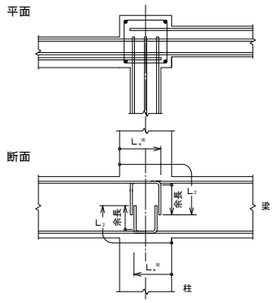
3．梁内定着の端部下端筋が接近するときは、::::::::::のように引き通すことができる。

4．破線は、梁内定着の場合を示す。

※　Laは、原則として、4．5．3表の数値かつ柱せいの3／4倍以上とする。

4．10．4　水平段差のある場合

（1）水平段差のある場合

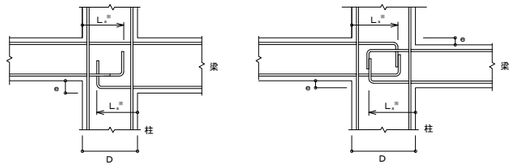


※　L₂は、原則として、4．5．3表の数値かつ柱せいの3／4倍以上とする。

4．10．6図　大梁の定着及び余長（水平段差のある場合）

4．10．5　鉛直段差（e）のある場合

（1）e／D≦1／6の場合

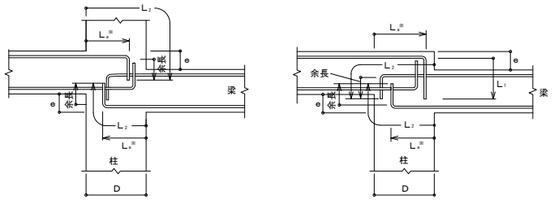


定着の長さは、4．10．2図に準ずる

※　L₂は、原則として、4．5．3表の数値かつ柱せいの3／4倍以上とする。

4．10．7図　鉛直段差梁（その1）

（2）e／D＞1／6の場合



※　L₂は、原則として、4．5．3表の数値かつ柱せいの3／4倍以上とする。

4．10．8図　鉛直段差梁（その2）

4．11　梁のあばら筋、腹筋及び幅止め筋

4．11．1　一般事項

（1）腹筋に継手を設ける場合の継手長さは、150㎜程度とする。

（2）壁梁の場合、腹筋の定着長さ及び継手長さは、L₂とする。

（3）土圧、水圧を受ける梁は、図面による。

（4）幅止め筋及び受け用幅止め筋は、D10－1000㎜ピッチ程度とする。

4．11．2　あばら筋組立の形及びフックの位置

（1）形は、4．11．1図（イ）を標準とする。

ただし、（イ）によることが出来ない場合は、下記の方法によることが出来る。

a．床版が片側に付く場合は、（ロ）又は（ハ）

b．床版が両側に付く場合は、（ロ）～（ニ）

（2）フックの位置

a．（イ）の場合は交互とする。

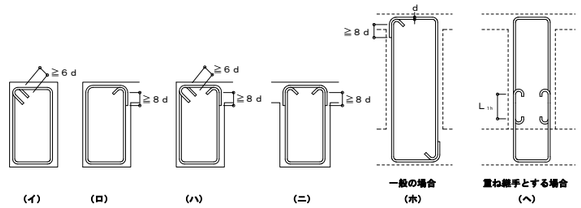
b．（ロ）の場合　床版が片側に付く場合は床版の付く側

床版が両側に付く場合は交互

c．（ハ）の場合は床版の付く側を90°折曲げ、8d確保する。

d．（ホ）（ヘ）の場合は梁の上下にスラブが付く場合でかつ、梁せいが

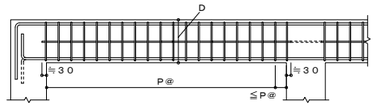
1．5m以上の場合に適用する事ができる。（基礎梁）



4．11．1図　あばら筋組立の形及びフックの位置

4．11．3　あばら筋の割付け

（1）間隔が一様でハンチのない場合

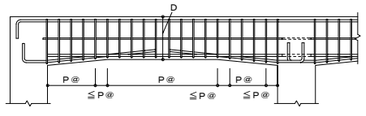


（注）1．あばら筋は、柱面の位置から割付ける。

2．図中のP@は、特記されたあばら筋の間隔を示す。

4．11．2図　あばら筋の割付け（その1）

（2）間隔が一様でハンチのある場合

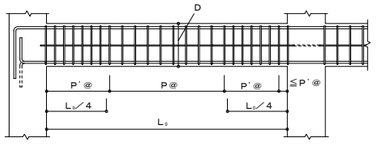


（注）1．あばら筋は、柱面の位置及びハンチに切り替わる位置から割付ける。

2．図中のP@は、特記されたあばら筋の間隔を示す。

4．11．3図　あばら筋の割付け（その2）

（3）梁の端部で間隔の異なる場合



（注）1．あばら筋は、柱面の位置から割付ける。

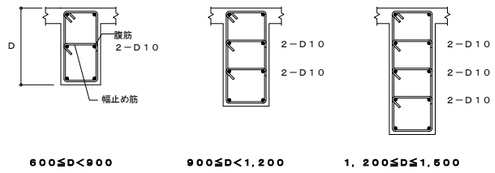
2．図中のP@、P'@は、特記されたあばら筋の間隔を示す。

4．11．4図　あばら筋の割付け（その3）

4．11．4　腹筋及び幅止め筋

（1）一般の梁

a）　腹筋及び幅止め筋



600≦D<900　　900≦D<1,200　　1，200≦D≦1,500

4．11．5図　腹筋及び幅止め筋

（2）特殊な梁

腹筋及び幅止め筋は、図面による。

4．12　小梁及び片持梁の配筋要領

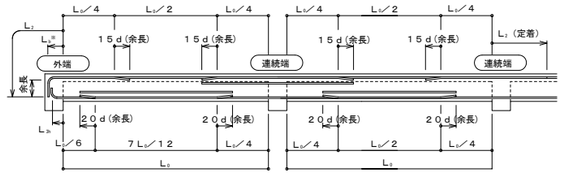
4．12．1　一般事項

（1）図面にない事項は大梁、梁のあばら筋の項に準ずる。

（2）═══ 印は、継手及び余長を示す。

4．12．2　小　梁

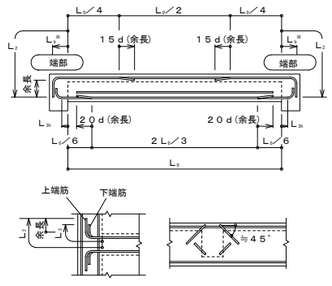
（1）連続小梁の場合



※　L₂の数値は、原則として、4．5．3表の数値かつ梁幅の1／2倍以上とする。

4．12．1図　小梁主筋の継手、定着及び余長（その1）

（2）単独小梁の場合



4．12．2図　小梁主筋の継手、定着及び余長（その2）

（注）1．═══ 印は、継手及び余長を示す。

2．梁内の定着筋において梁せいが小さく垂直で余長がとれない場合、斜めにしてもよい。

※　L₂は、原則として、4．5．3表の数値かつ梁幅の1／2倍以上とする。

4．12．3　片持梁筋の定着

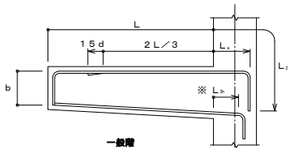
（1）先端に小梁のない場合

a．先端の折曲げの長さbは、梁せいよりかぶり厚さを除いた長さとする。

b．梁筋を引き通さない場合は、取り合い部材に定着する。ただし、柱に

取り合う場合は、全数を引き通すことができる場合でも、上端筋は、

2本以上を柱に定着する。



※ Lₐₕをフックなしで定着させる場合は25dとする。

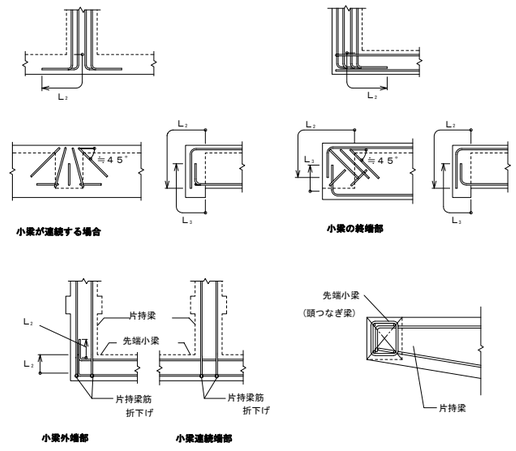
4．12．3図　片持梁主筋の定着及び余長（先端に小梁のない場合）

（2）先端に小梁がある場合

a．上端筋は、先端小梁内に斜めに定着する。

b．先端小梁終端部の主筋は、片持梁内に水平定着する。

c．先端小梁の連続端は、片持梁の先端を貫通する通し筋としてよい。



4．12．4図　片持梁主筋の定着

事業名	令和3年度 公共下水道事業		
工事名	波木汚水中継ポンプ場上屋建築工事		
工事場所	四日市市　波木町 地内		
名称	構造細目共通図（複合構造物）（10）		
縮尺	－	設計年月日	令和　年　月　日
工種		設計者	
事業主体	四日市市上下水道局	図面番号	S-10

4　建築工事

4．13　壁の配筋要領

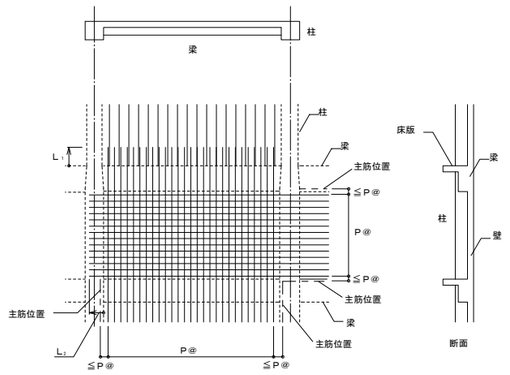
4．13．1　一般事項

（1）壁配筋の継手の長さはL_1、及び定着の長さは、L_2とする。

（2）土圧及び水圧などを受ける壁及び耐震壁として、図面に示されたものは、継手長さをL_1、定着長さをL_2とする。ただし、耐力壁の重ね継手の長さは４０ｄとし、ＳＤ３９０、ＳＤ４９０を使用する場合は特記による。

（3）幅止め筋は、縦、横ともＤ１０－@１０００を標準とする。

（4）一般部壁筋は、4．13．1図による。



4．13．1図　壁の配筋

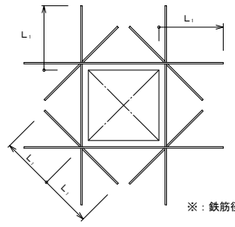
4．13．2　耐震壁の開口

（1）耐震壁等の開口は、図面以外は設けてはならない。

（2）やむを得ず開口をあける場合は、Ｈ１９国土交通省告示５９３号の規定を満足することを構造計算によって確認すること。

4．13．3　壁開口部の補強

（1）壁開口部の補強は、図面による。補強筋の長さ及び位置は、4．13．3図を標準とする。



4．13．3図　壁開口部の補強の定着長さ

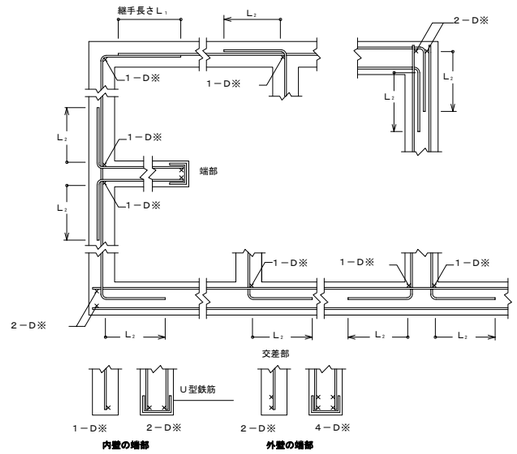
（2）開口部は柱及び梁に接する部分又は鉄筋を緩やかに曲げることにより開口部を避けて配筋出来る場合は、補強筋を省略することができる。

4．13．4　壁の交差部及び端部

壁と壁の交差部は、4．13．4図による。

a．交差部補強筋Ｄ※はＤ１３以上、かつ壁主筋と同径とする。

b．壁の端部にＵ型鉄筋を使用する場合の径及び間隔は、壁筋と同径及び同間隔とする。



4．13．4図　壁の交差部及び端部の配筋

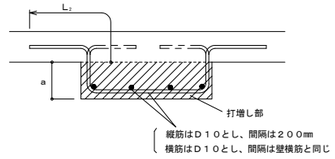
※壁構造の場合は、「壁構造配筋指針・同解説」（建築学会）に基づき図面による。

4．14　壁の打増し要領

コンセントボックス等を壁に埋め込む場合の補強は、特記によるほか、配管等での壁の打増し補強筋は、4．14．1図による。

打増し厚さのａが５０㎜以上、２００㎜以下に適用する。

２００㎜を越える場合は、特記による。



4．14．1図　壁の打増し補強配筋

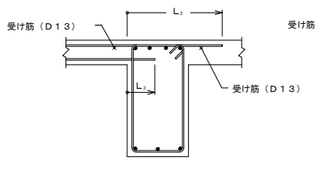
4．15　床の配筋要領

4．15．1　一般事項

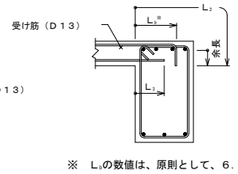
（1）鉄筋の継手長さは、L_1とする。

（2）定着長さ及び受け筋は、4．15．1図による。ただし、引き通すことができない場合は、4．15．2図、4．15．3図により梁内に定着する。

（3）基礎梁と床版を一体打ちとしないで、打ち継ぎを設ける場合の補強は図面による。

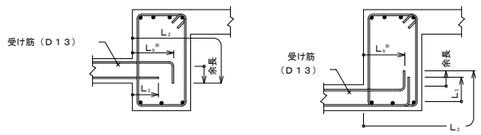


4．15．1図　スラブ筋の定着長さ及び受け筋（その１）



※　L_1の数値は、原則として、６．３表の数値かつ梁幅の１／２倍以上とする。

4．15．2図　スラブ筋の定着長さ及び受け筋（その２）

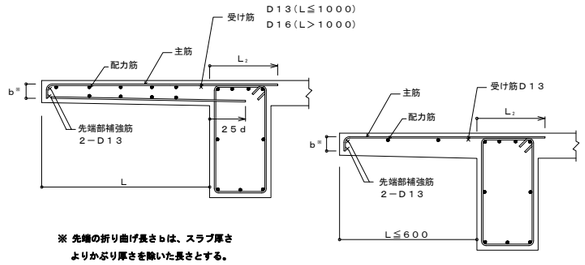


※　原則としてL_1は、４．５．３表の数値かつ梁幅の１／２倍以上とする。

4．15．3図　スラブ筋の定着長さ及び受け筋（その３）

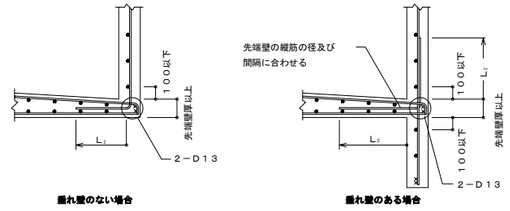
4．15．2　片持スラブ

（1）片持スラブの配筋



4．15．4図　片持スラブの配筋

（2）先端に小梁がなく壁が取り付く場合



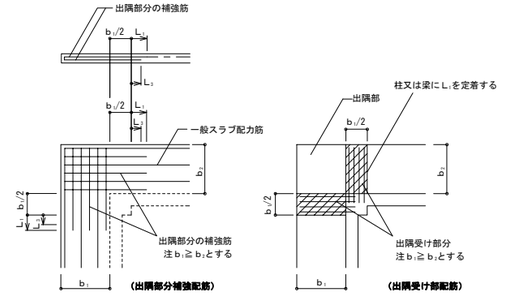
4．15．5図　先端に壁が付く場合の配筋

4．15．3　出隅部の配筋方法

（1）補強の配筋は図面による。配筋方法は、4．15．6図による。

特記にない場合は、Ｄ１０@１００ダブルとする。

（2）出隅受け部分（図のハッチ部分）の配筋は、図面（幅はb_1/2とする）による。

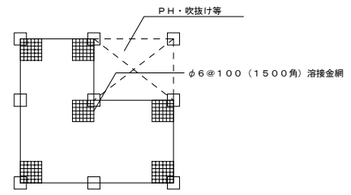


4．15．6図　片持スラブ出隅部の補強配筋

4．15．4　地上部最上階の屋根床版

（1）出隅及び入隅部分には、4．15．7図により、補強筋（溶接金網）を上端筋の下側に配筋する。

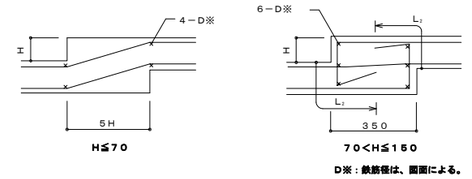
（2）陸屋根、勾配屋根共通とする。



4．15．7図　出隅及び入隅部分の補強配筋

4．15．5　段差床版の補強

（1）同一床版に段差がある場合、4．15．8図の補強を行う。ただし、Ｈ＞１５０の場合は、小梁を設ける事を原則とする。

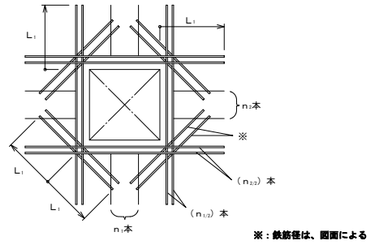


4．15．8図　段差のある床版の補強配筋

4．15．6　床版開口部の補強

（1）開口の最大径≦７００の場合は、開口によって切られる鉄筋と同量の鉄筋で周囲を補強し、隅角部には、斜め方向に主筋径以上の鉄筋２本を上下筋の内側に配筋する。（4．15．9図）

開口の最大径＞７００の場合は図面による。



4．15．9図　床版開口部の補強配筋

（2）床版開口の最大径が両方向の配筋間隔以下で、鉄筋を緩やかに曲げることにより開口部を避けて配筋できる場合は、補強筋を省略することができる。

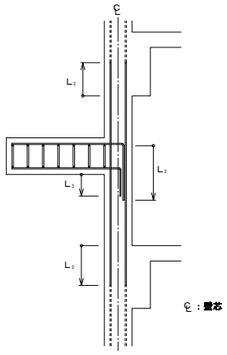
事業名	令和3年度 公共下水道事業		
工事名	波木汚水中継ポンプ場上屋建築工事		
工事場所	四日市市　波木町 地内		
名称	構造細目共通図（複合構造物）（11）		
縮尺	－	設計年月日	令和　年　月　日
工種		設計者	
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	S-11

4　建築工事

4．17　階段の配筋要領

（1）壁配筋は、図面による。

（2）階段主筋は、壁の中心線を越えてから縦に曲げ下ろす。

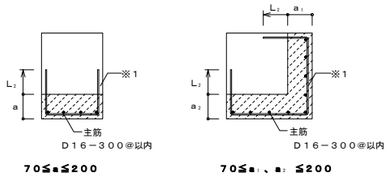


4．17．1図　片持スラブ形階段配筋の定着

4．18　柱及び梁の増し打ち要領

4．18．1　柱

（1）増し打ちコンクリートの補強は、4．18．1図による。
ただし、a＜70㎜の場合、補強は行わない。



※1．帯筋と同径・同材質・同ピッチとする。

4．18．1図　柱の増し打ち補強配筋

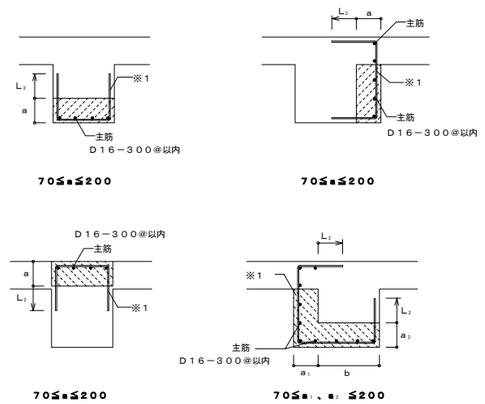
（2）増し打ち部分での鉄筋は、定着長さとして認めない。ただし、躯体と一体打ちの場合を除く。

（3）増し打ち部分の帯筋の定着長さは、L_2以上とする。

（4）増し打ち部分主筋の定着，重ね長さは、柱の主筋による。

4．18．2　梁

（1）増し打ちコンクリートの補強は、4．18．2図による。ただし、
a＜70㎜の場合、補強は行わない。



※1．あばら筋と同径・同材質・同ピッチとする。

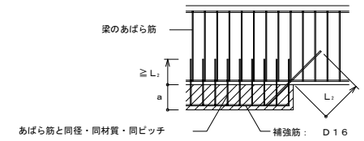
4．18．2図　梁の増し打ち補強配筋

（2）増し打ち部分での鉄筋は、定着長さとして認めない。ただし、躯体と一体打ちの場合を除く。

（3）増し打ち部分のあばら筋の定着長さは、L_2以上とする。

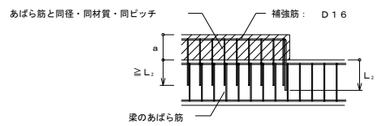
（4）増し打ち部分の主筋の定着、重ね長さは、梁の主筋による。

（5）梁の上下の増し打ちが途中で終わる場合



4．18．3図　梁の上下の増し打ち補強配筋（途中で終わる場合）

（6）梁の側面の増し打ちが途中で終わる場合



4．18．4図　梁の側面の増し打ち補強配筋（途中で終わる場合）

4．19　勾配屋根の取り合い

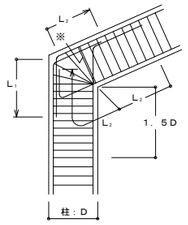
4．19．1　斜め柱・斜め梁の取り合い

（1）※印の鉄筋は、同径以上とし、かつダブル巻きとする。

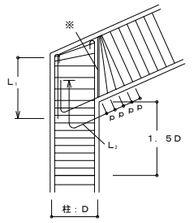
（2）1．5Dの範囲の柱の帯筋は一段太いものか、またはダブル巻きとし@100以下とする。

（3）柱の取合い部における斜め梁のせん断補強筋中心間隔は、当該梁部材のせん断補強筋中心間隔ｐ以下とする。

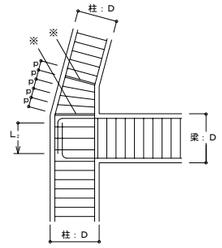
a）柱幅と斜材（柱又は梁）幅が同一



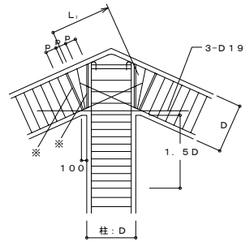
b）柱幅と斜材幅が異なる



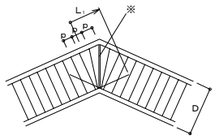
c）柱脚で斜材となる



d）柱頭で斜材となる上端筋は、連続筋とする。

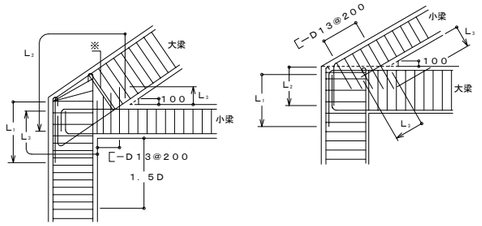


e）梁が斜材となる上端筋は、連続筋とする。



f）斜め大梁に小梁が接する場合
柱筋はa），b）に倣う。

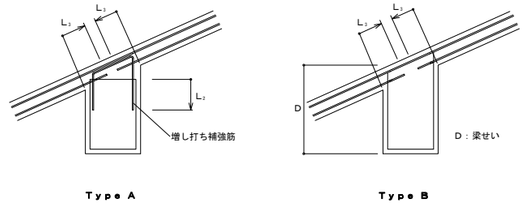
g）大梁に斜め小梁が接する場合



4．19．1図　斜め柱・斜め梁の取り合い配筋

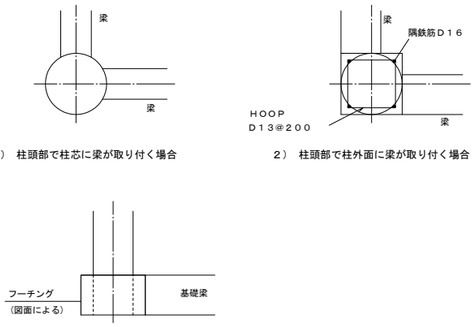
4．19．2　梁と床版の取り合い

増し打ち補強要領は、4．19．2図による。



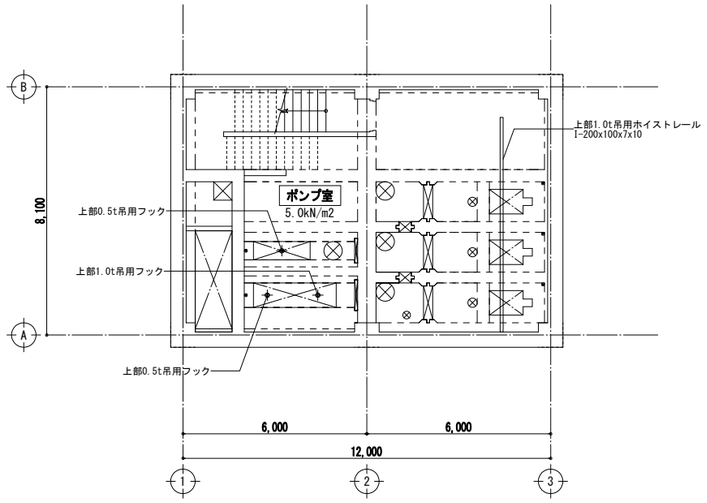
4．19．2図　梁と床版の取り合い配筋

4．19．3　円柱の取り合い

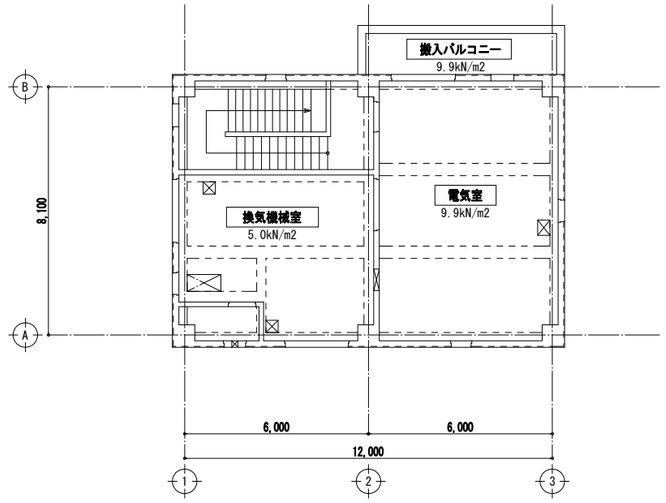


4．19．3図　円柱の取り合い配筋

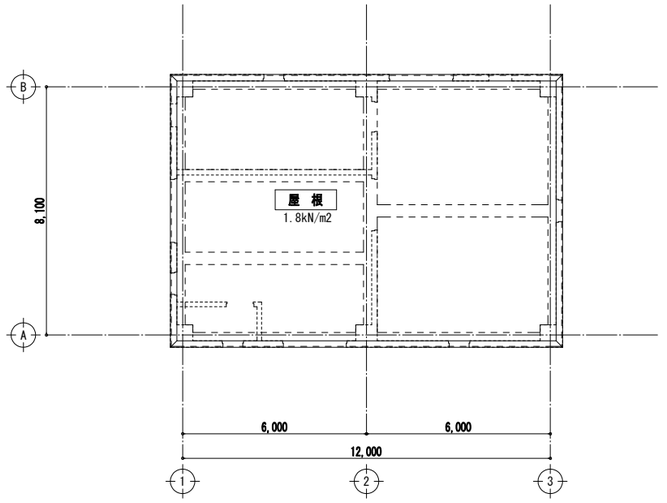
事業名	令和3年度 公共下水道事業		
工事名	波木汚水中継ポンプ場上屋建築工事		
工事場所	四日市市　波木町 地内		
名称	構造細目共通図（複合構造物）（12）		
縮尺	－	設計年月日	令和　年　月　日
工種		設計者	
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	S-12



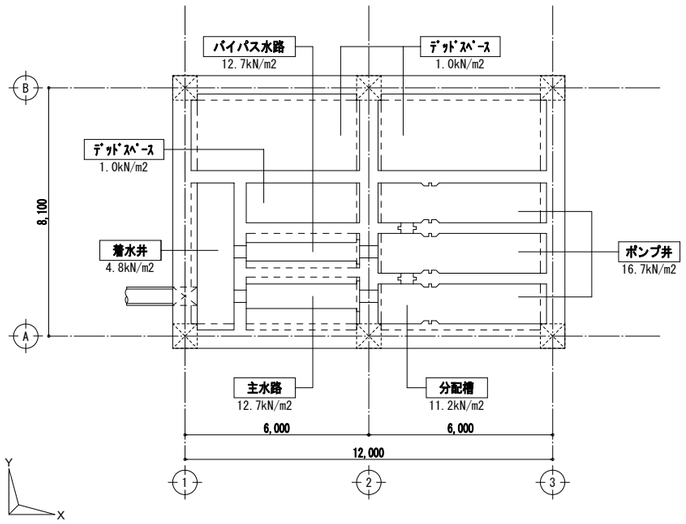
地下1階床荷重図　S=1/200



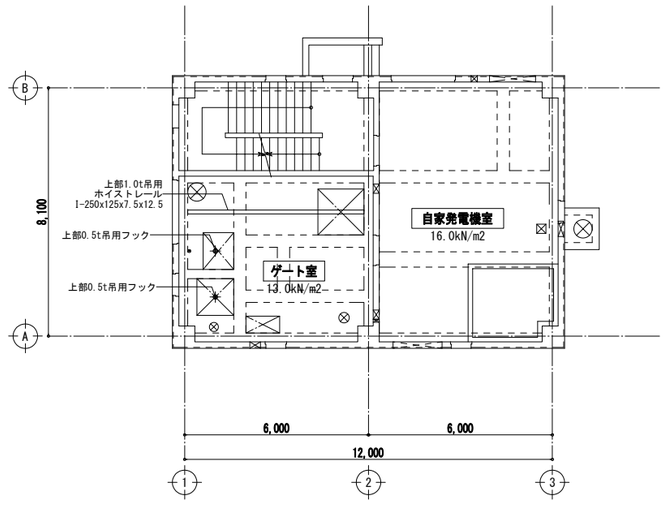
2階床荷重図　S=1/200



R階床荷重図　S=1/200



水路階床荷重図　S=1/200



1階床荷重図　S=1/200

床積載荷重（床版用）
特記外：　2.9kN/m2

事業名	令和３年度 公共下水道事業		
工事名	波木汚水中継ポンプ場上屋建築工事		
工事場所	四日市市　波木町 地内		
名称	床荷重図		
縮尺	1/200	設計年日	令和　年　月　日
工種		設計者	
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	S-13

土質柱状図

Bor.R1-No.1

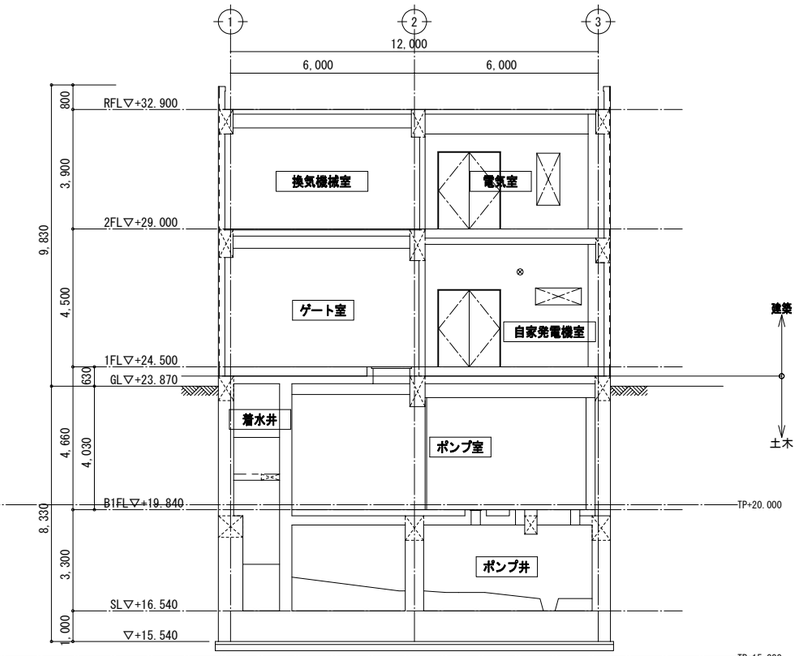
孔口標高 ▽+22.260

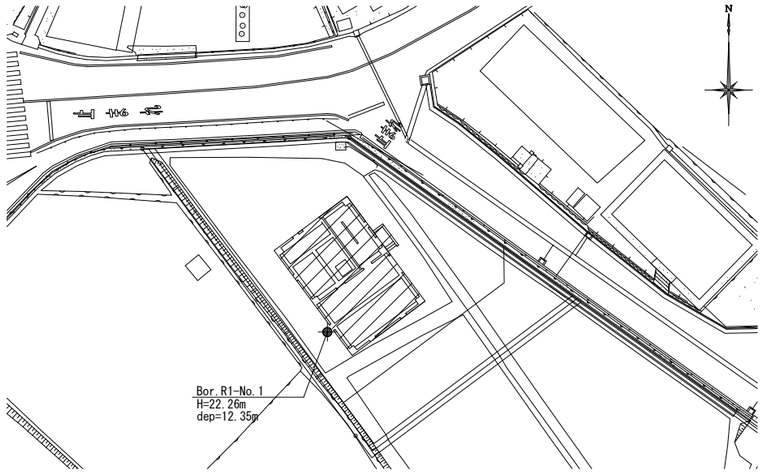
ML▽+21.440

土質名	記事	N値	
表土・シルト質砂	農耕土で締まりが悪く、含水は中位である 不均質で砂質シルト状の所がある	4/30	
シルト質細中砂	シルトの混入が不均質で部分的に砂質シルト状である。腐植物(有機物)を混入する。 含水は上部が低位で 下部が中位～高位である	2/34	
シルト混り砂	土質は不均質で、部分的にシルト分を多く混入し、含水は高位である。シルト(褐灰色)の薄層を所々に挟む。砂は細砂～粗砂が不均質に分布する。	10/30	
シルト質細中砂	土質が不均質で、シルト分の多い所と少ない所があり、砂分も細砂分を多く混入する所がある。 腐植物(有機物)が点在する含水は高位で、特に4.00m付近は極高位である	1/31	
シルト混り砂 礫	礫はφ20mm程度以下の亜円～亜角礫を確認する マトリックスは粗中砂が主体、含水は高位である	11/30	
		50/24	
固結シルト	固結化しており、10～20cm程度の柱状コアで採取する。腐植物(有機物)が点在する 含水は低位である	50/15	
		50/14	
シルト質細砂	比較的均質で、全体的にシルト分を多く混入する。含水は中位である	50/20	
砂 礫	礫はφ20mm程度以下の亜角礫を確認する PT(10)は礫分を多く混入し、PT(11)(12)は礫分が少ない。マトリックスは細砂～中砂が主体である。含水は高位である 本層の水頭はGL-0.58m(H=21.68m)である	50/12	
		50/21	
		50/20	

▼+17.210
▼+16.460

TP+20.000
TP+15.000
TP+10.000
TP+5.000

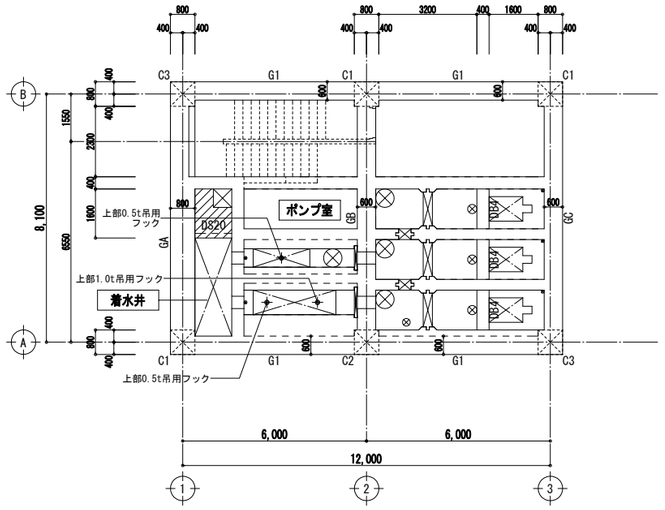




調査位置図

印令回工事施設を示す

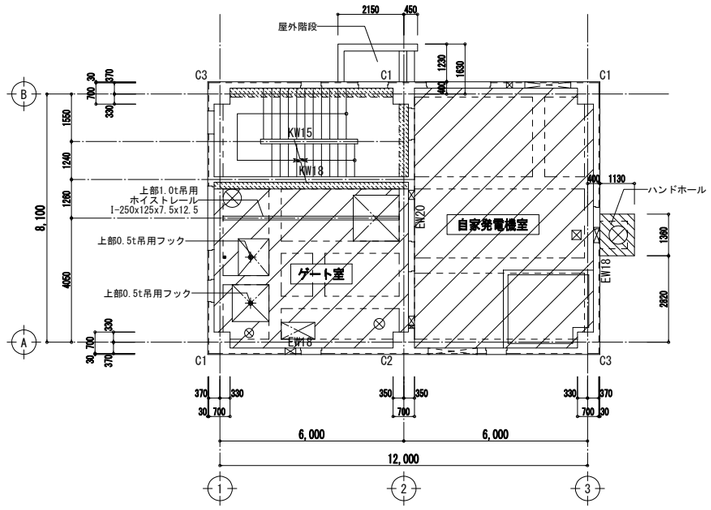
事業名	令和３年度 公共下水道事業		
工事名	波木汚水中継ポンプ場上屋建築工事		
工事場所	四日市市 波木町 地内		
名称	土質柱状図		
縮尺	1/200	設計年月日	令和 年 月 日
工種		設計者	
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	S-14



地下１階伏図　S=1/200

（見上げ図）

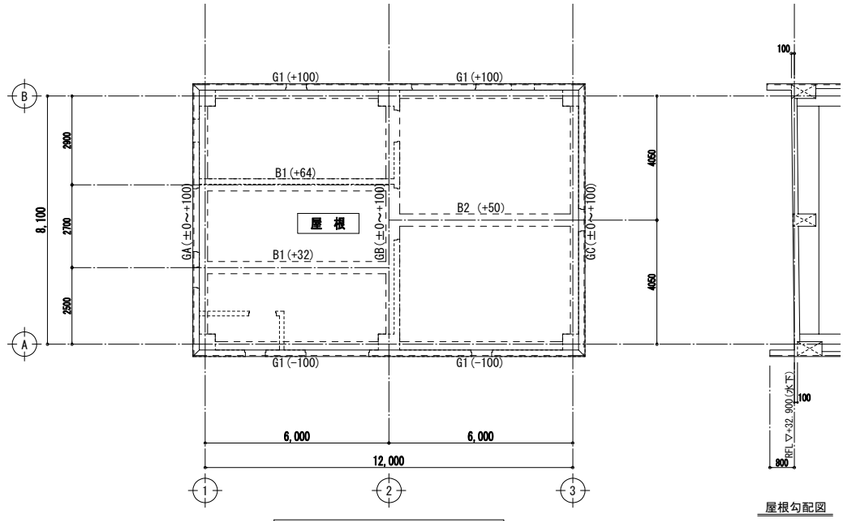
特記なき限り下記による。
基準レベル　B1FL（▽+19,840）
梁上端レベル　-200（▽+19,640）
スラブ上端レベル　-200（▽+19,640）
（上端無筋コンクリートt=200）
印 ｽﾗﾌﾞ上端レベル　+1160
床　DS30
壁符号は水路躯体伏図（見下げ図）を参照する。



１階伏図　S=1/200

（見下げ図）

特記なき限り下記による。
基準レベル　1FL（▽+24,500）
梁上端レベル　-300（▽+24,200）
スラブ上端レベル　-30（▽+24,470）
印 ｽﾗﾌﾞ上端レベル　-300
（上端無筋コンクリートt=300）
印 ｽﾗﾌﾞ上端レベル　+170～+200
印 梁上端増打ちを示す。
壁　W18
梁符号・床符号は1階伏図（見上げ図）を参照する。

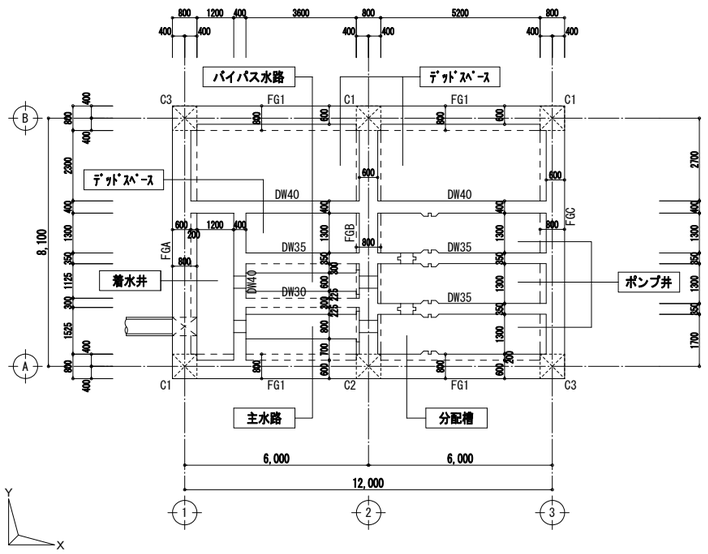


屋根勾配図

R階伏図　S=1/200

（見下げ図）

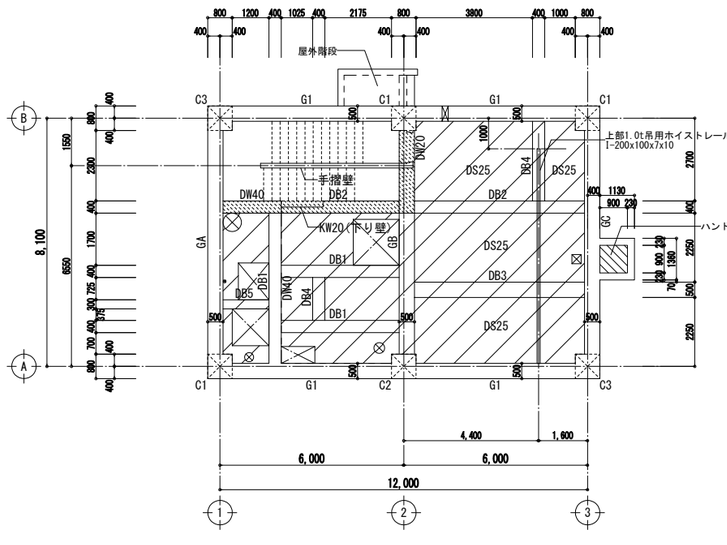
特記なき限り下記による。
基準レベル　RFL（▽+32,900）（水下）
梁上端レベル　特記による
スラブ上端レベル　屋根勾配図参照
（ ）内は基準レベルからの寸法を示す。
床　S18



水路階伏図　S=1/200

（見下げ図）

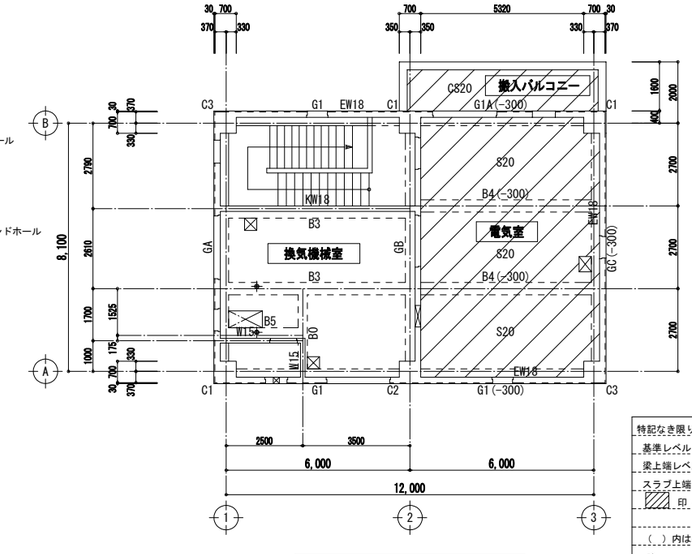
特記なき限り下記による。
基準レベル　SL（▽+16,540）
梁上端レベル　±0（▽+16,540）
スラブ上端レベル　±0（▽+16,540）
壁　DW60
床　FS100



１階伏図　S=1/200

（見上げ図）

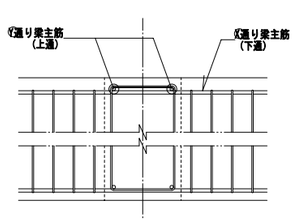
特記なき限り下記による。
基準レベル　1FL（▽+24,500）
梁上端レベル　-300（▽+24,200）
スラブ上端レベル　-30（▽+24,470）
印 ｽﾗﾌﾞ上端レベル　-300
（上端無筋コンクリートt=300）
印 ｽﾗﾌﾞ上端レベル　-1380
印 梁上端増打ちを示す。
壁　DW50
床　DS20



２階伏図　S=1/200

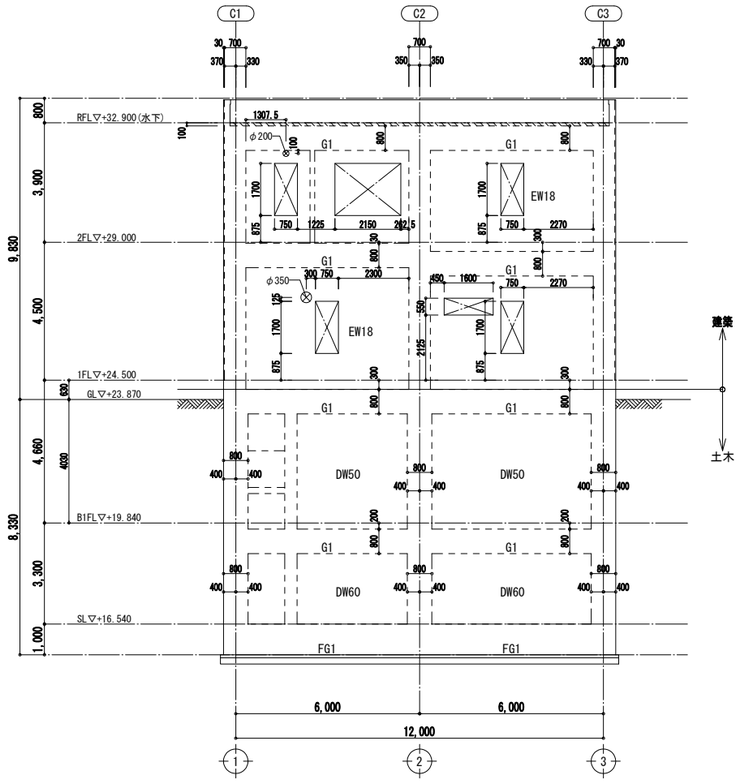
（見下げ図）

特記なき限り下記による。
基準レベル　2FL（▽+29,000）
梁上端レベル　-30（▽+28,970）
スラブ上端レベル　-30（▽+28,970）
印 ｽﾗﾌﾞ上端レベル　-300
（上端無筋コンクリートt=300）
（ ）内は基準レベルからの寸法を示す。
壁　W18
床　S18

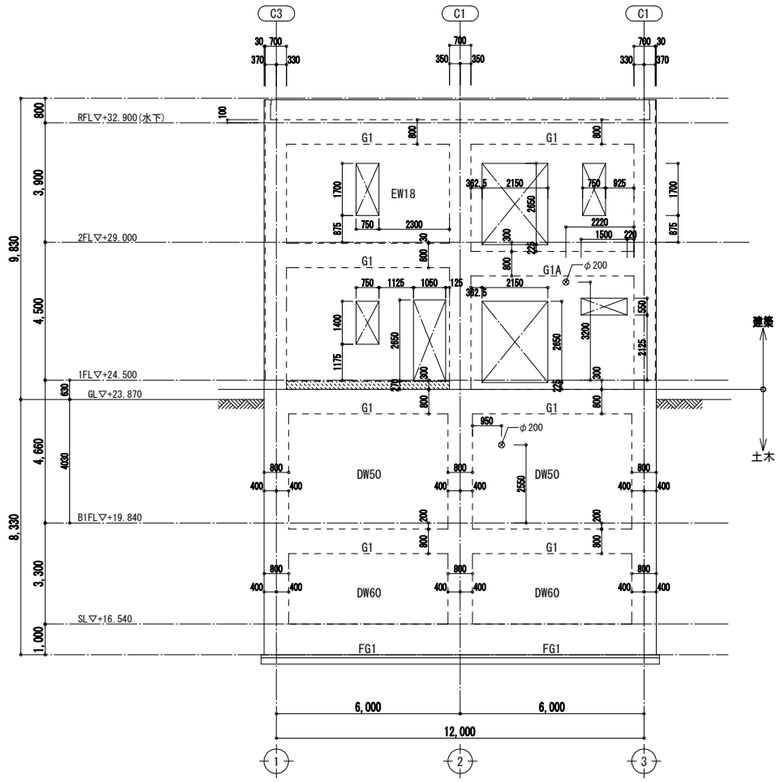


鉄筋通し要領図　S＝ －

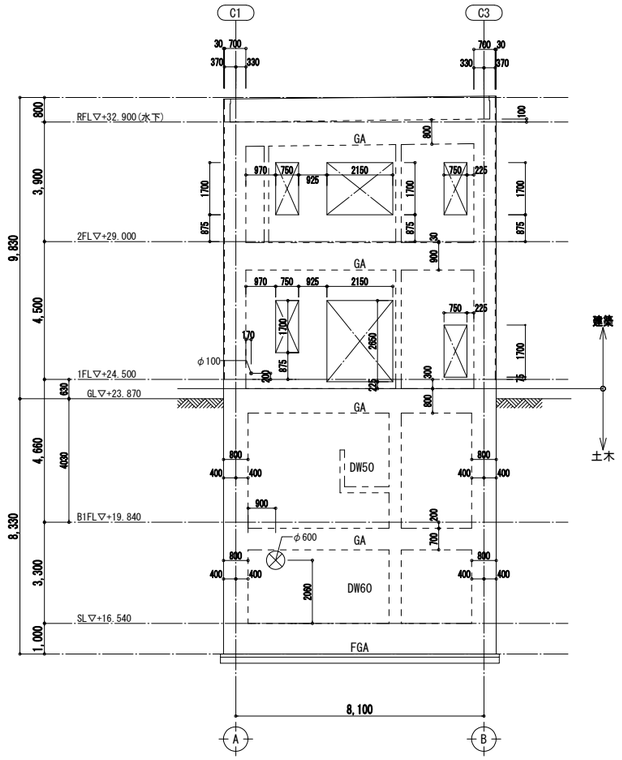
事業名	令和３年度 公共下水道事業		
工事名	波木汚水中継ポンプ場上屋建築工事		
工事場所	四日市市　波木町 地内		
名称	伏図		
縮尺	1/200	設計年月日	令和　年　月　日
工種		設計者	
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	S-15



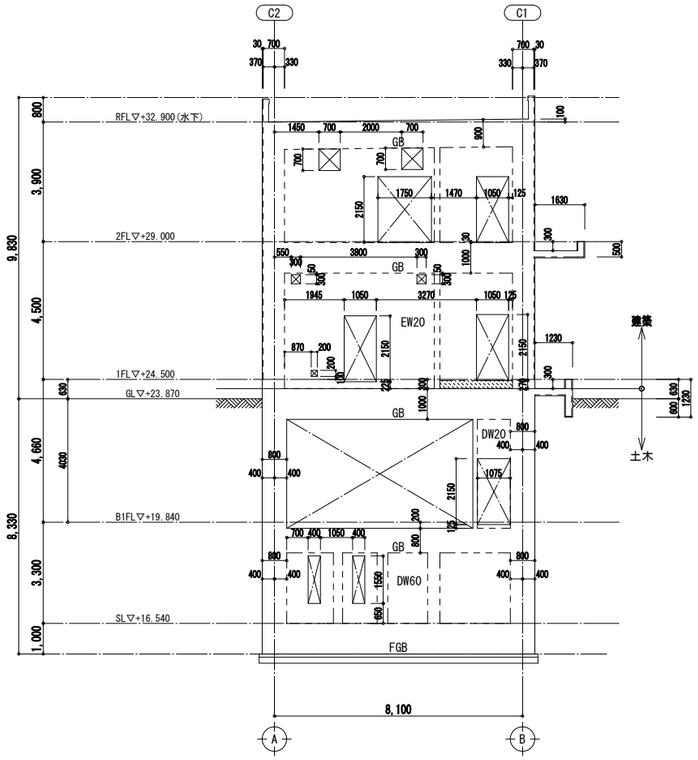
A通り軸組図 S=1/200



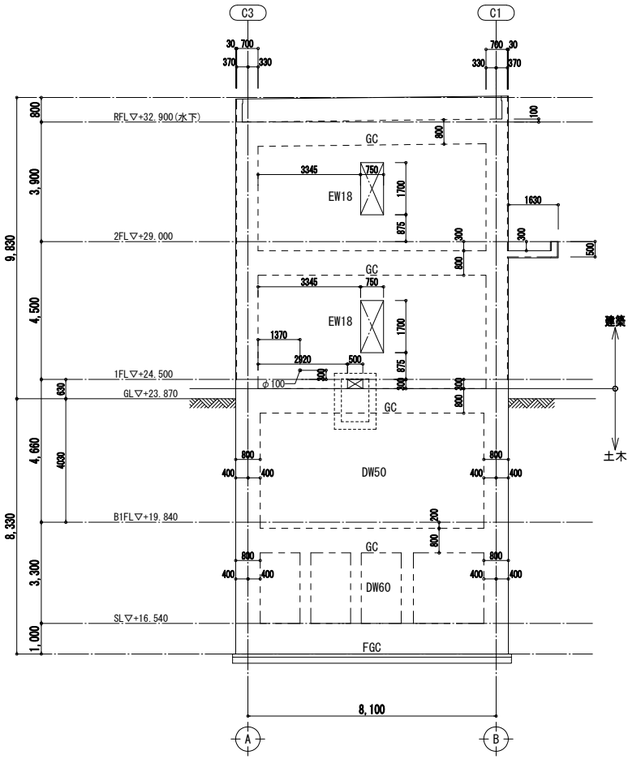
B通り軸組図 S=1/200



1通り軸組図 S=1/200



2通り軸組図 S=1/200



3通り軸組図 S=1/200

共通事項

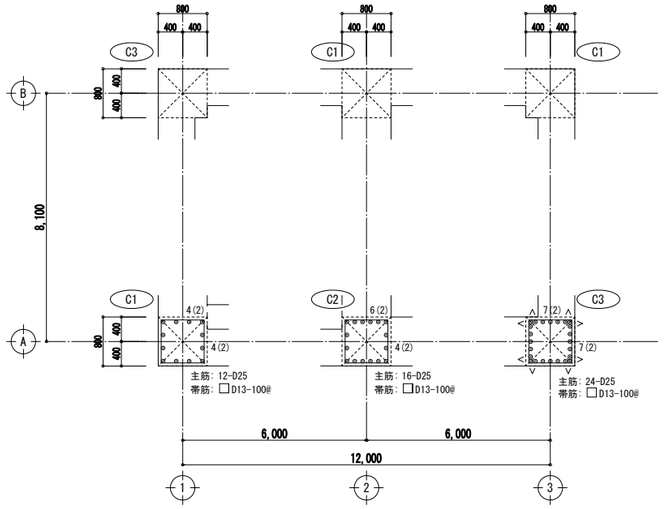
特記なき限り下記による。

壁：W18

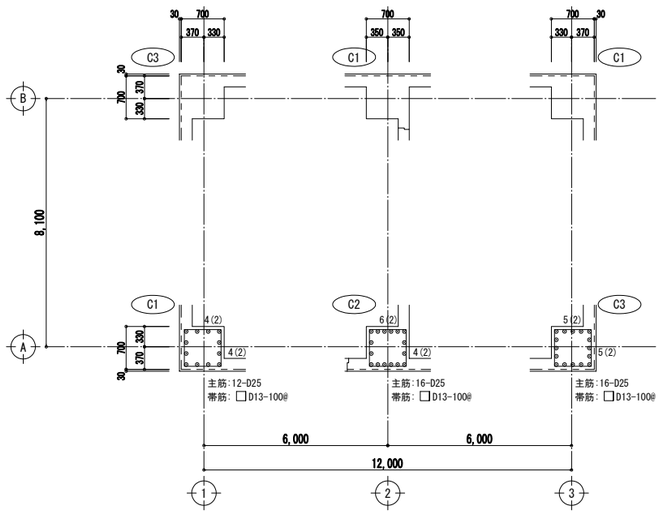
Cn 印は柱符号を示す。

印 梁上端増打ちを示す。

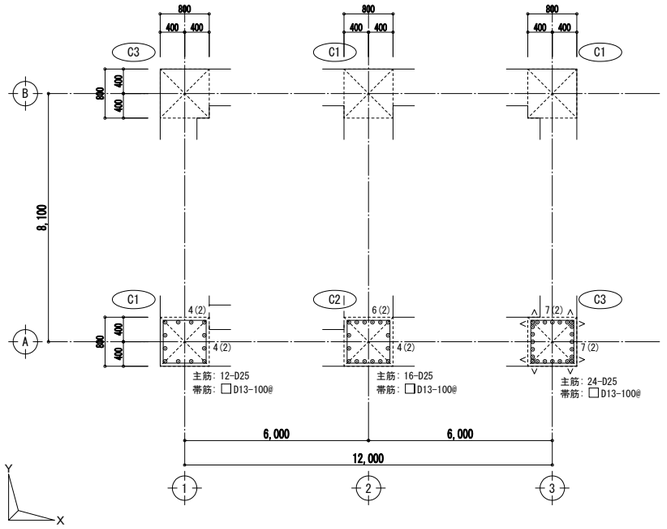
事業名	令和３年度 公共下水道事業		
工事名	波木汚水中継ポンプ場上屋建築工事		
工事場所	四日市市 波木町 地内		
名称	軸組図		
縮尺	1/200	設計年月日	令和 年 月 日
工種		設計者	
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	S-16



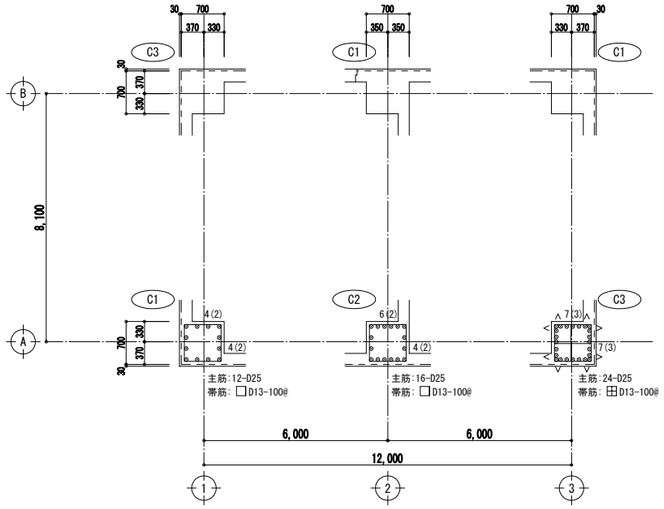
地下１階柱リスト　S=1/100, 1/200



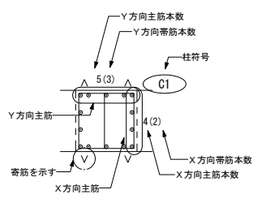
２階柱リスト　S=1/100, 1/200



水路階柱リスト　S=1/100, 1/200



１階柱リスト　S=1/100, 1/200



柱断面リスト　凡例

鉄筋記号凡例						
D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29
•	×	⌀	●	○	⊙	⊠

記号は1.5倍に表示している

事業名	令和３年度 公共下水道事業		
工事名	波木汚水中継ポンプ場上屋建築工事		
工事場所	四日市市　波木町 地内		
名称	柱リスト		
縮尺	1/100, 200	設計年月日	令和　年　月　日
工種		設計者	
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	S-17

大ばり断面表：土木工事

S=1/100
幅止め筋D13-1000@内外

階	記号	G1	GA	GB	GC
1F	位置	全断面	全断面	全断面	全断面
	b x D	500 x 800	500 x 800	500 x 1000	500 x 800
	上端筋	4-D25	4-D25	5-D25	4-D25
	断面				
	下端筋	4-D25	4-D25	5-D25	4-D25
	あばら筋	(2)□ D13-200@	(2)□ D13-200@	(2)□ D13-200@	(2)□ D13-200@
	腹筋	1-(2-D13)	1-(2-D13)	2-(2-D13)	1-(2-D13)
B1F	b x D	600 x 800	800 x 700	600 x 800	600 x 800
	上端筋	4-D25	5-D25	4-D25	4-D25
	断面				
	下端筋	4-D25	5-D25	4-D25	4-D25
	あばら筋	(2)□ D13-200@	(2)□ D13-150@	(2)□ D13-200@	(2)□ D13-200@
	腹筋	1-(2-D13)	1-(2-D13)	1-(2-D13)	1-(2-D13)

基礎ばり断面表：土木工事

S=1/100
幅止め筋D13-1000@内外

階	記号	FG1	FGA	FGB	FGC
B2F (水路階)	位置	全断面	全断面	全断面	全断面
	b x D	800 x 1000	800 x 1000	800 x 1000	800 x 1000
	上端筋	7-D25	7-D25	7-D25	7-D25
	断面				
	下端筋	7-D25	7-D25	7-D25	7-D25
	あばら筋	(2)□ D13-150@	(2)□ D13-150@	(2)□ D13-150@	(2)□ D13-150@
	腹筋	2-(2-D13)	2-(2-D13)	2-(2-D13)	2-(2-D13)

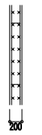
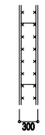
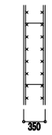
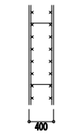
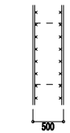
小ばり断面表（土木）

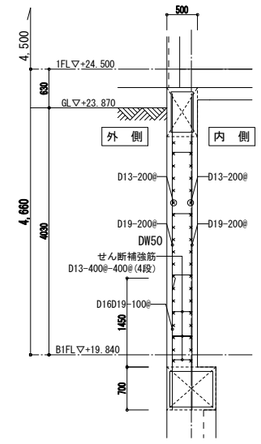
S=1/100
幅止め筋D13-1000@内外

階	記号	DB1		DB2			DB3		DB4	DB5
	位置	両端	中央	1,3端	中央	2端	両端	中央	全断面	全断面
1F・B1F	b x D	400 x 700		400 x 700			500 x 700		400 x 600	300 x 500
	上端筋	5-D22	4-D22	5-D22	5-D22	8-D22	5-D22	5-D22	3-D19	3-D19
	断面									
	下端筋	4-D22	8-D22	4-D22	4-D22	8-D22	5-D22	8-D22	3-D19	3-D19
	あばら筋	(3)□ D13-150@		(3)□ D13-150@			(2)□ D13-150@		(2)□ D13-200@	(2)□ D13-200@
	腹筋	1-(2-D13)		1-(2-D13)			1-(2-D13)		1-(2-D13)	-

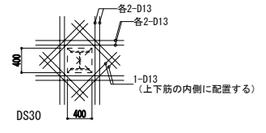
壁配筋表（土木）

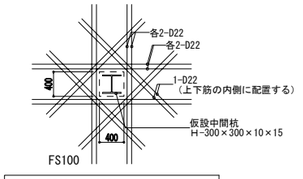
S=1/100

記号		DW20	KW20	DW30	DW35	DW40	DW50	DW60
鉛直断面								
縦筋	外側(上端)	D13-200@	D13-200@	D13-200@	D16-200@	D16-200@	D19-200@	D19-200@
	(下端)						D16D19-100@	
	内側(上端)	D13-200@	D13-200@	D13-200@	D16-200@	D16-200@	D19-200@	D19-200@
	(下端)							
横筋		D13-200@(D)	D13-200@(D)	D13-200@(D)	D13-200@(D)	D13-200@(D)	D13-200@(D)	D16-200@(D)
幅止め筋		D13-1000@	D13-1000@	D13-1000@	D13-1000@	D13-1000@	D13-1000@	D13-1000@
せん断補強筋		-	-	-	-	-	下部：D13-400@-400@	上部：D13-400@-200@ 下部：D13-400@-200@
一般開口補強筋								
縦筋		4-D16	4-D16	4-D16	4-D19	4-D19	4-D22	4-D22
横筋		4-D16	4-D16	4-D16	4-D16	4-D16	4-D16	4-D19
斜筋		2-D13	2-D13	2-D13	2-D13	2-D13	2-D13	2-D13



DW50断面配筋図　S= 1/100





仮設中間杭廻り補強　S= 1/100

スラブ配筋表（土木）

記号	版厚	位置	短辺方向（主筋）	長辺方向（配力筋）	せん断補強筋	備考
DS20	200	上端筋	D13-150@	D13-150@	—	1階ゲート室 B1階着水井中間版
		下端筋	D13-150@	D13-150@		
DS25	250	上端筋	D13-200@	D13-200@	—	1階自家発電機室
		下端筋	D13-200@	D13-200@		
DS30	300	上端筋	D13-200@	D13-200@	—	B1階ポンプ室 B1階階段室
		下端筋	D13-200@	D13-200@		
FS100	1000	上端筋	D22-150@	D22-150@	端部:D13-300@-300@	水路階 組立筋　D16-1000@
		下端筋	D22-150@	D22-150@		

鉄筋記号凡例						
D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29
•	×	⌀	●	○	⊙	⊠

記号は1.5倍に表示している

事業名	令和３年度 公共下水道事業		
工事名	波木汚水中継ポンプ場上屋建築工事		
工事場所	四日市市　波木町 地内		
名称	部材リスト(土木)		
縮尺	1/100	設計年月日	令和　年　月　日
工種		設計者	
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	S-18

大ばり断面表：建築工事　　S=1/100
幅止め筋D10-1000@内外

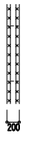
階	記号	G1	G1A	GA	GB	GC
RF	位置	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面
	b x D	450 x 800		450 x 800	450 x 900	450 x 800
	上端筋	3-D25		6-D25	6-D25	3-D25
	断面					
	下端筋	3-D25		4-D25	4-D25	3-D25
	あばら筋	(2)□ D13-200@		(2)□ D13-200@	(2)□ D13-200@	(2)□ D13-200@
	腹筋	1-(2-D10)		1-(2-D10)	2-(2-D10)	1-(2-D10)
2F	b x D	450 x 800	450 x 800	450 x 900	500 x 1000	450 x 800
	上端筋	3-D25	5-D25	6-D25	5-D25	3-D25
	断面					
	下端筋	3-D25	4-D25	4-D25	5-D25	3-D25
	あばら筋	(2)□ D13-200@	(2)□ D13-200@	(3)田 D13-150@	(2)□ D13-200@	(2)□ D13-200@
	腹筋	1-(2-D10)	1-(2-D10)	2-(2-D10)	2-(2-D10)	1-(2-D10)

小ばり断面表（建築）　　S=1/100
幅止め筋D10-1000@内外

記号	B1		B2		B3		B4	
位置	両端	中央	両端	中央	両端	中央	両端	中央
b x D	400 x 600		400 x 700		400 x 600		400 x 700	
上端筋	4-D19	4-D19	4-D19	4-D19	4-D19	4-D19	4-D19	4-D19
断面								
下端筋	4-D19	6-D19	4-D19	5-D19	4-D19	8-D19	4-D19	8-D19
あばら筋	(2)□ D10-150@		(2)□ D10-150@		(2)□ D13-200@		(2)□ D10-150@	
腹筋	1-(2-D10)		1-(2-D10)		1-(2-D10)		1-(2-D10)	

記号	B5	B0
位置	全断面	全断面
b x D	500 x 500	300 x 500
上端筋	4-D19	3-D19
断面		
下端筋	4-D19	3-D19
あばら筋	(2)□ D13-200@	(2)□ D10-200@
腹筋	-	-

壁配筋表（建築）

記号	W15	W18	EW18	EW20	KW15	KW18
鉛直断面						
縦筋	D10-200@(S)	D10-150@(D)	D10-150@(D)	D13-150@(D)	D10-200@(S)	D13-200@(D)
横筋	D10-200@(S)	D10-150@(D)	D10-150@(D)	D13-150@(D)	D10-200@(S)	D10-150@(D)
幅止め筋	-	D10-900@	D10-900@	D10-900@	D10-1000@	D10-900@
一般開口補強筋						
縦筋	1-D13	2-D13	4-D13	4-D16	1-D13	4-D16
横筋	1-D13	2-D13	4-D13	4-D16	1-D13	4-D13
斜筋	1-D13	2-D13	2-D13	2-D13	1-D13	2-D13

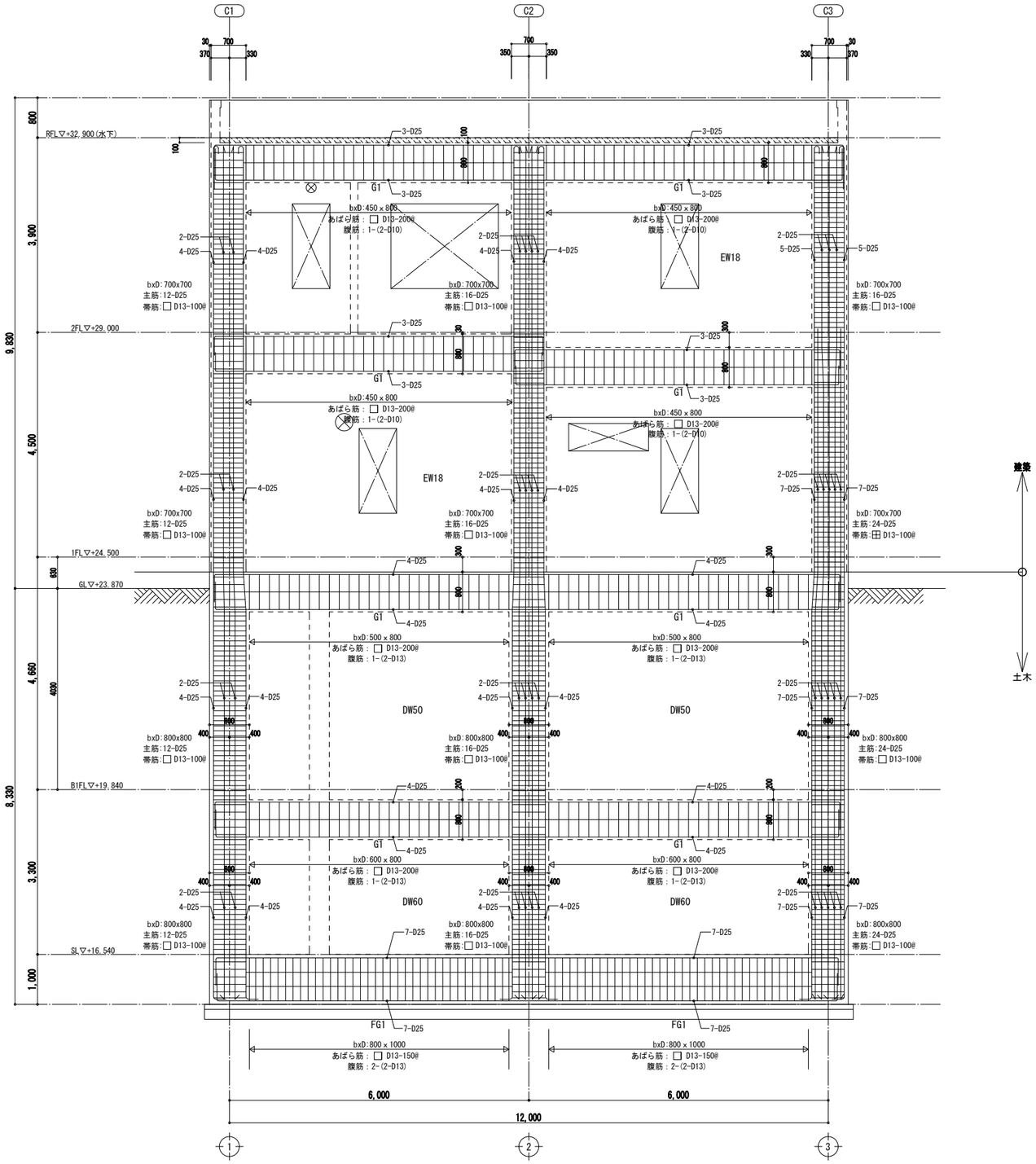
スラブ配筋表（建築）　　幅止め筋D10-1000@内外

記号	版厚	位置	短辺方向（主筋）	長辺方向（配力筋）	備考
S18	180	上端筋	D10D13-200@	D10D13-200@	R階屋根，2階換気機械室
		下端筋	D10D13-200@	D10D13-200@	
S20	200	上端筋	D13-200@	D13-200@	2階電気室
		下端筋	D13-200@	D13-200@	
CS20	200	上端筋	D13-100@	D13-200@	2階搬入バルコニー
		下端筋	D13-100@	D13-200@	

鉄筋記号凡例						
D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29
•	×	⌀	●	○	⊙	⊠

記号は1.5倍に表示している

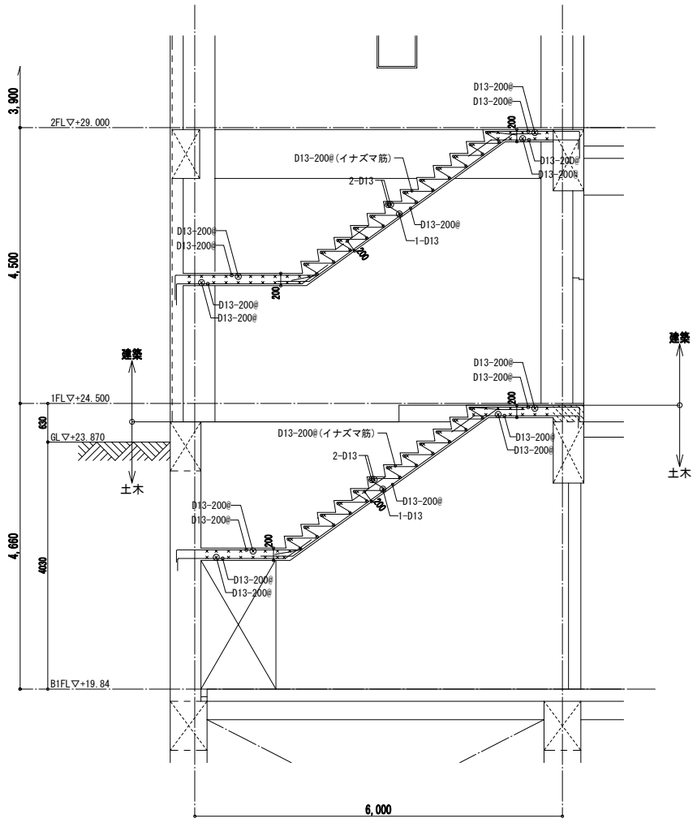
事業名	令和３年度 公共下水道事業		
工事名	波木汚水中継ポンプ場上屋建築工事		
工事場所	四日市市　波木町 地内		
名称	部材リスト(建築)		
縮尺	1/100	設計年月日	令和　年　月　日
工種		設計者	
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	S-19



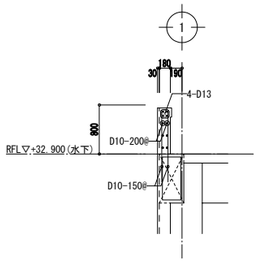
A通り架構配筋図　S=1/100

※ 柱梁接合部の帯筋はD13-150@とする。

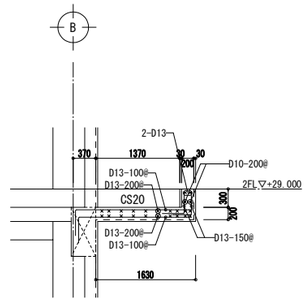
事業名	令和３年度 公共下水道事業		
工事名	波木汚水中継ポンプ場上屋建築工事		
工事場所	四日市市　波木町 地内		
名称	A通り架構配筋図		
縮尺	1/100	設計年月日	令和　年　月　日
工種		設計者	
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	S-20



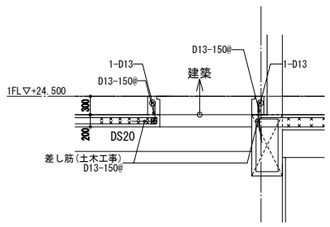
階段配筋図　S=1/100

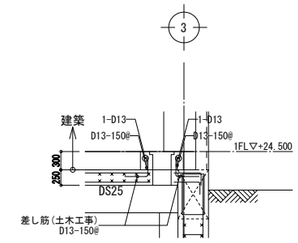


パラペット配筋図　S=1/100

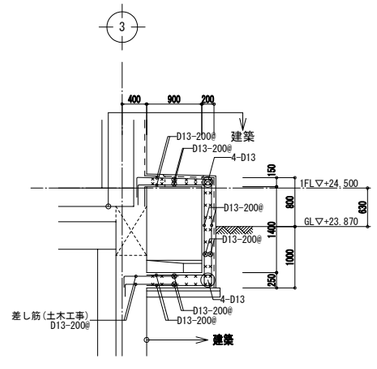


バルコニー配筋図　S=1/100

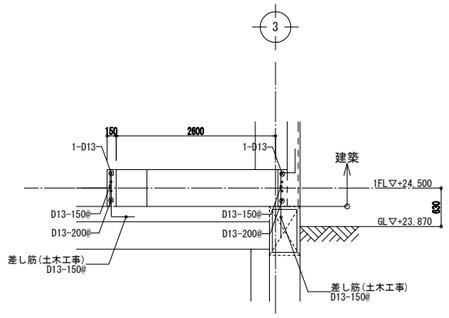




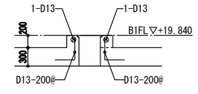
1F開口廻り立上り配筋要領図　S=1/100



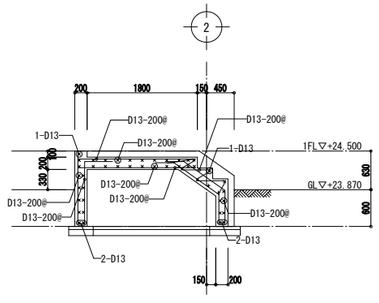
ハンドホール配筋図　S=1/100



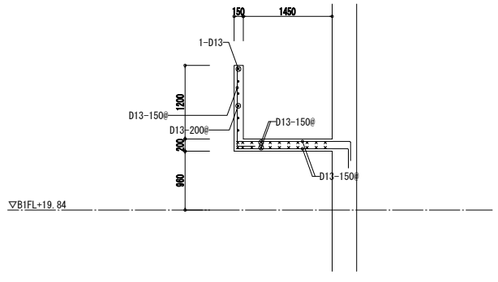
防液堤配筋図　S=1/100



B1F開口廻り立上り配筋要領図　S=1/100



屋外階段配筋図　S=1/100

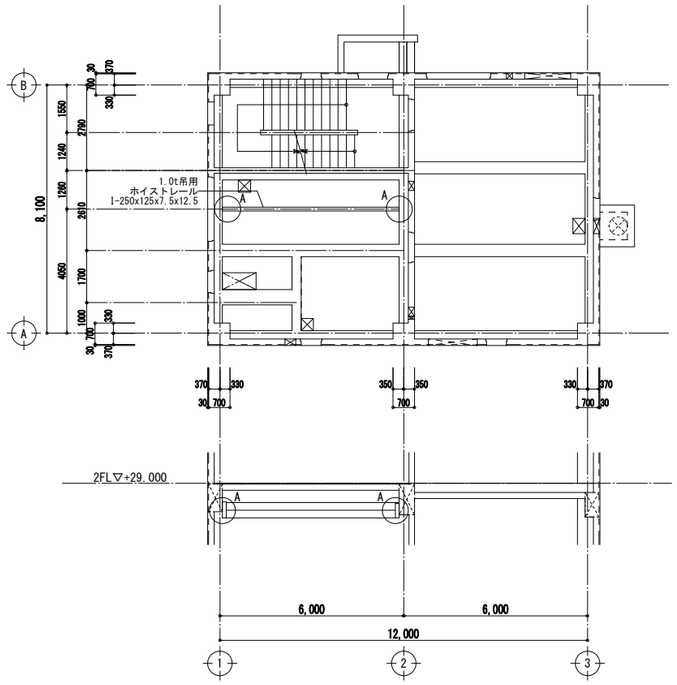


着水井中間版・手摺壁配筋図　S=1/100

鉄筋記号凡例						
D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29
•	×	⌀	●	○	⊙	⊠

記号は1.5倍に表示している

事業名	令和３年度 公共下水道事業		
工事名	波木汚水中継ポンプ場上屋建築工事		
工事場所	四日市市　波木町 地内		
名称	階段配筋図・雑配筋図		
縮尺	1/100	設計年月日	令和　年　月　日
工種		設計者	
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	S-21



2階伏図　S=1/200

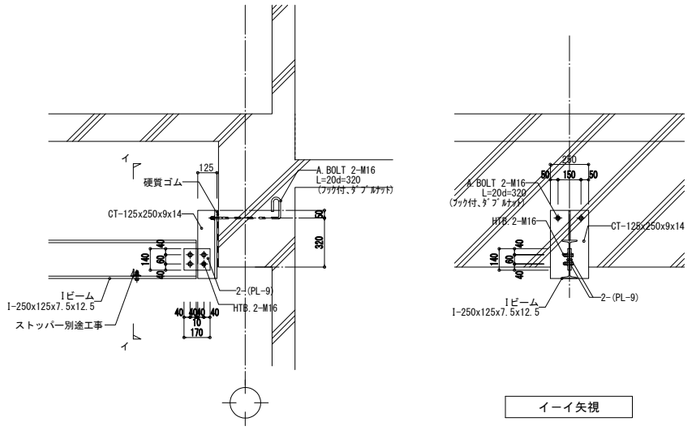
（見上げ図）

1階伏図　S=1/200

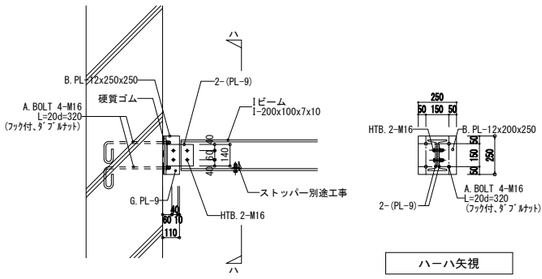
（見上げ図）

ホイストビーム取付詳細図　S=1/40

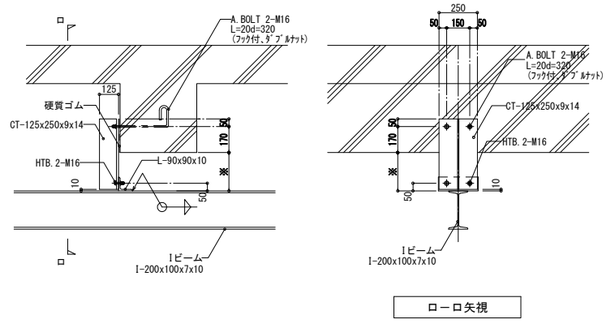
A部分



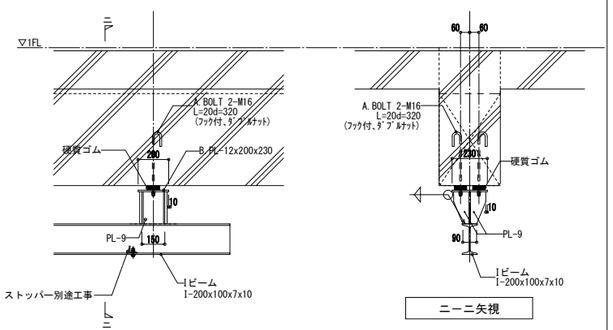
C部分



B部分



D部分



共通事項

鋼材	: SS400(JIS G 3101)
高力ボルト	: F8T(MBLT-0050同等品)
アンカーボルト	: SS400(JIS G 3101)
表面塗装仕様	: 溶融亜鉛メッキA種(JIS H 8641)

事業名	令和３年度 公共下水道事業		
工事名	波木汚水中継ポンプ場上屋建築工事		
工事場所	四日市市　波木町 地内		
名称	ホイストレール取付詳細図		
縮尺	1/40,200	設計年月日	令和　年　月　日
工種		設計者	
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	S-22